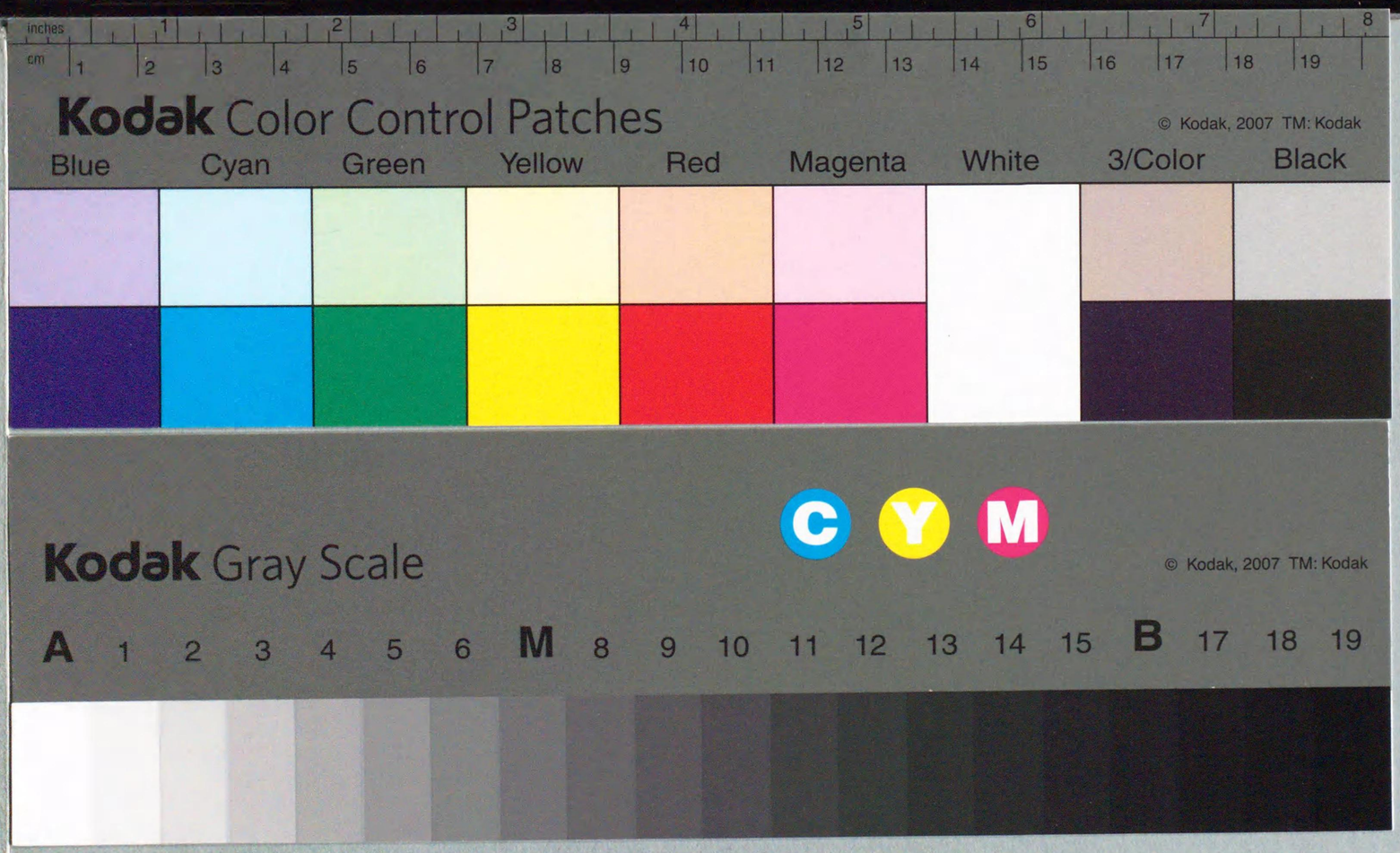
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

刑法各論

ネ六七一

刑法各論(第二編)

完

法學士 小疇傳講述

三十七年度法學講義録合本

第六七壹号

司法大臣指定
文部大臣認定
日本大學發行

金沢地方裁判所小松支部
33 3.31
受理
ナ 467 号

最高裁判所
図書館
明治文庫 4008
昭57 和

最高裁判所
図書館
983594
昭10.5

刑法各論（第二編）

目次

緒論 一丁
本論
第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 一〇丁
第一章 皇室ニ對スル罪 同 丁
第一節 危害罪 同 丁
第一項 犯罪ノ客體ハ天皇、三皇、皇太子又ハ皇族タルコトヲ要ス 一一丁
第二項 犯罪ノ内容ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス 同 丁
第三項 危害罪ノ處分方法 一三丁
第二節 不敬罪 一六丁
一 一七丁

刑法各論（第二編）

目次

緒論 一丁

本論

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪 一〇丁

第一章 皇室ニ對スル罪 同丁

第一節 危害罪 同丁

第一項 犯罪ノ客體ハ天皇、三皇、皇太子又ハ皇族タルコトヲ要ス 一一丁

同丁

第二項 犯罪ノ內容ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス 一三丁

第三項 危害罪ノ處分方法 一六丁

第二節 不敬罪 一七丁

裁判所図書館
983594

第一項　犯罪ノ客體ハ天皇、三皇、皇太子又ハ皇
陵若クハ皇族タルコトヲ要ス　一七丁
第二項　犯罪ノ內容ハ不敬ノ所爲タルコト
ヲ要ス　一八丁
第三項　不敬罪ノ處分方法　二二丁

第二章　國事ニ關スル罪　二三丁

第一節　內亂ニ關スル罪　二四丁

第一款　內亂罪　二五丁
第一項　第百二十一條ノ罪　二六丁
第一段　本條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　第百二十一條ノ罪ノ處分方法　二九丁
第二項　第百二十二條ノ罪　三二丁
第一段　第百二十二條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　第百二十二條ノ罪ノ處分　三六丁
第三項　第百二十三條ノ罪　三六丁
第一段　第百二十三條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　第百二十三條ノ罪ノ處分　四〇丁
第四項　第百二十一條乃至第百二十三條ノ
罪ノ未遂犯及其處分　四一丁
第五項　第百二十一條ノ罪ノ豫備犯及其處
分　四二丁
第六項　第百二十一條ノ罪ノ陰謀及其處分　四五丁
第七項　第百二十一條ノ罪ノ自首　四六丁
第二款　內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與
スル罪　四八丁
第一項　第百二十七條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二項　本罪ノ處分　五〇丁
第三款　內亂ニ乘シ內亂ノ目的以外ニ於テ人

ノ身體財産ニ對シテ犯シタル重罪、輕罪
第一項　第百二十八條ノ罪ノ成立要件　五一丁
第二項　第百二十八條ノ罪ノ處分方法　同丁
第二節　外患ニ關スル罪　五三丁
第一款　背叛罪　五四丁
第一項　第百二十九條ノ罪　同丁
第一段　第百二十九條ノ罪ノ成立要件　五五丁
第二段　第百二十九條ノ罪ノ處分　同丁
第二項　第三十條ノ罪　六〇丁
第一段　第百三十條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　本條ノ罪ノ處分　六一丁
第三項　第百三十一條ノ罪　六四丁
第一段　本條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　同丁
第四項　第百三十二條ノ罪　六九丁
第一段　本條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　同丁
第二款　外患ノ誘引ヲ成形スル罪　七二丁
第一項　第百三十三條ノ罪　同丁
第一段　本條ノ罪ノ成立要件　七三丁
第二段　本罪ノ處分　同丁
第二項　第百三十四條ノ罪　七五丁
第一段　第百三十四條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　七八丁
第三章　靜謐ヲ害スル罪　同丁
第一節　兇徒聚集ノ罪　八〇丁
第一項　暴動ヲ謀リタル罪　同丁

第一段　本罪ノ成立要件　八〇丁
第二段　本罪ノ處分方法　八四丁
第二項　暴動ヲ爲シタル罪　同丁
第一段　本罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　八五丁
第三項　暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫等ヲ燒毀シタル罪　八八丁
第一段　本罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　九二丁
第二節　官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪　九四丁
第一款　官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪　同丁
第一項　第百三十九條第一項ノ罪　九五丁
第一段　本罪ノ成立要件　同丁
第二段　第百三十九條第一項ノ罪ノ處分　一〇三丁
第二項　第百三十九條第二項ノ罪　一〇四丁
第一段　本罪ノ成立要件　同丁
第二段　第百三十九條第二項ノ罪ノ處分　一〇六丁
第三項　第百四十條ノ罪　一〇七丁
第一段　第百四十條ノ罪ノ成立要件　同丁
第二段　本罪ノ處分　同丁
第二款　官吏ノ職務ニ對スル侮辱罪　一一〇丁
第一項　本罪ノ成立要件　同丁
第三節　囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪　一一六丁
第一款　囚徒ノ逃走スル罪　同丁
第一項　單純ナル囚徒ノ逃走罪　同丁
第二項　複雜ナル囚徒逃走罪ノ成立要件　一二〇丁
第三項　單純及複雜ナル囚徒逃走罪ノ處分　一二二丁
第二款　囚徒ヲ逃走セシメタル罪　一二五丁

第一項　監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合　一二五丁
第一段　暴行脅迫ニ依ラサル場合　同　丁
第二段　暴行脅迫ニ依ル場合　一二七丁
第二項　監督ノ職責アル者ノ犯シタル場合　一二八丁
第一段　犯意ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合　同　丁
第二段　懈怠ニ依リ囚徒ヲ逃走セシメタル場合　一二九丁
第三款　犯罪ヲ庇護スルノ罪　同　丁
第一項　第百五十一條ノ罪　一三三丁
第二項　第百五十二條ノ罪　一三八丁
第三項　以上二個ノ罪ノ處分　一四〇丁
第四節　附加刑ノ執行ヲ遁ルヽ罪　一四一丁
第一項　第百五十四條ノ罪　同　丁
第二項　第百五十五條ノ罪　一四四丁
第五節　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及所有スル罪　一四八丁
第六節　往來通信ヲ妨害スル罪　一五三丁
第一款　往來ヲ妨害スル罪　同　丁
第一項　通路、橋梁等ヲ損壞スル罪　同　丁
第二項　瀛車ノ往來ヲ妨害スル罪　一五六丁
第三項　船舶ノ往來ヲ妨害スル罪　一五九丁
第二款　通信ヲ妨害スル罪　一六〇丁
第一項　郵便ヲ妨害スル罪　同　丁
第二項　電信ヲ妨害スル罪　一六二丁
第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪　一六三丁
第八節　官ノ封印ヲ破棄スル罪　一七二丁
第九節　公務ヲ行フヲ拒ム罪　一七八丁

第一款　出兵ノ要求ニ應セサル罪　一七八丁
第二款　徵兵ヲ忌避スル罪　一八二丁
第三款　解剖、分析、鑑定又ハ證言ヲ肯セサル罪　一九三丁
第四款　傳染病ヲ檢査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ肯セサル罪　一九七丁

第四章　信用ヲ害スル罪　一九八丁

第一節　貨幣ヲ僞造スル罪　一九九丁
第一項　內國通用ノ金銀貨及紙幣ヲ僞造シ又ハ變造シテ行使スル罪　二〇〇丁
第二項　內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造又ハ變造シテ行使スル罪　二〇六丁
第三項　官許ヲ得テ發行スル內外國銀行ノ紙幣ヲ僞造又ハ變造シテ行使スル罪　二〇八丁
第四項　內國通用ノ銅貨ヲ僞造又ハ變造シテ行使スル罪　二一〇丁
第五項　貨幣ノ僞造又ハ變造行使未遂以下ノ行爲　二一一丁
第六項　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造又ハ變造スル情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工及職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ノ處分　二一四丁
第七項　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造又ハ變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ノ處分　二二〇丁
第八項　行使スル目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入スル罪　二二一丁
第九項　行使スル目的ヲ以テ僞造、變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受スル罪　二二二丁

第十項　貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使スル罪　二二七丁
第二節　官印ヲ僞造スル罪　二二九丁
第一款　官印ヲ僞造シ又ハ僞印ヲ使用スル罪　二三〇丁
第二款　官印ノ影蹟ヲ盜用スル罪　二三九丁
第三款　各種ノ印紙、界紙及郵便切手ヲ僞造、變造又ハ使用スル罪　二四二丁
第四款　各種ノ印紙及郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪　二四五丁
第五款　本節ニ共通ノ規定　二四八丁
第三節　官ノ文書ヲ僞造スル罪　二四九丁
第一項　詔書ヲ僞造シ又ハ增減變換スル罪及詔書ヲ毀棄スルノ罪　二五〇丁

第二項　官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使スル罪及官ノ保管スル文書ヲ毀棄スル罪　二五三丁
第三項　官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使スル罪及官吏其管掌ニ係ル文書ヲ毀棄スル罪　二六五丁
第四項　官ノ文書ヲ僞造スルニ因テ官印ヲ僞造シ又ハ盜用スル罪　二七一丁
第五項　本節ニ共通ノ規定　同　丁
第四節　私印私書ヲ僞造スル罪　二七二丁
第一項　私書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使スル罪　同　丁
第二項　私印ヲ僞造シテ行使スル罪及私ノ印影ヲ盜用スル罪　二八一丁

第三項　本節ニ共通ノ規定　二八三丁
第五節　免狀、鑑札及疾病證書ヲ僞造スル罪　二八四丁
第一項　官ノ免狀、鑑札及疾病證書ヲ僞造又ハ增減變換シテ行使スル罪　同　丁
第二項　詐欺ノ所爲ヲ以テ免狀、鑑札ヲ受ケル罪及官吏情ヲ知テ其免狀、鑑札ヲ下附シタル罪　二八六丁
第三項　醫師囑託ヲ受ケテ詐僞ノ疾病證書ヲ作リタル罪　二八八丁
第六節　僞證ノ罪　二八九丁
第一款　刑事ニ關スル僞證ノ罪　同　丁
第一項　本罪ノ成立要件　同　丁
第二項　本罪ノ處分　二九五丁
第二款　民事、商事又ハ行政裁判ニ關スル僞證ノ罪　二九八丁
第三款　詐僞ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪　三〇〇丁
第四款　人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル罪　三〇一丁
第五款　本節ニ共通ノ規定　三〇二丁
第七節　度量衡ヲ僞造スル罪　三〇三丁
第八節　身分ヲ詐稱スル罪　三〇六丁
第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪　三〇八丁
第五章　健康ヲ害スル罪　三一一丁
第一節　阿片煙ニ關スル罪　三一二丁
第二節　飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪　三一四丁
第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪　三一五丁
第四節　危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪　同　丁

第五節　健康ヲ害スヘキ飲食物及藥劑ヲ販賣スル罪　三一五丁
第六節　私ニ醫業ヲ營ム爲ス罪　三一六丁
第六章　風俗ヲ害スル罪　三一八丁
第一節　公然猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物品ヲ公然陳列又ハ販賣スル罪　三一八丁
第二節　賭博及富籤ニ關スル罪　三二一丁
第一款　賭博ニ關スル罪　三二二丁
第一項　財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル罪　同　丁
第二項　賭博ノ情ヲ知テ房屋ヲ給與スル罪　三二八丁
第三項　賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結スル罪　三二九丁
第二款　富籤ニ關スル罪　三三〇丁
第三節　宗教ニ對スル罪　三三二丁
第七章　死屍ヲ毀棄シ及墳墓ヲ發掘スル罪
第一節　死屍ヲ毀棄スル罪　三三四丁
第二節　墳墓ヲ發掘スル罪　同　丁
第八章　商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪　三三七丁
第一節　物品ノ賣買ヲ妨害スル罪　三三九丁
第二節　糶賣又ハ入札ヲ妨害スル罪　三四〇丁
第三節　農工業ヲ妨害スル罪　三四一丁
第四節　需用物品ノ價値ヲ昂低セシムル罪　三四二丁
第九章　官吏贖職ノ罪　三四三丁
第一節　官吏公益ヲ害スル罪　三四四丁
第二節　官吏人民ニ對スル罪　三四六丁
第一款　官吏威權ヲ濫用スル罪　三四九丁
　　三五〇丁

第二款　人ノ身體財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ保護ノ處分ヲ爲サヽル罪　三五一丁
第三款　官吏不法ニ人ヲ逮捕監禁スル罪　三五三丁
第四款　囚人ヲ虐待スル罪　三五七丁
第五款　拷問ノ罪　三五八丁
第六款　刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル罪　三六〇丁
第七款　收賄罪　三六一丁
第八款　枉法ノ罪　三六八丁
第三節　官吏財産ニ對スル罪　同丁
第一款　官吏自カラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取スル罪　同丁
第二款　官吏正數外ノ金穀ヲ徵收スル罪　三七一丁

刑法各論(第二編)目次　終

最高裁判所図書館

刑法各論

法學士　小疇傳講述

緒論

我カ刑法ハ全編ヲ分チテ四編トシ第一編總則第二編公益ニ關スル重罪輕罪第三編身體財産ニ對スル重罪輕罪第四編違警罪トシ第一編ニ於テハ主トシテ犯罪ノ普通構成要件及ヒ犯罪發生ノ形式及ヒ犯罪ニ科スヘキ刑罰ノ種類ニ付テ規定シ第二編以下ニ於テハ各種ノ犯罪ニ關スル特別ノ成立要件及ヒ之ニ伴フヘキ刑罰ヲ規定セリ而シテ刑法各論ハ此等各種ノ犯罪ニ付テ其特別成立要件及ヒ之ニ伴フヘキ刑罰如何ヲ研究スルモノニシテ總則ト各論トハ相待テ刑法ノ研究ヲ完全ナラシムルモノナリ

我カ刑法ハ佛國刑法ニ倣ヒ第二編以下ニ於テ各種ノ重罪輕罪ヲ大別シテ二トシ

一ヲ公益ニ關スル重罪輕罪一ヲ身體財産ニ對スル重罪輕罪即チ私益ニ關スル重罪輕罪トセリ佛國刑法ニ於テ罪ヲ分テ公益ニ對スル罪私益ニ對スル罪ノ區別ヲ存スルハ羅馬法ノ公罪私罪ノ區別ヲ承繼シタルモノニシテ此區別タルヤ到底論理上明確ナル分類法ナリト云フコトヲ得ス何トナレハ刑法ニ於テ保護スル利益換言スレハ犯罪ニ依テ侵害スル法益ハ歸スル所ハ人類ノ生存ニシテ此ノ人類ノ生存ハ二個ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ得ヘク即チ(一)個人トシテノ存在(二)共同團體ノ一員トシテノ存在ニ區別スルコトヲ得ヘク假リニ前者ヲ私益ト謂ヒ後者ヲ公益ト謂フモ刑法ニ於テ保護スル所ノ利益ハ必ス何レカ其一ニ屬スヘク一個ノ法條ニシテ同時ニ公益私益雙方ヲ保護スルコトヲ得ストノ理由ヲ發見セサルノミナラス人類ノ生存ニ對スル攻擊モ亦同時ニ二個ノ方面ニ向フコトアリ得ヘキヲ以テ假リニ法益ヲ分テ私益及ヒ公益ト分類スルコトヲ得ルトスルモ此利益ニ對スル攻擊ヲ分テ確然公益ニノミ對スル攻擊及ヒ私益ニノミ對スル攻擊ト區劃スルコトヲ得ス例ヘハ官吏人民ニ對スル罪ノ如キ誣告罪ノ如キ一面ニ於テ國家ノ行政ヲ侵害スルト同時ニ一面ニ於テハ個人ノ利益ヲ害スヘキヲ以テ此種ノ犯

罪ハ以上二大分類中何レニモ屬セサルモノト云ハサルヘカラス

此ノ如ク罪ヲ分テ公益ニ關スル罪私益ニ關スル罪ノ二トナスコトハ甚タ困難ナルノミナラス犯罪ノ類別ヲ明瞭ナラシムルノ途ニアラサルカ故ニ近世歐洲諸國ノ刑法ハ逐次此區別ヲ廢シ而シテ刑法カ保護スル各種ノ利益ヲ標準トシテ之レカ類別ヲ立ツルニ至レリ

例ヘハ白耳義刑法ハ左ノ如ク分類セリ

一　國ノ安寧ニ對スル罪
二　國憲ニ對スル罪
三　公ノ信用ニ關スル罪
四　官吏敎職公ノ秩序ニ對スル罪
五　常人公ノ秩序ニ對スル罪
六　公ノ靜謐ニ對スル罪
七　親族間ノ秩序及ヒ一般ノ風敎ニ對スル罪
八　身體ニ對スル罪

九　財産ニ對スル罪
十　違警罪

伊太利刑法ハ左ノ如ク分類セリ

一　國ノ安寧ニ對スル罪
二　自由ヲ害スル罪
三　一般ノ行政ヲ害スル罪
四　司法管理ヲ害スル罪
五　公ノ秩序ヲ害スル罪
六　一般ノ信用ヲ害スル罪
七　公ノ安寧ヲ害スル罪
八　善良ノ風俗及ヒ親屬間ノ秩序ヲ害スル罪
九　身體ニ對スル罪
十　財産ニ對スル罪
十一　違警罪

我刑法改正案ハ左ノ如ク分類シタリ

一　皇室ニ對スル罪
二　內亂ニ對スル罪
三　外患ニ對スル罪
四　國交ニ關スル罪
五　公務ノ執行ヲ妨害スル罪
六　被拘禁者逃走ノ罪
七　罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪
八　多衆聚合ノ罪
九　放火及ヒ失火ノ罪
十　溢水及ヒ水利ニ關スル罪
十一　往來通信ヲ妨害スル罪
十二　住居ヲ侵ス罪
十三　秘密ヲ侵ス罪

十四　阿片煙ニ關スル罪
十五　飲料水ニ關スル罪
十六　通貨僞造ノ罪
十七　文書僞造ノ罪
十八　有價證券僞造ノ罪
十九　印章僞造ノ罪
二十　僞證ノ罪
二十一　誣告ノ罪
二十二　猥褻及ヒ重婚ノ罪
二十三　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪
二十四　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪
二十五　瀆職ノ罪
二十六　殺人ノ罪
二十七　傷害ノ罪

二十八　過失傷害ノ罪
二十九　墮胎ノ罪
三十　老者幼者及ヒ病者ノ保護ヲ缺ク罪
三十一　逮捕及ヒ監禁ノ罪
三十二　脅迫ノ罪
三十三　人ヲ拐取スル罪
三十四　名譽ニ對スル罪
三十五　賊盜ノ罪
三十六　占有物横領ノ罪
三十七　贓物ニ關スル罪
三十八　財物毀棄ノ罪

現行刑法ハ第二編第三編ニ於テ重罪輕罪ヲ混同シテ規定シナカラ違警罪ニ付テハ別ニ第四編ヲ設ケタルハ是亦正當ナル分類法ト云フコトヲ得ス何トナレハ違警罪ノ大部分ハ警察犯(第四編違警罪ノ說明參照)ニ屬スト雖モ其以外ノ違警罪ハ

重罪輕罪ト其性質ニ於テ異ナルナク反之重罪輕罪中ニテモ警察犯ニ屬スルモノハ他ノ重罪輕罪ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ特ニ違警罪ニ付キ重罪輕罪ト編ヲ異ニシテ規定スルノ必要ナク要之罪ヲ刑事犯及ヒ警察犯ノ二個ニ分類スルコトハ敢テ失當ニアラスト雖モ此ノ區別ノ標準ニ基カスシテ罪ヲ重罪輕罪違警罪ニ分類スルコトハ罪ノ性質ニ基ク分類法ナリト云フコトヲ得ス

獨乙刑法學者フオンリスト氏ハ獨乙刑法各論説明ノ冒頭ニ於テ曰ク法律カ保護スル所ノ利益(法益)ハ種々アルヘシト雖モ其歸スル所ハ一ノミ即チ人類ノ存在ヲ全フセシムルニアリ換言スレハ人類ノ存在ハ二個ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルコトヲ得ヘシ即チ(一)個人トシテノ存在(二)共同團體ノ一員トシテノ存在是ナリ刑法ニ於テ保護スル所ノ利益モ又此ノ二個ノ方面ニ於ケル人類ノ存在ニ外ナラサルナリ換言スレハ刑法ニ於テ保護スル利益ハ(一)個人ノ利益(二)共同團體ノ利益ニ分ツコトヲ得ヘシ(マイエル氏クラインフェルレル氏モ同一ノ分類法ヲ取リビルクマイェル氏フインゲル氏等ハ共同團體ヲ分ツテ更ニ國家ト社會トニ區別セリ)而シテ(第一)個人ノ利益中ニハ(一)肉體生活ノ利益(二)肉體

外ノ利益(無形ノ利益即チ(イ)名譽(ロ)意思實行ノ自由(ハ)貞操(色情ニ基キ自己ノ身體ヲ自由ニ處分スルコト)及ヒ風儀上ノ感覺(ニ)親族關係(ホ)宗教上ノ感覺(ヘ)家宅ノ自由ナル管理(ト)陰私(チ)權利享有ニ關スル安心)(三)創造權(特許權商號商標意匠專用權著作權ノ類)(四)財產權ヲ列擧シ即チ

第一　個人ノ利益ニ對スル罪ヲ分テ更ニ左ノ如ク區別セリ

一　肉體及ヒ生命ニ對スル罪

二　肉體外ノ法益ニ對スル罪

三　創造權ニ對スル罪

四　財產ニ對スル罪

五　特定ノ攻擊方法ニ依ル特種ノ犯罪即チ公衆ニ危險ナル犯罪(例ヘハ放火決水往來通信ヲ害スル罪ノ類)及ヒ爆烈物ニ關スル罪及ヒ貨幣僞造私書僞造等ヲ包含ス(フオイエルバッハ氏レーニング氏オッペンハイム氏フインゲル氏モ此ノ種ノ犯罪ヲ認メリ)

第二　共同團體ニ對スル犯罪ヲ左ノ如ク分類セリ

一　國家ニ對スル犯罪(政治犯)
二　國權ニ對スル犯罪
三　國ノ行政ニ對スル犯罪

然レトモ以上罪ヲ二大分類スルコトハ前ニ說明シタルカ如ク到低精確ナル區別ヲ保ツコトヲ得サルヘシト雖モ本講ニ於テハ暫ク現行法規ノ分類ニ從ヒ編ヲ逐フテ說明セントス

本論

第一編　公益ニ關スル重罪、輕罪

第一章　皇室ニ對スル罪

本章皇室ニ對スル罪ハ第百十六條乃至第百二十條ノ五ケ條ヲ包含スル而シテ其規定スル犯罪ヲ大別スレハ左ノ如シ

第一　皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル罪(假リニ危害罪ト稱ス)
第二　皇室ニ對スル不敬ノ罪(假リニ不敬罪ト稱ス)

余ハ便宜ノ爲メ以下二節ニ分テ之ヲ說明セントス

第一節　危害罪

皇室ニ對スル危害罪ハ刑法第百十六條及第百十八條ニ規定セリ第百十六條ニ曰ク「天皇、三后、皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス」又第百十八條ニ曰ク「皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタルモノハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタルモノハ無期徒刑ニ處ス」

以上二个條ハ何レモ危害ト云フコトヲ以テ犯罪行爲ノ內容トセリ故ニ此等各條ニ規定スル犯罪ヲ總稱シテ假リニ危害罪ト稱ス今廣ク危害罪ノ特別構成要件ヲ分析スレハ左ノ如シ

一、犯罪ノ客體(相手方)ハ天皇、三后、皇太子又ハ皇族タルコト
二、犯罪ノ內容(所爲)ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコト

以下項ヲ分テ說明スヘシ

第一項　犯罪ノ客體ハ天皇、三后、皇太子又ハ皇族タルコトヲ要ス

(イ)　天皇トハ皇室典範第一章ノ規定ニ基キ皇位ヲ繼承シ大日本帝國ヲ統治シ

賜フ御方ヲ奉稱ス、隨テ外國君主、大統領ヲ包含セサルコト勿論ナリトス又我國古來ノ慣習ニ依レハ万世一系ノ皇位ヲ踐マレタル御方ニシテ御在世中一タヒ位ヲ去リ賜フトキハ太上天皇ト稱シタルコトアルモ現行皇室典範ノ規定ニ依レハ天皇ハ御在世中皇位ヲ去リ賜フコトナキヲ以テ太上天皇ノ制ハ廢セラレタルモノト言ハサルヘカラス隨テ爰ニ天皇ト稱スルハ太上天皇ヲ包含スルヤ否ヤノ問題ハ論スルノ必要ナキニ至レリ

(ロ) 三后トハ皇后、皇太后、太皇太后ヲ奉稱ス而シテ(一)皇后トハ皇室典範第十六條ノ規定ニ基キ天皇ノ配偶者タル地位ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス(二)皇太后トハ先帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱ス(三)太皇太后トハ先々帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱ス隨テ天皇ノ御母君又ハ御祖母君ハ必スシモ皇太后又ハ太皇太后タリト云フコトヲ得ス此點ハ注意スルコトヲ要ス

(ハ) 皇太子トハ皇室典範第十五條第十六條ノ規定ニ依リ儲嗣タル地位ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス而シテ同典ニハ皇太孫ノ制ヲ設ケレラタルモ刑法ニ所謂皇太子中ニハ包含セラレス然レトモ等シク儲嗣タル地位ニ立タセ賜

フ御方ナレハ皇太孫モ同シク第百十六條中ニ皇太子ト併記スルヲ相當トス此點ハ現行刑法ノ欠點ナリトス

(ニ) 皇族トハ皇室典範第三十條ニ列記スル御方ノ內前記ノ皇后、皇太后、太皇太后、皇太子ヲ除キタル以外ノ御方ヲ總稱ス即チ皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王親王妃、內親王、王、王妃、女王ヲ云フ

第二項　犯罪ノ內容ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス

茲ニ所謂危害トハ如何ナル害惡ヲ意味スルヤ單ニ文字ノ上ヨリ見ルトキハ頗ル汎博ニシテ身體財產ニ對スル總テノ傷害ヲ包含スルカ如シト雖モ本法中他ノ條項ニ用ヒラレタル危害ナル文字及ヒ本條ノ規定ニ相當スル佛文草案ノ規定及ヒ次條ノ不敬罪ト對照スルトキハ略ホ其ノ眞意ノ存スル所ヲ確ムルコトヲ得ヘシ即チ(一)第二編第五章第四節ニハ危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品云々トアリテ危害ナル文字ハ健康ヲ害スルコトニ相對シテ身體ニ對スル傷害ヲ意味スルカ如シ(刑法第二百五(十二)條參照)(二)本條ニ相當スル佛文草案第百三十一條ニハ身體ニ對スル犯罪ト

アリテ現行刑法確定ノ際右草案ノ旨意ヲ變更シタリト見ルヘキ證左ナク(三)次條第百十七條ニ不敬罪ヲ規定セルカ故ニ爰ニ所謂危害ナル文字ハ名譽ニ對スル傷害ヲ包含セサルコト明カナリトス依是觀之茲ニ所謂危害トハ生命、肉體、自由、貞操ニ對スル傷害ヲ意味スルモノト斷定セサル可カラス

本條ノ罪ノ成立ニ必要ナル犯意ニ付テ一言スレハ法文ニハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルモノトアルヲ以テ苟クモ前ニ說明シタル危害ヲ與フルノ意思アルトキハ其遠因ノ如何ハ敢テ問フ處ニアラス隨テ犯人決意ノ原因カ天皇以下皇族ノ御方ヲ殺害セントスルニアルト單ニ毆打セントスルニアルト或ハ之ヲ不法制縛監禁セントスルニアルトヲ問ハス苟クモ危害ヲ加フルノ意思ヲ以テ危害ヲ與ヘタルトキハ茲ニ本犯罪ハ成立スルモノニシテ其遠因タル目的ヲ達シタルト否トハ問フ所ニアラサルナリ若シ然ラストセハ皇族ニ對シテ毆打微傷ヲ與ヘント欲シテ其目的ヲ遂ケタルモノハ死刑ニ處セラルヽニ反シ皇族ヲ殺害セント欲シテ之ニ着手シ重傷ヲ負ハシメタルモ未タ其目的ヲ遂ケサリシ場合ニ於テハ却テ輕キ無期徒刑ニ處セラルヽカ如キ不權衡ヲ來スヲ以テ本犯ノ犯意ハ單ニ危害ヲ與

フルノ意思アレハ足ルモノト言ハサル可カラス

法文ニ「危害ヲ加ヘントシタルモノ」トアルハ前段ニ所謂危害ヲ加ヘタル犯罪ニ對シテ獨立ノ犯罪ナリヤ果タ其未遂以下ノ狀態ヲ指示スルモノナリヤト云フニ凡ソ犯罪ノ既遂タルニハ犯意ト犯意ニ基ク所爲ト一致シタルコトヲ要ス而シテ本問ノ場合ニ於テ危害ヲ加ヘントシタルモノハ前段危害ヲ加ヘタルモノトアルニ對照シ未タ犯意ヲ遂ケサリシモノト解セサル可カラス隨テ本問ハ未遂以下ノ狀態ヲ規定スルモノト斷定セサル可カラス果シテ然ラハ所謂危害ヲ加ヘントシタルモノトハ未遂以下何レノ狀態迄ヲ包含スルモノナルヤヲ講究セサルヘカラス單ニ法文ノミニ依テ考フルトキハ危害ヲ加ヘントノ決意ヨリ豫備着手ニ至ル總テノ狀態ヲ包含スルカ如キモ凡ソ刑法ハ人類ノ心裡內ノ狀態ヲ强制スヘキモノニアラス故ニ假令罪ヲ犯スノ決意ヲ形クルモ未タ其決意カ所爲ニ顯ハレサル以上ハ之ヲ處罰セサルコトハ刑法上ノ大原則タリ而シテ大惡罪ニ限リテハ國家ハ特ニ其危險ヲ豫防スル爲メニ其豫備陰謀ヲモ之ヲ處罰スルノ例外ヲ設ケタリ本法第百十一條ニ「罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハ

サル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニアラサレハ其刑ヲ科セス」ト規定シ本條法文ニ危害ヲ加ヘントシタルモノトアルハ第百十一條及ヒ第百十二條ノ一例ニ屬ス即チ危害ヲ加ヘントノ陰謀(特定ノ罪ヲ犯スニ付二人以上合意スルコトヲ謂フ)豫備着手未遂ヲ包含スルモノト解釋スヘキナリ而シテ本罪ハ(一)陰謀ヨリ既遂ニ至ル迄等シク之ヲ處罰スルカ故ニ中止犯ヲ理由トシテ刑罰ヲ免ルヽコトヲ得ス(二)豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助スル者(從犯者)ニ對シテ刑法第百九條ノ減等ヲ與フルコトヲ得ス

第三項　危害罪ノ處分方法

危害罪ノ處分ニ付テハ(一)客體カ天皇、三后、皇太子ナルトキハ之ニ危害ヲ加ヘタルト危害ヲ加ヘントシタルトヲ問ハス等シク死刑ニ處シ(刑法百十六條參照)、(二)客體カ三后、皇太子以外ノ皇族ナルトキハ危害ヲ加ヘ了リタル場合トヲ區別シ前者ニ對シテハ死刑ヲ科シ後者ニ對シテハ無期徒刑ヲ科ス(刑法百十八條參照)而シテ(一)(二)ノ刑ニシテ減輕ノ結果輕罪ノ刑ニ處セラルヽトキハ六月以上二年以下ノ監視ヲ附加ス但シ重罪ノ刑ニ處スルトキハ別ニ宣告ヲ用ヒスシテ監視ヲ附加ス(刑法三十七條三十九條參照)

第二節　不敬罪

皇室ニ對スル不敬罪ハ第百十七條第百十九條ニ規定セリ而シテ各條ヲ案スルニ何レモ不敬ノ行爲ヲ以テ犯罪ノ內容トセリ故ニ假リニ此種ノ犯罪ヲ不敬罪ト稱ス其特別構成要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一)　犯罪ノ客體ハ天皇、三后、皇太子又ハ皇陵若クハ皇族タルコト

(二)　犯罪ノ內容ハ不敬ノ所爲タルコト

以下項ヲ分テ說明スヘシ

第一項　犯罪ノ客體ハ天皇、三后、皇太子又ハ皇陵若クハ皇族タルコトヲ要ス

(イ)　天皇、三后、皇太子、皇族ノ意義ニ付テハ前段ニ於テ詳說シタルヲ以テ更ニ贅セス

(ロ)　皇陵トハ御歷代ノ天皇ノ御墳墓ヲ總稱ス蓋シ國語「ミサヽギ」即チ陵ト稱スルハ專ラ天皇ノ御墳墓ノミヲ指スノミナラス字義ニ依テ案スルモ皇ト云フ

ハ皇太子、皇后、皇族、皇室ト云フカ如ク常ニ「オホキミ」ノ又ハ「スメラキ」ノ即チ天皇ノト云フ形容詞ナリ故ニ皇陵トハ「オホキミ」ノ即チ天皇ノ御墳墓ト解スルヲ至當トス

第二項　犯罪ノ内容ハ不敬ノ所爲タルコトヲ要ス

本節ニ所謂不敬ノ行爲トハ皇室ニ對スル尊敬ヲ汚瀆シ又ハ汚瀆スルノ恐レアル性質ノ行爲ヲ總稱スル而シテ法文ニハ單ニ不敬ノ爲行トノミアリテ其程度方法等ニ付テハ何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ(一)天皇、三后、皇太子、皇族ニ對シテハ誹毀傷辱(名譽毀損ノ說明參照)ヲ含ム而シテ天皇ヲ誹毀スル場合ニ於テ天皇ノ施政上ノ行爲(天皇ノ命令ニ大臣ノ副署アル場合ニ於テモ亦同シ)ニ關スルト私行ニ關スルトハ本罪ノ成立ニ影響ナシ又天皇ノ即位前ニ於ケル行爲ニ關スルト否トハ問フ所ニ非ス皇陵ニ對シテハ之レヲ汚穢シ之レヲ發掘スルノ類ハ勿論其ノ他ノ所爲ト雖モ不敬ノ行爲ト認ムヘキモノ夥多アルヘキナリ(二)不敬ノ行爲ハ言語文章形容何レヲ以テスルモ本罪ノ成立ニ缺クル所ナシ(三)法文ニハ不敬ノ行爲ハ積極的タルト消極的タルトヲ區別セス隨ッテ積極的ニ罵詈嘲笑シタルカ如キ場

合ハ勿論唯敬禮ヲ行ハサリシト云フカ如キ消極的ノ行爲ト雖モ苟モ義務ニ違犯シタル不作爲ナル以上ハ不敬ノ行爲ト云フコトヲ得ヘク(四)不敬ノ行爲ハ公然タルト否トヲ問ハス苟モ犯人以外ノ者ニ依リテ不敬ノ結果カ認識セラレタルトキヲ以テ既遂トナル而シテ不敬罪ニ付テモ未遂ノ狀態アリ得ヘキモ法律ハ之レヲ處罰セス

茲ニ注意スヘキハ本罪ノ成立ニ付テハ總則ノ適用トシテ必ス犯意即チ天皇、三后、皇太子、皇陵、皇族ニ對シテ不敬ヲ要ス故ニ假令不敬ノ結果ヲ生スヘキ所爲アルモ不敬ナル結果ノ發生ヲ豫見スルニアラサレハ本罪ヲ構成セス(刑法第七十七條參照)例之田舍ノ朴翁禮ニ傲ハス鹵簿ヲ拜シテ感動ノ餘リ賽錢ヲ投シタルカ如キハ偶々過テ不敬ノ結果ヲ生スルコトアルモ行爲者ニ於テ毫末モ不敬ヲ加ヘントノ意思ナキモノナルカ故ニ當然無罪タルコトハ刑法學者カ屢々引用スル好適例ナリトス但シ犯人ニ於テ不敬ノ結果ヲ生スヘキコトヲ豫見シタルヤ否ヤハ各場合ニ付テ決スヘキ事實問題トス終リニ望ンテ本罪ニ關スル一ノ疑問ヲ解說セント欲ス

御歴代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲ヲ刑法第百十七條ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ否ヤ

本問ハ久シク本邦刑法學者ノ論爭スル所ナリト雖モ吾輩ハ本問ヲ二ケノ場合ニ區別シテ之ヲ說明セント欲ス

（イ）今上天皇ニ對シ侮辱ヲ加フルノ手段トシテ御歴代ノ天皇ニ對シ不敬ノ所爲アリシ場合

刑法第百十七條ニ規定スル不敬罪ハ其不敬ノ所爲ニ付テ手段方法ヲ制限セス苟クモ犯人ノ取リタル方法ニシテ天皇、三后、皇太子ヲ侮辱スルノ意思ニ出テ其結果ヲ生シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス故ニ犯人ニ於テ今上天皇ヲ侮辱スル意思ヲ以テ（犯意）其ノ手段方法トシテ例ヘハ前代天皇ノ非行ヲ摘發シ依テ今上天皇ヲ誹毀シタルトキハ明カニ本條ノ不敬罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス」

（ロ）今上天皇ヲ侮辱スルノ意思ナク單ニ歴代ノ天皇ニ對シ不敬ノ行爲アリシ場合

例ヘハ今上天皇ノ御聖德ヲ稱贊シ奉ルノ目的ヲ以テ御歴代ノ天皇中特ニ暴虐ナリシ御方ノ非行ヲ摘發シ今日ノ聖代ニ生レタル臣民ハ實ニ幸福ナリト言フカ如キ意味ノ文章ヲ綴ルトキハ其結果偶々今上天皇ニ對シ不敬ノ結果ヲ生スルコトアリトスルモ犯人ニ於テハ其結果ヲ豫見セサリシモノナレハ此場合ニ於テハ刑法第百十七條ノ不敬罪ヲ以テ論スルコトヲ得サルナリ。而シテ刑法第三百五十九條ニ「死者ヲ誹毀シタルモノハ誣罔ニ出テタルニアラサレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス」ト規定セルハ死者ノ名譽ヲ毀損シタリトシテ之ヲ處罰スルニアラス同條ハ死者ニ對スル誹毀ハ死者ノ近親ニシテ生存セル者全體ノ名譽ヲ毀損スルモノトシテ特ニ之ヲ處罰スルモノナリ（同條說明參照）要之同條ハ特定ノ生存者ヲ誹毀スル犯意ナク單ニ死者ヲ誹毀シタル場合ニ限リ適用アル特別規定ニシテ前條第三百五十八條ノ例示規定ニアラス而シテ本節ニハ此ノ如キ特別規定ノ設ケナキヲ以テ今上天皇ヲ誹毀スルトキハ單ニ刑法第三百五十九條ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘキモ本節皇室ニ對スル不敬罪ヲ以テ論スルコトヲ得サルナリ但シ皇陵ニ對スル不敬罪ニ付テハ第百十七條第二項ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケタリ

不敬罪ニ關スル現行刑法ノ欠點ヲ摘示スレハ左ノ如シ

一、第百十七條第一項ニ皇太子ヲ規定シテ皇太孫ヲ併記セサルコト蓋シ皇太孫ハ皇太子ノアラサル場合ニ於テ儲嗣ノ地位ニ立タセ賜フ所ノ御方ナレハ刑法上ニ於テモ皇太子ト同等ノ保護ヲ與フルヲ以テ至當トス

二、同條第二項ノ皇陵ニ對スル不敬罪ノ規定ヲ削リ廣ク神皇及歷代ノ天皇ニ對スル不敬ト改メ不敬ノ客體ヲ擴張スルト同時ニ其手段モ亦皇陵ニ對スル行爲ニノミ限ラサルコトヽシ以テ皇室ノ尊嚴ヲ完全ナラシメサル可カラス

三、第百十九條ノ皇族ニ對スル不敬罪ノ範圍ヲ擴クシ前代ノ皇族ニ對スル不敬ノ所爲モ亦之ヲ同樣處罰スルノ規定ヲ設ケサル可カラス

第三項　不敬罪ノ處分方法

(一)天皇、三后皇太子ニ對シ又ハ皇陵ニ對シテ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法百十七條參照)

(二)皇族ニ對シ不敬ノ所爲アルモノハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二章　國事ニ關スル罪

國事犯(又ハ政治犯)ハ其性質上(一)國法ノ上ニ於テモ常事犯ト其刑罰ヲ異ニシ(常事犯ニ比シテ其刑ヲ加重スヘキモ侮辱的性質ノ刑ヲ科セサルコト)(二)國際間ノ共助ニ付テモ特別ノ取扱ヲ受ク(政治犯人ハ國際間ニ於ル犯人引渡ノ目的トナラサルヲ原則トス)

國事犯ノ本質ハ國家自體ニ對スル攻擊ニシテ國權ニ對スル攻擊及ヒ國ノ行政ニ對スル攻擊ト區別スヘキナリ而シテ國事犯ハ羅馬法以來ノ沿革ニ徵シテ之ヲ左ノ三種ニ區別シテ說明スルヲ便宜トス

一、國家內部ノ秩序ニ對スル攻擊換言スレハ其成文法タルト不文法タルトヲ問ハス一國ノ憲法ニ對スル攻擊ニシテ例ヘハ國土及ヒ國權ノ主體ニ對スル犯罪(此ノ種ノ犯罪ヲ稱シテ外患罪ト謂フ)及ヒ

二、一國ノ對外的安固ニ對スル攻擊(此ノ種ノ犯罪ヲ稱シテ內亂罪ト謂フ)及ヒ武裝的平時ノ時ニ於テ軍備ニ對スル攻擊(此ノ種ノ犯罪ヲ稱シテ軍事上ノ機密漏洩罪ト謂フ)

三、外國ニ對スル攻撃即チ國際間ノ和親ヲ害シ延ヒテ自國ノ利益ヲ害スル罪

以上ノ分類ニ依レハ現行刑法第二編第一章皇室ニ對スル罪及ヒ特別法ニ規定スル國民ノ政治上ノ權利ニ對スル罪即チ立法機關タル議會及ヒ國民ノ政治上ノ選擧及ヒ投票權ニ對スル攻撃ハ其性質上內亂罪ノ一種ニシテ又外國ニ對スル罪ハ現行刑法第二編第二章國事ニ關スル罪中第百三十三條第百三十四條ニ於テ此カ一部ヲ規定スルニ止マルモ刑法改正ノ際ニハ別ニ汎ク此ノ種ノ罪ヲ認ムルコトヲ要ス此ノ如ク現行刑法ハ理論上國事犯ノ定義ニ對シ其要求ヲ充タサヽルモノアリ或ハ過キタルモノ(本法第百二十八條參照)アリト雖モ吾カ國法ノ上ニ於ケル國事犯ノ範圍ハ現行法ノ規定ニ依テ之ヲ定ムルノ外ナキモノトス(本法第六十八條參照)

第一節　內亂ニ關スル罪

內亂罪ト外患罪トノ性質上ノ區別ハ內亂罪ハ國家ノ內部關係ニ於ケル存在ニ對スル攻撃ニシテ列國ニ對スル對外關係トハ何等ノ關係ナキモノトス從テ全世界ノ上ニ單一ナル國家カ存在スル場合ニ於テモ內亂罪ハ存在スルコトヲ得ヘク反之外患罪ハ國家ノ對外的安固ニ對スル攻撃ナルカ故ニ以上ノ場合ニ於テハ外患罪ハ存在スルコトヲ得サルナリ而シテ個々ノ國家ハ版圖憲法國權ノ主體ニ依テ存在スヘキカ故ニ內亂罪ハ此ノ三種ノ方面ニ對スル攻撃ニ分類スルコトヲ得ヘキモ現行刑法ハ天皇ニ對スル罪ハ別ニ第二編第一章ニ於テ之ヲ規定シ議會及ヒ國民政治上ノ權利ニ對スル攻撃ハ特別法ノ規定ニ讓リ本節ニ於テハ殘餘ノ內亂罪ニ付テ此カ規定ヲ設ケタルノミ

本節規定スル所ノ罪ヲ大別スレハ左ノ如シ

一、內亂罪

二、內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル罪

三、內亂ニ乘シ內亂ノ目的以外ニ於テ人ノ身體財產ニ對シテ犯シタル重罪輕罪

以下款ヲ分チテ之ヲ說明スヘシ

第一款　內亂罪

內亂罪ノ既遂ニ付テハ刑法第百二十一條第百二十二條第百二十三條ニ規定シ其未遂ト豫備陰謀ニ付テハ同法第百二十四條以下ニ規定セリ而シテ第百二十一條

ヨリ第百二十三條ニ規定スル犯罪ハ各體樣ヲ異ニスルヲ以テ以下項ヲ分チテ之ヲ說明スヘシ

第一項　第百二十一條ノ罪

刑法第百二十一條第一項ニ曰ク「政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トナシ內亂ヲ起シタルモノハ左ノ區別ニ從テ處斷ス」即チ本條ノ罪ノ成立要件及其處分方法ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一段　本條ノ罪ノ成立要件

本條ノ罪ノ成立スルニハ左ノ特別成立條件ヲ要ス

第一、朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トスルコトヲ要ス

第二、兵ヲ擧ケタルコト

第一要件、朝憲ヲ紊亂スルコトヲ有スルカ法律ハ別ニ之レカ定義ヲ與ヘスト雖(一)朝憲紊亂トハ如何ナル意義ヲ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂シタルモノハ云モ本條ニ於テ政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊ヲ以テ所謂朝憲紊亂ノ一種トシテ例示シタ々ト規定シ政府ノ顚覆邦土ノ僭竊ヲ以テ所謂朝憲紊亂ノ一種トシテ例示シタルコト並ニ現行刑法ノ國事ニ關スル犯罪ハ學者カ所謂國事犯(政治犯)ノ一種ナルコト等ニ依テ觀レハ本條ニ所謂朝憲紊亂トハ國家統治權ノ主體及ヒ國家統治權活動ノ大本ニ關スル憲法上ノ制度(成文法ト不文法タルトヲ問ハス)ヲ紊亂スルコトヲ意味スト解スヘキナリ從テ政府ノ顚覆邦土ノ僭竊以外ニ於テモ或ハ統治權ノ主體タル皇位繼承ノ順位ヲ變更シ或ハ天皇ノ大權ヲ變更シ帝國議會ノ組織及ヒ權限ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止シ或ハ國民ノ選擧權ヲ變更スルカ如キハ之ヲ包含スヘキモ反之身體ノ自由居住移轉ノ自由住所ノ安全信書ノ秘密所有權ノ安全言論著作印行集會結社信敎ノ自由ノ如キハ假令憲法上日本臣民ニ於テ此カ保障ヲ享有スト雖モ此ノ種ノ利益ニ對スル攻擊ハ朝憲紊亂ト云フコトヲ得サルナリ

(イ)政府ヲ顚覆ストハ佛文草案第百三十四條「日本皇帝ノ朝ヲ覆ス」トアルニ相當シ帝國ノ君主國體ヲ變更スルコトヲ立テントスルカ如キヲ云フナリ

(ロ)邦土ヲ僭竊スルコトハ勿論現在ノ皇統ヲ改メテ更ニ他ノ皇統ヲ

ヨリ押領シ」トアルニ相當シ日本領土ノ一部ヲ押領シ日本帝國主權ノ命令ヲ排斥スルコトヲ云フナリ

(二)目的トスルトハ朝憲紊亂ト云フ結果ノ發生ヲ希望スルノ義ニシテ換言スレハ犯人カ擧兵行爲ヲ爲スニ至リタル決意ノ源因(即チ犯罪ノ遠因)カ朝憲紊亂ニ存スルコトヲ意味ス即チ本罪ハ朝憲紊亂ヲ望ムト云フ遠因ヲ以テ犯罪構成ノ要件トスルモノナリ隨テ此ノ遠因ナクンハ假令妄リニ擧兵ノ行爲アリタリトスルモ本罪ヲ構成セス然レトモ本罪ノ構成ニハ此遠因タル目的ヲ達シタルコトヲ要セス唯此遠因ニ基ク擧兵ノ行爲アレハ足ルモノトス

第二要件　兵ヲ擧ケタルコトヲ要ス

法文ニハ內亂ヲ起シタルモノトアリテ內亂ノ何物タルコトヲ說明セスト雖モ本條ニハ朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシ內亂ヲ起シタルモノハ云々ト規定セルニ拘ハラス本節中他ノ條項ニハ何々ノ目的ト云フカ如キ文字ヲ冠セス直チニ內亂ヲ犯ス目的ヲ以テ云々又ハ內亂ノ陰謀豫備及ヒ內亂ノ情ヲ知リ云々ト規定シ內亂ナル文字ハ其レ自身ニ於テ朝憲ヲ紊亂スル目的ニ出テタル所爲ナルコトヲ表白セルト第百二十三條ニハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタルモノハ兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ內亂ト同シク論ス云々」トアリテ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スルモ未タ兵ヲ擧クルニ至ラサル者ハ內亂ノ既遂ニアラサルコトヲ示スト同時ニ內亂既遂ト同一ノ刑ヲ科スヘキコトヲ規定セルトニ依テ觀レハ內亂ノ實行行爲ハ擧兵ニシテ內亂トハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ擧クルコトヲ意味スルヤ明ラカナリトス而シテ(イ)兵トハ戰ノ目的ヲ以テ組織セラレタル人ノ團結ト云フ義ニシテ其組織員ノ人數ノ如キハ元ヨリ法律ヲ以テ限定スヘキ限リニアラス故ニ裁判官タルモノハ宜敷實際ノ事情ヲ斟酌シテ軍隊組織ノ程度ニ達シタルヤ否ヤヲ判定セサル可カラス(ロ)兵ヲ擧クルトハ軍隊ノ運動ヲ始ムトノ義ニシテ假令未タ干戈ヲ交ヘスト雖モ既ニ進軍ノ途ニ就キタルカ如キ軍隊運動ノ一部ヲ了シタルトキハ擧兵ノ所爲アリタルモノト謂ハサル可カラサルモノトス

第二段　第百二十一條ノ罪ノ處分方法

本條ノ罪ハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ擧クル行爲ナルカ故ニ本罪ノ特性トシテ

犯罪主體ハ必ス多人數結合シタル團結ナルコトヲ推知シ得ヘキナリ隨テ其組織上首領及教唆者兵卒等ノ階級アルヘク又其分擔スル行爲ニ至リテモ階級ニ依テ一樣ナラス爰ニ於テカ法律ハ加擔者ノ責任ヲ定ムルニ付テ數段ノ階級ヲ分チ犯人カ內亂ニ加效シタル地位ノ如何ニ依リ各刑罰ヲ異ニセリ（本法第百二十一條參照）

第一、首魁及ヒ教唆者、（イ）首魁トハ內亂軍ノ首領ニシテ全軍ヲ指揮統率スルモノヲ云フ而モ必スシモ一人ニ限ラス彼ノ首領株ト稱シ數人共同シテ全軍ヲ統率スルトキハ皆首魁ヲ以テ目スヘキナリ而シテ首魁ハ假令戰爭行爲其モノニ與カラスト雖モ內亂軍全體ノ運動ハ一ニ此者ノ方針ニ存シ全軍ハ其實首魁ノ手足トシテ行動スルモノナレハ其情最モ重キモノトス（ロ）教唆者トハ內亂罪自體ヲ教唆シタルモノ即チ內亂罪發生ノ原動力トナリタルモノニシテ其罪狀ハ首魁ニ比シテ輕重ナキカ故ニ法律ハ首魁ト同シテ死刑ニ處スルコトヽセリ而シテ單ニ第二號以下ノ所爲ノミヲ教唆シタルモノハ本條第一號ノ所謂教唆ヲ以テ論スヘキニアラス總則第百五條ニ依リ其正犯ト同一ノ刑ニ處セラルヘキヤ明ラカナリトス而シテ本條特ニ教唆者ノ刑罰ヲ規定シタルハ內亂罪ノ刑罰ハ各加效者ニ依テ異ルカ故ニ內亂罪其モノヽ教唆罪ヲ總則第百五條ノ規定ニ放任スルトキハ之ニ科スヘキ刑罰ノ標準不明ナルヲ以テ特ニ第一號ニ於テ教唆者ハ首魁ト其刑ヲ同フスルコトヲ規定シタルモノナリ

第二、群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者、（イ）群集ノ指揮ヲ爲シタルハ內亂軍ノ一方ノ隊長トナリタルカ如キモノヲ云フ（ロ）其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者トハ內亂軍ノ一方ノ隊長トナリタル者ト同視スヘキ地位ニアルモノヲ總稱ス然レ上ニ重要ノ關係ヲ有シ隊長ノ職務ト同トモ一概ニ樞要ノ職務ト云フモ其間ニ於テ自カラ輕重ノ差アルヘキヲ以テ之ニ對スル刑罰モ亦輕重ノ二種ヲ設ケ其重キモノニハ無期流刑ヲ科シ、其輕キモノニハ有期流刑ヲ科ス然レトモ是レ酌量減輕ニアラスシテ純然タル本刑ナルコトヲ注意スヘシ

第三、兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者、（イ）兵器金穀ヲ資給スル者トハ內亂罪ノ從犯ニ相當スルモノニシテ本號特ニ之ヲ規定シタルハ第一號

ニ敎唆者ノ刑罰ヲ規定シタルト同一ノ理由ニ出ツ、(ロ)諸般ノ職務トハ第二號ノ樞要ノ職務ト第四號ノ附和隨行シタルモノトノ中間ニ位スルモノナリ隨テ其所爲ノ程度ニモ又輕重ノ別アルヘキヲ以テ其刑罰ヲ二分シ重キモノニハ重禁獄ヲ科シ輕キモノニハ輕禁獄ヲ科スルコトヽセリ

第四、敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供スル者、(イ)敎唆ニ乘シテ附和隨行スルトハ一定ノ目的モナク唯犯人ノ使嗾ニ煽動セラレテ內亂軍タルコトヲ知テ之ニ附隨シタル者即チ兵卒ノ類ヲ謂フ(ロ)指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタルモノトハ指揮者ノ下ニ於テ雜役ヲ取リタル者即チ軍夫雇員ノ類ヲ云フ而シテ此等ハ其罪情最モ輕キカ故ニ二年以上五年以下ノ範圍內ニ於テ輕禁錮ニ處ス

第二項　第百二十二條ノ罪

第一段　第百二十二條ノ罪ノ成立要件

刑法第百二十二條ニ曰ク[內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器、彈藥、船舶、金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ內亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ]ト本條ハ第百二十一條ニ規定セル內亂罪ノ豫備ノ一種ニ屬スルモ法律ノ規定上前條ト同一ノ地位ニアルノミナラス其體樣ヲ異ニスルヲ以テ爰ニ獨立ノ一罪トシテ說明スル所以ナリ而シテ本條ノ罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、內亂ヲ起スノ目的アルコト

第二、軍備ノ物品ヲ劫掠スルコト

第一要件　內亂ヲ起スノ目的ヲ有スルコトヲ要ス

本罪ノ成立ニハ犯人カ內亂ヲ起スノ目的即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル擧兵ノ所爲ヲ行フコトヲ以テ犯罪決意ノ原因(即チ遠因)トスルコトヲ要ス是レ本罪ノ强盜罪(本法第三百七十八條以下)ト異ナル一要點ナリトス

第二要件　軍備ノ物品ヲ劫掠スルコトヲ要ス

(イ)軍備ノ物品トハ政府カ直接又ハ間接ノ戰鬪ノ用ニ供スル目的ヲ以テ準備シタル物品ヲ總稱ス而シテ法律カ例示スル兵器、彈藥、船舶、金穀等ハ其著例ナルモノニ屬ス蓋シ法文ニハ單ニ軍用品ト云ハス殊更ニ軍備ノ物品ト記載シタルコト佛文草案第百三十六條起草ノ理由書及日本文草案第百三十七條ニ於テ政府ニ屬スル

兵器、彈藥、金穀其他軍備ノ物品云々ト規定シアリタルニ徴シ本條ニ所謂軍備ノ物品トハ軍器商若クハ陸海軍備品用達人等ノ倉庫若クハ店舗ニ藏メタル私有品ヲ指示シタルニアラスシテ政府所屬ノ物ヲ指示スルヤ明ラカナリトス(ロ)劫掠トハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ物品ヲ奪取スルヲ云ヒ所爲ノ實質ニ於テハ強盜罪ノ成立要素タル強取ナル所爲ト異ナル所ナキモ本罪ノ成立ニハ其特性トシテ多人數ノ共同犯人アルコトヲ想像シタルカ故ニ特ニ劫掠ナル文字ヲ用ヒタルモノナリ然レトモ劫掠ノ主體カ多人數ノ結合シタルコトハ本罪ノ成立要素ニハアラサルナリ而シテ法文ニハ單ニ劫掠トノミアルカ故ニ僞計ニ依ル騙取ハ之ヲ包含セサルヤ明ラカナリトス

終リニ臨ンテ本罪ニ關スル一ノ疑問ヲ決セント欲ス

內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ一私人ノ所有ニ係ル兵器金穀ヲ劫掠シタルモノハ處分如何

本問ニ對シテハ吾輩ハ刑法第百二十五條ニ所謂內亂豫備ト强盜罪ノ數罪俱發ナリトノ說ヲ採ルモノナリ何トナレハ(一)刑法第百二十二條ノ內亂罪ヲ構成スル爲メニハ劫掠ノ目的物カ政府所屬ノ軍備品ナラサルヘカラス而ルニ本問ニ於ケル劫掠ノ目的物ハ私有品ニ係ルヲ以テ第百二十二條ノ內亂罪ヲ構成セサルヤ明ラカナリトス(二)刑法第百二十五條ニ於テ第百二十一條ノ內亂罪ノ豫備ヲ處罰スヘキコトヲ規定シ而モ其豫備方法ニ付テハ法律ハ何等ノ制限ヲ設ケス故ニ苟クモ內亂ヲ起スノ豫備ノ程度ニ達シタル以上ハ其手段方法ノ何タルヲ問ハス常ニ內亂ノ豫備ヲ以テ論スヘキモノナリ隨テ本問ハ內亂ヲ起ス目的ヲ以テ其豫備方法トシテ兵器金穀ヲ劫掠シタルモノナレハ本問ノ所爲ハ第百二十五條ニ該當スルヤ明ラカナリトス(三)然レトモ其豫備方法トシテ兵器金穀ヲ强奪シタル點ハ刑法第三百七十八條ニ規定スル强盜罪ニ該當ス此ノ如ク本問ノ所爲ハ一面ニ於テ同法第百二十五條規定ノ內亂豫備ニ該當シ一面ニ於テハ同法第三百七十八條强盜罪ニ該當スト雖トモ本問ノ場合ハ一個ノ行爲カ二個ノ法規ニ違犯スルモノニシテ一個ノ行爲ハ一個ノ犯罪ヲ構成スルニ止マリ數個ノ犯罪ヲ構成スルコトヲ得サルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ以上二個ノ法規ヲ比照シ重キ刑ヲ科スルモノニ依テ論スヘキナリ(法規ノ競爭ニシテ數罪俱發ニアラス)

第二段　第百二十二條ノ罪ノ處分

本條ノ罪ヲ犯スモノハ已ニ內亂ヲ犯シタルモノヽ刑ニ同シ（本法第百二十二條末段參照）隨テ刑法第百二十一條ノ內亂罪ニ對スル刑罰ヲ科スヘキモノニシテ各共同犯人ノ責任ニ付テモ同法第百二十一條第二項ノ例ニ倣ヒ之ニ科スヘキ刑罰ヲ定ムヘキモノトス

第三項　第百二十三條ノ罪

第一段　第百二十三條ノ罪ノ成立要件

刑法第百二十三條ニ曰ク「政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ內亂ト同シク論シ其教唆者及下手者ヲ死刑ニ處ス」ト即チ本條規定ノ罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、政府ヲ變亂スルノ目的アルコト

第二、人ヲ謀殺シタルコト

第一要件　政府ヲ變亂スルノ目的アルコトヲ要ス

法文ニ「政府ヲ變亂スル」ト云フハ刑法第百二十一條ニ所謂政府ヲ顚覆スルト如何ノ差異アルヤ二者何レモ朝憲紊亂ノ一種タルコトハ爭ナキモ政府ノ變亂ト云フハ政府顚覆ト云フヨリモ事態稍〻輕キモノニシテ彼ノ要路ノ大臣其他樞要ノ地位ニアル執政官ニ變更ヲ見ントシ又ハ從來政府ノ採リタル施政ノ方針ヲ一變セシメントスルカ如キ場合ニ相當スルモノニシテ彼ノ皇統ヲ變更スルトカ又ハ國體ヲ變更スルカ如キ重大ナル場合ノミヲ指示スルニアラス又必ススシモ擧兵ノ手段ニ依ルコトヲ要セス單純ナル殺害行爲ヲ以テ其目的ヲ達シ得ルノ場合ヲ指示スルモノナリ換言スレハ統治機關ニ重大ナル變動ヲ起サシムルコトヲ意味スルモノナリ

第二要件　人ヲ謀殺シタルコトヲ要ス

（イ）法文ニハ單ニ人ヲ謀殺シタルモノハトアリテ殺害ノ目的タルヘキ人ニ付キテ何等ノ制限ヲ設ケス隨テ苟モ犯人ニ於テ政府ヲ變亂スルノ目的ニ出テタル以上ハ何人ヲ殺害スルモ本罪ヲ構成スルカ如キ觀アリト雖モ本條ニ所謂人ハ施政上樞要ノ關係ヲ有シ其人ノ生死ハ以テ國家ノ施政上ノ變亂ヲ來タスニ足ルヘキ人ヲ指示スルモノニシテ施政上何等ノ關係ヲモ有セサル人ヲ包含セス、何トナ

レハ本條ハ單ニ謀殺ヲ罰スルノ主旨ニアラスシテ本犯ノ謀殺カ直チニ政府ヲ變亂スルノ結果ヲ生スヘキ危險アルヲ以テ普通ノ謀殺罪ト區別シ特ニ內亂罪ト同シク論スルコトヽナシタルモノナリ左レハ謀殺ノ目的タルヘキ人ノ生死ハ必ヤ施政上樞要ノ關係ヲ有スルモノナラサル可カラサルコト明ラカナリトス但シ在朝ノ人タルト在野ノ人タルトハ問フ所ニアラサルナリ而シテ其人ノ殺害カ果シテ政治上ニ變動ヲ來タスニ足ルヘキヤ否ヤハ當時政治組織ノ實況ニ鑑ミ常識ヲ以テ判定スヘキ事實問題ナリトス

（ロ）法文ニ所謂謀殺トハ刑法第二百九十二條ニ所謂「豫メ謀テ人ヲ殺スノ行爲」ノ外ニ第二百九十三條規定ノ結果毒殺ヲモ包含スルモノト解スヘキナリ但シ第二百九十四條ノ故殺ヲ包含セサルコト明ラカナリトス

終リニ一二注意スヘキ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、一部ノ論者ハ本罪ノ罪ノ成立要件トシテ以上二個ノ要件ノ外ニ更ニ第三ノ要件トシテ「犯人ニ於テ兵ヲ擧クルノ豫備又ハ陰謀アルコトヲ要ス」ト其理由トスル所ニ曰ク（一）若シ擧兵ノ豫備又ハ陰謀アルコトヲ本罪成立ノ一要件トセ

サルトキハ法文ニ「兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ云々」トアル文字ハ全ク無用ノ文字タルノミナラス（二）內亂豫備ノ行爲アリ且ツ政府ニ抗敵スルノ意思アリテコソ始メテ內亂ノ既遂ニ準シタル前條第百二十二條ト權衡ヲ保ツヘキナリト云フニ在リ然レトモ余輩ハ左ノ理由ニ依リ本罪ノ成立ニハ擧兵ノ豫備陰謀アルコトヲ要セスト信ス即チ（一）前條第百二十二條ニハ「內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ」トアリテ兵ヲ擧クルコトヲ以テ犯罪決意ノ原因トセルニ反シ同法第百二十三條ニハ單ニ「政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ」トアリテ兵ヲ擧クルコトヲ以テ犯罪決意ノ原因トスヘキコトヲ規定セス亦一面ニ於テ第百二十二條ニハ「既ニ內亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ」ト規定シ擧兵ヲ以テ犯罪決意ノ原因トスヘキコトヲ指示スルニ反シ同法第百二十三條ニハ「內亂ト同シク論ス」トアリテ該條ノ罪ハ純然タル內亂ノ一種ニアラサルコトヲ指示セリ（二）本條法文ニ「兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ」トアルハ純粹ナル內亂罪ノ實行行爲ハ兵ヲ擧クルニアルコトヲ示スト同時ニ本條ノ成立ニハ擧兵ニ換ユルニ謀殺ヲ以テシ兵ヲ擧クルト云フコトハ本罪ノ成立要件ニハ關係ナキコトヲ說明シタルモノナリ要之本罪政府ヲ變

亂スルカ如キハ必スシモ擧兵ヲ要セス單ニ施政上樞要ノ人物ヲ謀殺スレハ其目的ヲ達シ得ルノ危險アルヲ以テ特ニ之ヲ內亂ト同視シタルモノニシテ兵ヲ擧クルト云フコトヲ成立要件トスル內亂罪トハ其體樣ヲ異ニスルコト明了ナリトス隨テ內亂罪ノ構成要件タル兵ヲ擧クルト云フ實行行爲ハ勿論其豫備陰謀タモ本罪ノ成立ニハ必要ニアラスト論セサル可カラス

第二、政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ刑法第百十六條、第百十八條ニ規定セル御方ヲ謀殺シ其人ノ生死カ政府ヲ變亂スルニ足ルヘキモノナルトキハ第百二十三條ノ刑ト第百十六條又ハ第百十八條ノ刑トヲ比照シ重キ刑ヲ科スル法條ニ依テ論スヘキナリ

第二段　第百二十三條ノ罪ノ處分

刑法第百二十三條末段ニ曰ク「內亂ト同シク論シ其教唆者及下手者ヲ死刑ニ處ス」トアリ即チ同條ニハ「內亂ト同シク論シ」ト規定シ且ツ同法第百二十四條ニハ「前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノトキニ於テ云々」ト規定シ本條ノ罪ノ未遂ハ同法第百二十一條第百二十二條ノ罪ノ未遂ト同列ニ置キタルニ依テ見レハ本條ニ「內亂ト同シク

論シ」トアルハ其既遂未遂カ同法第百二十一條內亂罪ノ既遂未遂ト同視セラルヽト同時ニ其備豫及陰謀ヲモ尙ホ第百二十五條ニ依リテ第百二十一條ノ例ニ照シテ處斷セント欲スルモノヽ如キ觀アルモ前ニ說明シタルカ如ク本條第百二十三條ノ罪ニ於テハ擧兵ト云フコトハ犯罪ノ構成要件ニ何等ノ關係ヲモ有セス隨テ第百二十一條ノ如キ擧兵行爲ヲ以テ犯罪ノ成立要件トシ擧兵行爲ニ加效シタル程度ヲ標準トシテ各加效者ノ刑責ヲ區別シタル刑罰規定ヲ本條ノ罪ノ豫備陰謀ニ適用スヘカラサルヤ明了ナリトス故ニ本條ニ「內亂ト同シク論シ」トアルハ單ニ裁判所構成法第五十條ノ規定ニ依リ普通ノ犯罪ト其事件ノ管轄ヲ異ニスルカ若クハ從犯者アル塲合又ハ減等ノ處分ヲ爲スノ際ニ於テ國事犯ノ刑ヲ適用セサルヘカラサル等ニ過キサルナリ（本法第六十八條、第六十九條參照）

以上說明シタルカ如ク本條ノ罪ニ對シテ刑法第百二十一條ノ刑ヲ適用シ之ヲ處分スルコトヲ得ス而シテ法文ニハ單ニ其教唆者及下手者ヲ死刑ニ處ストアルカ故ニ其他ノ共犯者ニ付テハ總則共犯ノ例ニ照シテ處斷スルノ外ナキナリ

第四項　第百二十一條乃至第百二十三條ノ罪

ノ未遂犯及其處分

刑法第百二十四條ニ曰ク「前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス」即チ本條ハ同法第百二十一條乃至第百二十三條ノ罪ハ總テ其未遂ヲ處罰スルコトヲ示スト同時ニ之ニ科スヘキ刑罰ハ總則未遂犯ノ例ニ倣ハス未遂ノ場合ニ於テモ尚ホ本刑即チ各既遂ノ場合ニ科スヘキ法定ノ刑ヲ科スヘキコトヲ規定スルモノナリ

以上刑法第百二十一條乃至第百二十三條ノ罪ノ未遂ニ對シ既遂ト同一ノ刑ヲ科スヘキコトヲ規定シタル理由ハ其未遂ノ場合ニ於テモ國家内部ノ秩序ヲ害スルノ危險甚タシク其罪惡ノ程度ハ既遂ニ比シテ其間豫メ法律ヲ以テ其刑罰ヲ區別スヘキノ餘地ナキカ故ナリ

第五項　第百二十一條ノ豫備犯及其處分

刑法第百二十五條第一項ニ曰ク「兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備スル等ハ何レモ内亂豫備ノ一例タル場合ヲ示シタルモノニシテ其他内亂ノ豫備ト見ルヘキ場合少ナキニアラス例ヘハ内亂ノ目的ヲ以テ海陸ヲ測量シ又ハ進軍沿道ノ經營官軍軍備ノ實況ヲ調査スルカ如キ何レモ内亂ノ豫備ト云フコトヲ得ヘシ

ニ注意スヘキ一二ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、吾輩ハ前ニ刑法第百二十三條ノ罪ハ同法第百二十一條ノ例ニ照シ處斷スルヲ得サルコトヲ說明シタリ隨テ本條内亂ノ豫備ヲ爲シタルモノトアル内ニハ同法第百二十三條ニ規定セル内亂罪ノ豫備ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス故ニ同法第百二十三條ノ豫備ハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルナリ次ニ第百二十二條ノ罪ノ豫備ハ本條第百二十五條ニ所謂内亂ノ豫備中ニ包含スルヤ否ヤト云フニ一部ノ學者ハ第百二十二條ノ罪ノ豫備ハ第百二十五條ニ依リ處罰スヘキモノナリトノ說ヲ主張シ其理由ニ曰ク第百二十四條ニハ前三條ノ罪ハ各未遂アルコトヲ想像セリ從テ第百二十二條ノ罪ハ單ニ第百二十一條ノ罪

普通之ヲ罰セスト云フ原則ニ對スル例外ニシテ總則第百二十一條ニ依リ豫備ヲ處罰スルノ一例ナリトス而シテ兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備スル等ハ何レモ内亂豫備ノ一例タル場合ヲ示シタルモノニシテ其他内亂ノ豫備ト見ルヘキ場合少ナキニアラス例ヘハ内亂ノ目的ヲ以テ海陸ヲ測量シ又ハ進軍沿道ノ經營官軍軍備ノ實況ヲ調査スルカ如キ何レモ内亂ノ豫備ト云フコトヲ得ヘシ

ニ注意スヘキ一二ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、吾輩ハ前ニ刑法第百二十三條ノ罪ハ同法第百二十一條ノ例ニ照シ處斷スルヲ得サルコトヲ說明シタリ隨テ本條内亂ノ豫備ヲ爲シタルモノトアル内ニハ同法第百二十三條ニ規定セル内亂罪ノ豫備ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス故ニ同法第百二十三條ノ豫備ハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルナリ次ニ第百二十二條ノ罪ノ豫備ハ本條第百二十五條ニ所謂内亂ノ豫備中ニ包含スルヤ否ヤト云フニ一部ノ學者ハ第百二十二條ノ罪ノ豫備ハ第百二十五條ニ依リ處罰スヘキモノナリトノ說ヲ主張シ其理由ニ曰ク第百二十四條ニハ前三條ノ罪ハ各未遂アルコトヲ想像セリ從テ第百二十二條ノ罪ハ單ニ第百二十一條ノ罪

ノ未遂ノ狀體ニ非スシテ第百二十一條ト其體樣ヲ異ニスル特別ノ內亂罪ヲ認メタルモノト見做スヘキノ結果其權衡上第百二十二條ノ罪ノ豫備陰謀モ亦第百二十一條ノ罪ノ豫備陰謀ト同シク第百二十五條ヲ適用處斷スヘキモノナリト云フニアリ然レトモ吾輩ハ右ノ說ニハ反對スルモノナリ何トナレハ(一)第百二十二條ハ第百二十一條ノ內亂ノ既遂ニアラサル場合ニ於テ特ニ既遂ト同一ノ刑ヲ科スヘキコトヲ規定シタルニ止マリ同條規定ノ結果トシテ內亂ノ目的ニ出テタル軍備品ノ劫掠カ直チニ內亂行爲(朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ擧クルノ所爲)自體ト同視セラレタリト云フコトヲ得ス(二)左レハ第百二十四條ニハ明カニ前三條ノ罪ハ未遂犯ノ時ニ於テ云々ト規定シ內亂ノ未遂ハ云々ト云ハサル所以ナリ(三)而シテ次條第百二十五條ニ於テ前條ノ例ニ反シテ單ニ「內亂ノ豫備ヲ爲シタルモノハ云々ト規定シ前三條ノ罪ノ豫備ハ云々ト規定セサルニ依テ見レハ第百二十五條ニ所謂內亂トハ第百三十一條ニ用ヒラレタル內亂ナル文字ト同一ノ意義即チ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ擧クルト云フ實行行爲ヲ指示スルモノト解セサル可カラス要之第百二十五條ニ所謂內亂ノ豫備トハ朝憲紊亂ヲ目的トスル擧兵行爲自體ノ豫備行爲ノミヲ指示スルヤ明ラカナリトス」

第二、若シ第百二十五條ニ規定セル豫備行爲ノ手段トシテ別ニ他ノ條項ニ違犯スヘキ行爲アルトキハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニシテ其手段タル行爲ハ決シテ本條規定ノ內亂豫備犯中ニ吸收セラルヘキモノニアラサルナリ例ヘハ兵器金穀ヲ準備スル爲メニ一私人ニ對シテ强盜又ハ竊盜ノ行爲アルトキ又ハ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及所有スルノ行爲アリタルトキ(本法第百五十七條以下參照)ヤ常ニ第三百七十八條以下ノ罪又ハ第三百六十六條以下ノ罪又ハ第百五十七條以下ノ二罪ト本條ノ內亂豫備犯トノ俱發ヲ以テ論セサル可カラサルナリ

第三、第百二十一條ノ罪ハ其豫備行爲ヲモ處罰スルカ故ニ中止犯ヲ理由トシテ未遂ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス次ニ第百二十五條ハ內亂罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ規定スルモノニシテ獨立ノ一罪ニアラサルカ故ニ第百二十五條ノ罪ノ未遂ナク內亂罪ノ豫備ヲ幇助シタル者ハ等シク第百二十五條ニ依テ處斷スヘク總則第百九條ノ適用ナシ

第六項　第百二十一條ノ罪ノ陰謀及其處分

刑法第百二十五條第二項ニ曰ク內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサルモノハ各二等ヲ減ス」ト而シテ本項ノ規定ハ第百二十一條ノ一例ニ屬スルコトハ前項ニ於テ說明シタル所ト竝ニ同條ハ總則第百十一條ノ罪ノ陰謀ニ限リ適用スヘキコト異ナルナキヲ以テ更ニ贅セス

內亂ノ陰謀トハ二人以上ニテ內亂ヲ起スコトヲ合意スルコトヲ謂フ

第七項　第百二十一條ノ罪ノ自首

刑法第百二十六條ニ曰ク「內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖トモ未タ其事ヲ行ハサル以前ニ於テ官ニ自首シタルモノハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付スト同條ハ總則第八十八條ニ規定スル自首減輕ノ特例ニシテ第八十五條以下ニ規定セル自首減輕ト異ナル點ハ左ノ如シ

第一、內亂行爲ノ着手ニ至ラサル以前ニ於テ即チ豫備又ハ陰謀ノ程度ニ於テ自首スルコトヲ要ス

自首自體ニ付テハ第八十五條ニ規定セル條件ヲ具備スルコトヲ要ス從テ事發覺後ニ於テ官ニ自カラ罪狀ヲ申告スルモ自首ノ效ナキモノトス

第二、本刑ヲ免シ單ニ六月以上三年以下ノ監視ニ付スルノミ是レ刑法總則第八十五條以下ニ規定セル自首減輕ヨリモ其效果大ナルモノトス蓋シ內亂ノ害ハ至大ナルヲ以テ特ニ之カ害惡ノ蔓延ヲ防止スル爲メニ其自首ノ效果ヲ大ニシ以テ犯人ノ自首ヲ促カスノ主旨ニ外ナラサルナリ而シテ本條ニ規定スル監視ノ期間ハ同法第四十條第二項ニ依リ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

終リニ注意スヘキ一二ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　本條規定ノ自首ハ刑法總則第八十五條以下ニ規定スル自首減輕ニ對スル例外ノ場合ナレハ假令本條規定ノ條件ヲ具備セサルトキ即チ着手以後ト雖モ苟クモ同法第八十五條以下ノ規定ニ基キ事發覺前ニ官ニ自首シタルトキハ普通自首ノ減輕ヲ得ヘキコト勿論ナリトス

第二　本條ノ自首減輕ハ內亂ノ豫備陰謀ニ對スル本刑ヲ免除スルノ規定ナレハ本條自首ノ規定ハ內亂ノ豫備陰謀ヲ罰スヘキモノニノミ適用セラルヘク換言スレハ第百二十五條ニ規定スル豫備陰謀ニ限ルヘキナリ而シテ同條ハ第百二

十一條ニ規定スル所ノ內亂罪ノ豫備陰謀ヲ規定シタルニ止マルコトハ前ニ說明シタルカ如シ

第二款　內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與スル罪

第一項　第百二十七條ノ罪ノ成立要件

刑法第百二十七條ニ曰ク「內亂ノ情ヲ知リ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス」即チ本條ノ罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、內亂ノ情ヲ知ルコト

第二、犯人ニ集會所ヲ給與スルコト

第一要件　內亂ノ情ヲ知リタルコトヲ要ス

(一)本條所謂內亂トハ內亂ノ實行行爲ハ勿論其豫備陰謀ト雖モ苟モ刑法カ內亂罪トシテ處斷スル所ノ凡テノ所爲ヲ指示スルモノナリ(二)情ヲ知リトハ內亂罪トシテ處罰セラルヘキ所爲ヲ現ニ行フモノタルコトヲ了知スルコトヲ意味スルニ過キサリシトキノ如キハ本罪ヲ構成セサルモノトス

第二要件　犯人ニ集會所ヲ給與スルコトヲ要ス

(一)犯人トハ刑法カ內亂罪トシテ處罰スル所爲ヲ犯スモノヲ總稱シ其首魁タルト教唆者タルト其他ノ者タルトヲ問ハサルナリ然レトモ給與ヲ受クルモノハ內亂罪ノ犯人タルコトヲ要スルカ故ニ假令犯人ナリト誤信シテ之ニ集會所ヲ給與スルモ偶々犯人以外ノモノヽ會合ニ過キサリシトキノ如キハ本罪ヲ構成セサルモノトス(二)集會所トハ會合ノ場所ト云フノ意義ニシテ苟シクモ會合ノ場所トシテ供給セラレタルモノタル以上ハ家屋、船舶、邸園、田野、山林等場所ノ如何ヲ敢テ本罪ノ構成ニハ關係ナキモノトス(三)給與トハ供給スルノ意ニシテ其供給ノ原因カ賣買、贈與、貸借タルト其他如何ナル名義ニ依ルモ敢テ問フ所ニアラサルナリ

終リニ一二ノ注意スヘキ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

(第一)內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ兵器金穀兵糧等ヲ藏匿スヘキ場所ヲ給與シタルモノヽ處分如何若シ內亂ノ所爲カ豫備ニ止マルトキハ本問ノ所爲ニ對シテハ第百

二十五條ヲ適用スヘク若シ內亂ノ所爲カ着手以上ニ進ムトキハ本問ノ所爲ニ對シテハ第百二十一條第三號ヲ適用スヘキナリ

(第二) 刑法第百二十三條ノ罪ノ豫備、陰謀ヲ爲ス者ニ對シ集會所ヲ給與シタルモノノ處分如何本問第百二十三條ノ罪ノ豫備、陰謀ハ所爲自體ニ於テ法律ハ之ヲ處罰セサルヲ以テ之ヲ幇助シタル者ニ對シテモ亦刑罰ヲ科スヘカラサルヤ明了ナリトス

(第三) 一旦內亂罪ヲ構成シ終リタル以後ニ於テ犯人ヲ藏匿若クハ隱避セシムル爲メニ之ニ場所ヲ給與シタルモノヽ處分如何第百二十七條ノ罪ハ內亂罪トシテ處罰セラルヘキ所爲ヲ行フ間ニ於ケル行爲ニ屬スルヲ以テ既ニ內亂罪ヲ犯シ終リタル後ニ於テハ第百五十一條ノ罪ヲ構成スルハ格別本條ノ罪ヲ構成セサルヤ明了ナリトス

第二項 本罪處分

本條ノ罪ハ正犯タル內亂罪ヲ幇助シ容易ナラシムルモノニシテ刑法總則第百九條ニ規定スル從犯ニ相當スルモノナレトモ內亂罪ノ刑罰ハ各加效者ノ階級ニ依リ一樣ナラス隨テ總則從犯ノ例ニ從フトキハ何レノ正犯ノ刑ヲ標準トシテ之カ減輕ヲ行フヘキヤ明ラカナラス故ニ第百二十七條ハ之ヲ以テ特別ノ一罪トシ「三年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス」ト規定シ特別ノ刑罰ヲ科スルコトヽナシタルナリ

第三款 內亂ニ乘シ內亂ノ目的以外ニ於テ人ノ身體財產ニ對シテ犯シタル重罪輕罪

刑法第百二十八條ニ曰ク「內亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從フテ處斷ス」ト本條ハ內亂ノ爲メ警察權行使ノ嚴密ヲ欠クニ乘シテ內亂犯人カ內亂ノ目的ニ關セサル普通ノ重罪輕罪ヲ犯シタル場合ニ於テ之ヲ特別ノ一罪ト認メ之カ處分方法ヲ規定シタルモノナリ而シテ之カ成立要件及其處分方法ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一項 第百二十八條ノ罪ノ成立要件

本罪ノ成立要件ハ左ノ如シ

第一、內亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對スル重罪輕罪ヲ犯シタルコト

第二、內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタルコト

第一要件、內亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對スル重罪輕罪ヲ犯シタルコトヲ要ス

(一) 法文ニハ內亂ニ乘シトアルカ故ニ本條ノ罪ハ內亂實行ノ際ニ起リタルコトヲ要ス故ニ內亂ノ發生前又ハ終了後ニ於テ起リタル犯罪ハ本條規定ノ限リニアラス

(二) 重罪輕罪タルコトヲ要スルカ故ニ違警罪ヲ包含セサルヤ明ラカナリトス

(三) 其重罪輕罪ハ身體財產ニ對スルモノタルコトヲ要スルカ故ニ刑法第二編中ニ規定セラレタル各種ノ重罪輕罪ヲ包含セサルコト又明カナリトス

第二要件、內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタルコトヲ要ス

法文ニ內亂ノ目的ニ關セサルトアルハ內亂行爲即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル擧兵行爲中ニ包含セラレサル行爲トノ義ニシテ或行爲カ果シテ內亂行爲中ニ包含セラルヘキヤ否ヤハ各行爲ノ性質ニ付テ判定セサルヘカラス例ヘハ內亂軍ヲ鎭壓セントスル官軍ノ兵士ヲ殺戮シ其兵器、彈藥、糧食等ヲ掠メ火ヲ兵營ニ放チ郵便、電信ノ如キ交通機關ヲ妨害シ鐵道線ヲ破壞シ軍用ノ爲メニ船舶ヲ徵發スルカ如キハ當然內亂行爲中ニ包含セラルヘキモノトス反又內亂軍ニ抗敵セサル普通人民ヲ妄リニ殺害シ又ハ病院ヲ襲フテ既ニ戰鬪力ヲ失ヒタル負傷兵ヲ殺戮シ又ハ捕虜ヲ殺害シ又ハ媾和ノ使者ヲ屠ルカ如キ戰時ト雖モ國際公法上認許セラレサル所爲ハ內亂行爲中ニ包含セラレサルモノニシテ內亂犯人ニシテ內亂ノ際若シ此等ノ罪ヲ犯ストキハ內亂罪ト非內亂罪トノ數罪俱發トシテ刑法第百條ヲ應用シ重キニ從フテ處斷スヘキモノナリト雖モ本條ハ特ニ此種ノ數罪俱發ニ付テハ同法第百條ヲ適用セス特別ノ一罪トシテ第二十一條ノ刑ト通常犯ノ刑トヲ比照シ重キ刑罰ヲ以テ本罪ニ科スヘキ刑罰ト定メタルモノナリ

第二項　第百二十八條ノ罪ノ處分方法

本條ノ罪ノ處分ニ付テハ其俱發シタル非內亂罪ノ刑ト內亂罪ノ刑トヲ比較シ重キニ從フテ處斷ス而シテ本條ハ內亂罪ニ伴フテ發生シタル非內亂罪ヲ結合シテ獨立ノ一罪ト爲シタルモノニシテ第百條數罪俱發ノ例ニ依ルヘキニアラス然レトモ內亂犯人ニシテ以上二ケノ要件ヲ具備セサル罪ヲ犯シタルトキハ本條適用ノ限リニアラサルヲ以テ刑法第百條ヲ適用シテ處斷スヘキヤ勿論ナリトス

第二節　外患ニ關スル罪

外患ニ關スル罪ハ一國ノ對外的安固及ヒ軍備ニ對スル攻撃ニシテ本罪ハ列國對持ノ關係ニ於テ始メテ存在スルコトヲ得ルナリ即チ内亂罪ト異ナリ犯人カ外國ニ與ミスルコトヲ以テ本罪ノ特徴トス即チ犯人カ本國ニ對スル忠實ノ義務ニ違背シテ外國ニ與ミスルコトヲ以テ特徴トス從テ本罪ノ正犯ハ日本帝國ノ臣民ニ限ラルヽナリ但シ立法論トシテハ例外トシテ特種ノ外患罪ニ付テハ内外人ヲ問ハス之ヲ處罰シ又外國人ト雖モ内國ニ滯在中外患罪ヲ犯スモノハ汎ク之レヲ處罰シ以テ一國ノ對外的安固ヲ維持スルノ必要アルヘキナリ（獨乙刑法第八十七條第八十九條第九十條）（第九十一條第九十二條我刑法改正案第百六條參照）

現行刑法ハ外患ニ關スル罪ト云フ罪名ノ下ニ二種ノ犯罪ヲ規定セリ(一)本國ニ背叛スル罪(二)外患ノ誘引ヲ形成スル罪是レナリ而シテ本國ニ背叛スル罪ノ内ニテ(イ)直接ニ本國ニ背叛スル罪(ロ)敵國ヲ幇助シテ間接ニ本國ニ背叛スル罪トノ別アルコトヲ認メタリ

第一款　背叛罪

刑法第百二十九條乃至第百三十二條ハ背叛罪ヲ規定スルモノニシテ内第百二十九條ハ直接ニ本國ニ背叛スル罪同法第百三十條乃至第百三十二條ハ敵國ヲ幇助シテ間接ニ本國ニ背叛スル罪ヲ規定シタルモノナリ

第一項　第百二十九條ノ罪

第百二十九條ニ曰ク「外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス」即チ本條ノ罪ノ成立要件及其處分ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一段　第百二十九條ノ罪ノ成立要件

本條ノ規定ハ之ヲ三個ノ場合ニ區別スルコトヲ得ヘシ

(甲)外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵シタル場合

(乙)外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シタル場合

(丙)本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル場合

以上各場合ヲ分テ之カ成立要件ヲ說明スヘシ

(甲)外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵シタル場合

此場合ハ左ノ特別要件ヲ以テ成立ス

第一、外國ニ與ミシタルコト

第二、本國ニ抗敵シタルコト

第一要件　外國ニ與ミシタルコト

(一) 外國トハ日本ノ版圖以外ニ於テ別ニ一定ノ土地人民ヲ有シ唯一主權ヲ以テ統治スルモノヲ云フ故ニ國際公法上國家トシテ其成立ヲ認メラレサル人類團體例ヘハ何レノ國籍ヲモ有セサルモノヨリ成ル軍隊又ハ國家主權ノ認許ヲ得スシテ妄リニ兵ヲ動カシタルモノ、如キハ之ヲ國家ト認ムヘカラサルハ勿論國家主權ヲ代表スルモノトモ稱ス可カラサルヲ以テ此等團體ニ與ミスルモ本條件ヲ充タスモノト云フコトヲ得サルナリ(二)與ミストハ合同ノ意ニシテ必スシモ身體ヲ外國軍隊ニ投スルコトヲ要セス苟クモ外國軍隊ト盟約シテ之ト共同連合シタル者ヲ包含ス

第二要件、本國ニ抗敵シタルコトヲ要ス

(一) 本國トハ日本臣民ノ本國換言スレハ犯人ノ本國タル日本國ト云フノ義ニシテ犯人ハ必ス日本國臣民タルコトヲ意味ス但シ日本臣民タル身分ナキ者ハ敎唆者又ハ從犯者トシテ其責ヲ負フヘキナリ而シテ日本臣民タル身分ノ有無ハ國籍法ノ定ムル所ニ依ルモノトス(二)抗敵スルトハ兵器ヲ執テ日本國ニ敵對スルヲ云フ此ニ敵對ト云フハ必スシモ干戈ヲ交ユルコトヲ要セス唯日本國ニ敵對スルノ姿勢ヲ執ルヲ以テ足ルモノトス

(乙) 外國ト交戰中同盟國ニ抗敵スル場合

此場合ハ左ノ三個ノ特別要件ヲ要ス

第一、犯人ハ日本臣民タルコト

第二、外國ト交戰中ナルコト

第三、同盟國ニ抗敵シタルコト

第一要件、犯人ハ日本臣民タルコトヲ要ス

此點ニ付テハ(甲)ノ場合ニ說明シタルト異ナルコトナキヲ以テ更ニ贅セス

第二要件、外國ト交戰中ナルコトヲ要ス

(一) 外國トハ甲ノ場合ニ於テ說明シタル所ト異ル所ナキヲ以テ更ニ贅セス

(二) 交戰中トハ國際公法上戰爭ノ開始ヨリ終了迄ノ期間ヲ云フ而シテ今日國際公法上ニ於テハ開戰ノ宣告アリタルトキ又ハ別ニ宣告ヲ爲サヽルモ之ニ先チテ公然タル戰爭行爲アルトキハ此時ヲ以テ戰爭開始ノ時期トセリ

第三要件、同盟國ニ抗敵スルコトヲ要ス

同盟國トハ國際公法上戰時同盟國ト認メラルヘキモノヲ指示スルモノニシテ同盟國ニ對スル抗敵ヲ日本本國ニ對スル抗敵ト同視スル所以ハ此場合ニ於テハ同盟國ノ戰鬪力ニ敵對スルハ即チ日本本國ノ戰鬪力ニ敵對スルト被害ノ點ニ於テ異ナルナキヲ以テナリ

(丙) 交戰中本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル場合

此場合ハ以上(甲)(乙)ノ場合ニ相當セサル背叛罪ヲ規定スルモノニシテ左ノ四個ノ特別條件ヲ要ス

第一、犯人ハ日本臣民タルコト

第二、外國ト交戰中ナルコト

第三、日本國ニ背叛シタルコトヲ要ス

第四、敵兵ニ附屬シタルコトヲ要ス

以上第一第二ノ要件ニ付テハ(乙)ノ場合ニ說明シタル所ト異ナルナキヲ以テ更ニ贅セス

第三要件、日本本國ニ背叛シタルコトヲ要ス

法文ニハ本國トノミ記載シ日本ノ戰時同盟國ニ背叛スルコトヲ包含セサルカ如キモ此場合ニ於テハ同盟國ニ背叛スルハ即チ日本本國ニ背叛スルモノト認ムヘキヲ以テ同盟國ニ背叛スルモノハ即チ本條件ニ該當スルモノト云フヘキナリ

第四要件、敵兵ニ附屬シタルコトヲ要ス

(一) 敵兵トハ日本ト交戰中ナル敵國ノ兵隊ト云フノ義ニシテ內亂罪ノ場合ニ於ケル內亂軍ヲ包含セサルモノトス

(二) 附屬ストハ極メテ廣汎ナル意義ヲ有シ法文ニハ「單ニ附屬シタル者ハ云々」トアルヲ以テ其執ル所ノ職務ノ種類如何及現實ニ其職務ヲ執ルト否トヲ區別セサルカ故ニ運輸、兵站、醫務、工務其他職務ノ如何ヲ問ハス苟クモ一旦敵國軍隊ニ投シテ之ニ附屬シタル事實アレハ足ルモノトス

終リニ注意スヘキハ(丙)ノ場合ハ本國ニ背叛シ且ツ敵兵ニ附屬スルノ事實ヲ知ルコト(犯意)ヲ以テ足レリトシ遠因ノ如何ハ問フ所ニアラサルナリ故ニ犯人ノ目的カ營利ニアルト慈善心ニ在ルトハ本罪ノ成立ニ影響ナキモノトス

第二段　第百二十九條ノ罪ノ處分

本條ノ罪ニ對スル刑ハ唯死刑ノ一アルノミニシテ彼ノ內亂罪ノ刑ニ於ケルカ如ク各加工者ノ階級ヲ分チ之ニ科スヘキ刑罰ヲ區別スルカ如キコトヲ爲サヽルナリ是レ蓋シ本條ノ罪タル其背德加害ノ極點ニ達シタルモノニシテ犯罪加工者ノ內ニハ假令種々ノ階級アルヘシト雖モ之カ刑責ヲ區別スルノ餘地ナキヲ以テ一般ニ死刑ト云フ極刑ヲ科スルコトヽナシタルモノナルヘシ

第二項　第百三十條ノ罪

刑法第百三十條以下二ケ條ノ罪ハ自カラ前條第百二十九條ノ罪ト異ナル所アリ前條ハ犯人ニ於テ直接外國ニ與ミシテ本國又ハ同盟國ニ抗敵スルヲ謂ヒ反之本條以下ハ所謂內應ナル所爲ニシテ隱然敵兵ヲ助クルヲ謂フナリ而シテ本條以下二ケ條モ解釋論トシテハ犯人ハ日本臣民タルコトヲ要シ外國人ニ對シテハ其敵國人タルト否トヲ問ハス本條以下二條ノ適用ナキモノトス而シテ本條ノ罪ノ成立要件及其處分ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一段　第百三十條ノ罪ノ成立要件

刑法第百三十條ニ曰ク「交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ本國及同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス」即チ本條ハ二ケノ場合ヲ規定セリ左ノ如シ

(甲)　交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメタル場合

(乙)　本國及同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵兵ニ交付シタル場合

以下各場合ニ付テ說明セント欲ス

甲ノ場合ノ成立要件

第一、犯人ハ日本人タルコト

第二、交戰中ナルコト

第三、敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメタルコト

以上ノ要件中第一第二ノ要件ニ付テハ特ニ說明スルノ必要ナキヲ以テ爰ニ之ヲ省略ス

第三要件　敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメタルコトヲ要ス

(一)「敵兵ヲ誘導シ」トハ犯人自カラ案內者トナリテ有形的ニ敵兵ヲ本國管內ニ入ラシメタル場合ハ勿論、書面、口頭ヲ以テ道路ノ順序ヲ指示シタルカ如キ場合モ包含スルモノニシテ現實ニ案內者トナルト否ト又其方法ノ書面タルト口頭タルトヲ問ハス苟クモ敵兵ヲ誘導シタル事實アレハ足ルモノトス

(二) 本國管內トハ日本國ノ版圖內ト云フノ義ニシテ領土ハ勿論領海、領空ヲモ包含スルコト勿論ナリトス蓋シ本條前段ニハ單ニ本國管內トノミアリテ同盟國ナル文字ナキカ故ニ敵兵ヲ誘導シテ日本ノ戰時同盟國管內ニ誘導シタル所爲ハ之ヲ不問ニ附セサルヘカラス是レ本條末段及第百三十一條ニ於テ同盟國ト本國トヲ同一ニ看做シタルノ主旨ニ反シ權衡ヲ失スルモノト謂ハサルヘカラス此點ハ宜シク改正ヲ要ス

乙ノ場合ノ成立要件

第一、犯人ハ日本人タルコト

第二、交戰中ナルコト

第三、本國及同盟國ノ都府、城塞又ハ兵器、彈藥、船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタルコト

以上ノ要件中第一、第二ノ要件ニ付テハ特ニ說明ノ必要ナキヲ以テ爰ニ之ヲ省略ス

第三要件　本國及同盟國ノ都府城塞又ハ兵器、彈藥、船舶其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタルコトヲ要ス

(一) 兵器、彈藥、船艦ハ軍事ニ關スル物件ヲ例示シタルモノニシテ此等ハ凡テ軍事ニ關スルモノタルコトヲ法律カ豫定スルモノトス然レトモ都府城塞ノミハ軍事ニ關スルモノタルコトヲ要セス蓋シ本條ニ記入スル又ハトハ別爲ノモノヲ區別スル爲メニ用ヒタル文字ナレハ其軍事ニ關スルモノタルコトヲ要スルコトハ又ハ以下ニ列記スル物件ニ限ルヘキコト明ラカナリトス而シテ軍事ニ關スル土地家屋物件トハ山川ノ要地、武庫、砲兵工廠、造船所、兵糧、軍用金等ニテ苟クモ軍事ニ供

セラレタルモノハ皆之レヲ包含スルモノトス且ツ此等ノモノハ日本國ニ屬スルト或ハ戰時同盟國ニ屬スルトハ問フ所ニアラサルナリ

(二) 交付トハ引渡ストノ意ニシテ拋棄トハ區別スルコトヲ要ス故ニ例ヘハ敗軍ノ將カ退却ノ際ニ其兵營ヲ拋棄シテ敵ノ占領ニ放任スルカ如キハ交付ニアラサルヲ以テ本罪ヲ構成セサルモノトス

軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ交付スルノ所爲ハ特別法ニモ之ヲ罪トスル明文アリ即チ軍人軍屬ニシテ之ヲ犯ストキハ特別法タル陸軍刑法又ハ海軍刑法ヲ以テ處罰セラルヽモノトス(陸軍刑法第五十三條第十三條、海軍刑法第五十九條、第四條參照)

第二段　本條ノ罪ノ處分

本條ノ罪ヲ犯シタルモノハ總テ死刑ニ處ス

第三項　第百三十一條ノ罪

第一段　本條ノ罪ノ成立要件

刑法第百三十一條ニ曰ク「本國及同盟國ノ軍情、機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタルモノハ無期流刑ニ處ス敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ」即チ本條ハ次ノ如ク三ケノ場合ヲ規定セリ

(甲) 本國及ヒ同盟國ノ軍情、機密ヲ敵軍ニ漏泄シタル場合

(乙) 兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵軍ニ通知シタル場合

(丙) 敵軍ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル場合是レナリ

甲ノ場合ノ成立要件ハ左ノ如シ

第一　犯人ハ日本人タルコト

第二　交戰中ナルコト

第三　本國及ヒ同盟國ノ軍情、機密ヲ敵國ニ漏泄シタルコトヲ要ス

以上ノ要件中第一要件ニ付テハ說明ノ必要ナキヲ以テ之ヲ省畧ス

第二ノ要件ニ付テハ法文ニハ明記ナキモ既ニ敵國ト云フ以上ハ交戰中ナルコトヲ要スルモノトス故ニ交戰前即チ平時ニ於テハ假令第三要件記載ノ行爲アリトスルモ

ルモ本罪ヲ構成セサルモノトス

第三要件　本國及ヒ同盟國ノ軍情、機密ヲ敵國ニ漏泄シタルコトヲ要ス

(一) 軍情、機密トハ軍事其他ノ事項ニシテ本國及同盟國カ外國トノ交戰上之ヲ秘密ニスルノ必要アルモノヲ總稱ス故ニ例ヘハ兵器ノ精疎兵員ノ多寡軍隊ノ進退增減、戰鬪ノ場所、時日、作戰方略、日本國ト同盟國トノ間ノ戰時秘密條約等ニシテ苟クモ秘密ニ屬スルモノハ總テ之ヲ包含ス

(二) 敵國ニ漏泄スルコト、漏泄トハ未タ其眞實ヲ知ラサルモノニ告クルコトヲ意味ス而シテ漏泄ノ方法ハ制限ナキヲ以テ書面タルト口頭タルト又直接ニ敵國ノ官吏ニ通知スルト臣民ヲ經由シテ間接ニ通知スルトハ問フ所ニアラサルナリ

(乙) ノ場合ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　犯人ハ日本人タルコトヲ要ス

第二　交戰中ナルコト

第三　本國及ヒ同盟國ノ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタルコト

以上第一要件第二要件ニ付テハ特ニ說明スヘキ必要ナキヲ以テ爰ニ之ヲ省略ス

第三要件　本國及ヒ同盟國ノ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタルコトヲ要ス

(一) 兵隊屯集ノ要地トハ本國又ハ同盟國ノ兵隊ノ現ニ屯集セル要地ト云フノ義ニアラスシテ廣ク本國又ハ同盟國ニ存在セル要害ノ地ニシテ攻守ノ爲メ兵隊ヲ屯集セシムヘキ場所ヲ指示スルモノトス

(二) 道路ノ險夷トハ軍隊ノ進退スヘキ道路ノ難易ヲ意味ス

(三) 通知トアルハ其事項カ秘密タルコトヲ要セサルカ故ナリ

(丙) ノ場合ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　犯人ハ日本人タルコト

第二　交戰中ナルコト

第三　敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ之レヲ藏匿シタルコト

以上ノ要件第一、第二ノ說明ハ之ヲ省略ス

第三要件　敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿スルコトヲ要ス

（一）間諜トハ公然戰鬪者ノ一員トセスシテ敵情ヲ探知スルノ任ニ方ル者ヲ云フ蓋シ間諜タルコトヲ要スルカ故ニ公然爲戰者ノ一人タル斥候兵ハ之ヲ包含セサルモノトス而シテ敵ノ斥候ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタルトキハ刑法第百三十條ニ依リ處罰スヘキモノナリ而シテ法文ニハ單ニ本國管内トノミアルヲ以テ戰時同盟國管内ニ入ラシメタルトキハ本罪ヲ構成セス此ノ點ハ宜シク改正スルコトヲ要ス

（二）藏匿トハ發見ヲ妨クル總テノ所爲ヲ云ヒ自己ノ家ニ潛伏セシムルト他人ノ家ニ潛伏セシムルトヲ問ハス又其容貌服裝ヲ變シテ宿泊セシムルト其他ノ手段ヲ取リタルトヲ論セス苟クモ其所在ヲ不明ニシ其發見ヲ妨クル所爲ハ凡テ藏匿ト云フヘキナリ而シテ誘導又ハ藏匿シタル所爲ニ限ルヲ以テ單ニ間諜ノ飢渇ヲ救助スル爲メニ衣食ヲ給スルカ如キハ本罪ヲ構成セス

（三）敵國ノ間諜トアリテ其間諜者カ日本人タルト外國人タルトヲ區別セサルヲ以テ日本人ニシテ敵國ノ間諜タルモノモ亦之ヲ包含ス但シ一部ノ論者ハ前揭ノ場合ニ於テハ第百二十九條ノ從犯タルカ又ハ單一ナル罪人藏匿罪タルニ過キストト云フモノアルモ曲解タルヲ免レス

第二段　本罪ノ處分

本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ總テ無期流刑ニ處ス

第百三十一條ノ罪ハ戰時ニ於テ本國ニ背叛スル場合ニ限ルト雖モ仍ホ平時ニ於テモ本國ノ國防上秘密ヲ保ツノ必要アルモノニ付テ之ヲ漏泄シ又ハ漏泄ノ危險アル行爲ヲ處罰スルノ必要アリ（明治三十二年法律第百四號軍機保護法參照）

第四項　第百三十二條ノ罪

第一段　本罪ノ成立要件

刑法第百三十二條ニ曰ク「陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯人ハ日本人タルコト

第二、交戰中ナルコト
第三、犯人ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者タルコト
第四、敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコト
第五、其結果トシテ軍備ノ缺乏ヲ來タシタルコト
以上ノ要件中第一第二ノ要件ニ付テハ特ニ說明スヘキ必要ナキヲ以テ之ヲ省略ス

第三要件　犯人ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲スモノタルコトヲ要ス

(一)陸海軍ヨリ委任ヲ受ケタル者タルコトヲ要スルカ故ニ直接ノ受任者ヨリ更ニ下請負ヲ爲シタルモノ又ハ受任者ノ使役ニ供セラルヽ職工雇人ノ如キ者ハ之ヲ包含セス

(二)物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲スモノタルコトヲ要スルカ故ニ物品ノ運送又ハ軍夫ノ雇入請負ノ如キハ之ヲ包含セス蓋シ現行刑法ノ缺點ト謂ハサルヘカラス而シテ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲スト例ヘハ兵器糧食、上納ノ請負契約ヲ爲シタルカ如キ又ハ陣營屯所建築方ノ請負契約ヲ爲シタル者ノ如キ是レナリ

第四要件　敵國ニ通謀シ又ハ賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコトヲ要ス

(一)通謀トハ敵國ト意ヲ通シテ軍備ノ缺乏ヲ致サンコトヲ謀ルヲ云フ

(二)其賂遺ヲ收受セシトハ敵國ヨリ又ハ敵國ヲ幇助スルモノヨリ賄賂ヲ受ケタルノ義ナリ而シテ敵國ヲ幇助スルモノヨリ賄賂ヲ受ケタルトキハ未タ敵國ト通謀シタルノ事實アリト云フコトヲ得サルモ本罪ヲ構成スヘキモノトス

(三)命令ニ違背シタルコトヲ要スルカ故ニ其命令カ陸海軍ノ爲メ不利ナルコトヲ知リツヽ別ニ忠告ヲモ爲サス之ニ應シタルモ本罪ヲ構成セス然ルニ一部ノ論者ハ第三ノ要件ヲ備フル者カ軍備ニ缺點ヲ來タスノ所爲アルトキハ必ス命令違反ノ事實ノ伴フヘキヲ以テ法文ニ命令違背トアルハ不用ノ文字ナリト論スルモ是レ曲論ナリト謂ハサルヘカラス

第五要件　其結果トシテ軍備ノ缺乏ヲ來シタルコトヲ要ス

軍備ノ缺乏ヲ來シタルコトヲ要スルカ故ニ(一)假令命令ニ違反スルモ却テ軍備ヲ完全ナラシメタル場合ハ勿論別ニ軍備ノ缺乏ト云フ結果ヲ發生セサリシトキハ

本罪ヲ構成セス(二)軍備缺乏ト云フ結果ハ犯人ノ命令違背ニ基因セサルヘカラス即チ二者互ニ原因結果ノ關係アルコトヲ要ス

第二段　本罪ノ處分

本罪ヲ犯シタル者ハ有期流刑ニ處ス

第二款　外患ノ誘引ヲ成形スル罪

本款ノ罪ハ刑法第百三十三條及ヒ第百三十四條規定ノ罪ヲ總稱スルモノニシテ右二ケ條ハ前數條ト共ニ第二節外患ニ關スル罪ノ中ニ規定セラルヽト雖モ前數條トハ犯人ノ目的ニ於テ大ニ異ナル所アリ前數條即チ本國ニ背叛スル罪ハ犯人ノ目的直接又ハ間接ニ我帝國ニ抗敵スルニ在ルモ同法第百三十三條及第百三十四條ノ罪ハ外國ニ對シ直接ニ抗敵スルカ又ハ外國交戰ノ際ニ於テ局外中立ノ布告ニ違反シテ間接ニ交戰國ノ一方ニ抗敵スルニアリ故ニ其性質ヨリ論スルトキハ本章冒頭ニ於テ說明シタル國事犯ノ第三種外國ニ對スル攻擊ニ屬スルモノニシテ別ニ一節ヲ設ケ之ヲ規定スヘキナリ然レトモ本法ニ於テ右二條ヲ以テ本節外患ニ關スル罪ノ內ニ規定シタル所爲ハ蓋シ此等ノ所爲ハ往々外國トノ和親ヲ破

リ外患ヲ釀スノ誘引トナルヘキヲ以テナラン故ニ吾輩ハ右二條ノ罪ヲ總稱シテ假リニ外患ノ誘引ヲ成形スルノ罪ト謂フナリ

終リニ外國ニ對スル攻擊罪ノ性質ニ付テ說明セント欲ス凡ソ國際法ハ常ニ國ト國トノ關係ヲ規定スルモノニシテ各所屬國民ノ權利義務ヲ規定スルモノニアラス國際間ノ法律關係ニ於ケル主體ハ國家自身ニシテ從テ國際法上ノ犯罪ノ主體タリ得ル者モ又國家ニ限ルヘキナリ然レトモ此ノ國際法關係ノ下ニ立ツ各國家ハ自國ノ國民ニシテ他國ニ對シ攻擊ヲ加フルコトヲ鎭壓シ且ツ此ヲ處罰スルノ義務アルヘキナリ而シテ此ノ種ノ處罰規定ニ違犯スル國民ハ自國ノ國法ニ違犯シタルモノニシテ國際法ニ違犯シタルモノニアラス從テ此ノ種ノ處罰規定ニ依リ保護ヲ受クル者ハ原則トシテハ等シク國際法ノ支配ヲ受クル他國ニシテ且ツ本國ト平和的國際關係ヲ維持スル場合ニ限ルヘキナリ

第一項　第百三十三條ノ罪

第一段　本條ノ罪ノ成立要件

刑法第百三十三條ニ曰ク「外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタルモノハ有期流刑ニ處ス

其豫備ニ止マルモノハ一等又ハ二等ヲ減ス二即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯人ハ日本人タルコトヲ要ス

第二、外國ニ對スルコト

第三、私ニ戰端ヲ開キタルコト

以上ノ要件中第一ノ要件ニ付テハ特ニ說明ノ必要ナキヲ以テ爰ニ之ヲ省畧ス

第二要件　外國ニ對スルコトヲ要ス

外國トハ日本國以外ニ於テ一定ノ土地人民ヲ有シ唯一主權ヲ以テ之ヲ統治スル主體ヲ指示スルモノニシテ外國ニ對シトハ外國主權ニ抗敵スルヲ云フ故ニ例ヘハ日本人群ヲ爲シテ單ニ外國ノ海岸若クハ一村落ヲ騷擾シ財物ヲ劫掠スルカ如キハ未タ外國ニ對スル抗敵ト云フコトヲ得ス然レトモ外國主權ヲ代表スル軍艦又ハ軍隊ニ對シテ抗敵スルカ如キハ明カニ本條件ヲ構成スルモノトス

第三要件　私ニ戰端ヲ開キタルコトヲ要ス

(一)私ニトハ宣戰布告ノ大權アル日本帝國天皇ノ命令又ハ許可ヲ得スシテト云フノ意義ナリ

(二)戰端ヲ開クトハ戰爭行爲ノ着手以上ヲ意味ス而シテ戰爭ノ着手以上ナルヤ將タ豫備ニ止マルヤハ各場合ニ付テ決スヘキ事實問題ニ屬スト雖モ外國ヲ征スル目的ヲ以テ出師ノ途ニ着キタルノミニテハ戰爭ノ豫備ニシテ未タ着手ト云フコトヲ得サルヘシ

終リニ注意スヘキハ本條ノ罪ハ外國ニ對シテ戰端ヲ開キタルコトヲ要スルカ故ニ既ニ日本ト交戰中ナル外國ニ對シテ軍人軍屬ニアラサル一私人カ妄リニ團體ヲ組織シテ敵國ニ抗敵スルカ如キハ戰端ヲ開キタルモノニアラサルヲ以テ本罪ヲ構成セス

第二段　本罪ノ處分

本罪ノ着手以上ノ所爲アルモノハ總テ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止マルモノハ有期流刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減ス

第二項　第百三十四條ノ罪

第一段　第百三十四條ノ罪ノ成立要件

刑法第百三十四條ニ曰ク「外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタルトキ其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯人ハ日本人タルコト

第二、外國交戰ノ際タルコト

第三、局外中立ノ布告ニ違背シタル行爲アルコト

以上ノ要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　犯人ハ日本人タルコトヲ要ス

法文ニ本國トアルハ日本臣民ノ本國ト云フノ義ニシテ犯人ハ日本人タルコトヲ要スルヤ明了ナリトス

第二要件　外國交戰ノ際タルコト

第三要件　局外中立ノ布告ニ違背シタル所爲アルコトヲ要ス

凡ソ一國カ局外中立ヲ布告スルニ當テハ二個ノ方法アリ一ハ唯局外中立ヲ守ルヘキコトノミヲ布告シ特ニ局外中立國ノ臣民トシテ爲スヘカラサル所爲ヲ列記

シタル禁令ヲ發セサルモノト二ハ局外中立タルコトヲ布告スルト同時ニ局外中立國ノ臣民トシテ爲スヘカラサルノ所爲ヲ列記スル所ノ附屬ノ禁令ヲ發スルモノトアリ而シテ第一ノ場合ニ於テハ其如何ナル所爲カ局外中立ノ布告ニ違背スルヤハ一ニ國際公法ノ原則ニ依テ之ヲ判定セサルヘカラス此點ニ付テハ學者間ニ異論ナキ所トス然レトモ第二ノ場合ニ於テハ附屬ノ禁令ニ列記セラレサル所爲ハ假令國際公法上局外中立違背ノ所爲ト認ムヘキモノナリト雖モ之ヲ處罰スルコトヲ得サルカ此點ニ付テハ一部ノ論者ハ消極說即チ處罰スルコトヲ得ストノ主張スルモノアルモ吾輩ノ信スル所ニ依レハ附屬ノ禁令ニシテ其列記以外ノ所爲ヲ處罰セスト明記スル場合ノ外ハ其列記以外ノ所爲ト雖モ一般國際公法ノ原則ニ依リテ局外中立違背ノ有無ヲ判定セサルヘカラサルモノニシテ唯列記ノ所爲ニ限リテ特ニ國際公法ノ原則ニ依リ之ヲ判定スルノ必要ナキニ止マルヘキナリ而シテ國際公法上局外中立違背ノ行爲トシテ當然認メラルヘキモノハ例ヘハ交戰國ノ一方ニ兵器、船舶等ヲ給與スルカ如シ終リニ法文ニハ局外中立ヲ布告シタル時云々トアルヲ以テ所爲ノ當時ニ於テ國

家カ形式的ニ局外中立ヲ布告シタルコトヲ要スルヤ勿論ナリト雖モ此ノ布告ハ本罪ノ構成要件ニアラスシテ處罰ノ條件タルニ過キサルカ故ニ犯人ニ於テ此ノ布告アリタルコトヲ知ラサリシトノ理由ヲ以テ其刑責ヲ免カルヽコトヲ得サルナリ

第二段　本罪ノ處分

本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

終リニ一言スヘキハ立法論トシテハ本款ハ別ニ國交ニ關スル罪トシテ一節ヲ設ケ右二條ニ規定スル行爲ノ外ニ帝國ニ滯在スル外國ノ君主大統領使節及ヒ外國ノ國旗國章等ニ對スル暴行若クハ侮辱ノ行爲ヲ處罰スヘキノ規定ヲ設ケサルヘカラサルナリ（刑法改正案第百八條參照）（乃至第百十二條參照）

第三章　靜謐ヲ害スル罪

本章靜謐ヲ害スル罪トハ佛文草案第二編第四章公ノ平和ニ對スル重罪輕罪ニ該當スルモノニシテ本章ニハ第一節兇徒聚衆ノ罪、第二節官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪、第三節囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪、第五節私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及所有スル罪、第六節往來通信ヲ妨害スル罪、第七節人ノ住所ヲ侵ス罪、第八節官ノ封印ヲ破棄スル罪、第九節公務ヲ行フヲ拒ムノ罪ヲ包含スト雖モ所謂公ノ平和 Der öffentliche Friede トハ人類カ共同團體ノ一員トシテ享有スル所ノ法益ノ一種ニシテ此ノ法益ハ客觀的及ヒ主觀的雙方ヨリ觀察セサルヘカラス即チ客觀的ニハ法規ニ依テ其行使方法ノ一定セラレタル國權ノ保護力ニシテ主觀的ニハ共同團體カ此ノ國權ノ保護力ニ對スル信賴換言スレハ法規カ侵害セラレスニ繼續スヘシトノ信賴ヲ意味ス（フォイエルバッハ氏リスト氏ビンディング氏メルケル氏マイエル氏ゲールス氏エートケル氏ト同說反之カツツペンハイム氏ハイルボルン氏ハ客觀的觀念ニ於テノミ說明シフォインゲル氏ハ主觀的觀念ニ於テモ說明セリ）此ノ如ク公ノ平和ハ客觀的主觀的雙個ノ方向ヲ有スルカ故ニ此ノ法益ハ有形的（暴行）及ヒ無形的（脅迫）手段ニ依リ之ヲ侵害スルコトヲ得ヘシ而シテ本章第一節ニ規定スル兇徒聚衆罪ハ明ラカニ此ノ種ノ法益侵害ニ屬スト雖モ第二節官吏ノ職務ヲ行フヲ防害スル罪以下ノ罪ハ未タ以テ直ニ公ノ平和ヲ侵害スルノ行爲ト云フコトヲ得サルヲ以テ本章靜謐ヲ害スル罪ノ下ニ此等各般ノ罪ヲ包含セシメタルハ

法規ノ編纂上穩當ナラス然レトモ暫ラク現行刑法規定ノ順序ニ從ヒ本章各節ニ規定スル犯罪ヲ順序說明セント欲ス

第一節　兇徒聚衆ノ罪

茲ニ兇徒聚衆ト云フハ彼ノ博徒浮浪ノ徒ノ如キ當初ヨリ良民ヲ以テ目セラレサルノ輩ヲ聚集シタルノ謂ニアラスシテ暴動ノ目的ヲ以テ多衆カ相集リタル狀態ヲ云フノ義ナリ故ニ平素ハ良民ヲ以テ目セラルヽ者モ苟モ暴動ノ目的ヲ以テ相集マルトキハ之ヲ目シテ兇徒聚衆ト謂フヘク決シテ當初ヨリ兇徒ト稱スヘキ特別ノ種族アルニアラサルコトヲ注意セサルヘカラス

第一項　暴動ヲ謀リタル罪

第一段　本罪ノ成立要件

刑法第百三十六條ニ曰ク「兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ說諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ敎唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附加隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、多衆嘯聚シタルコト

第二、暴動ヲ謀リタルコト

第三、官吏ノ說諭ヲ受クルモ仍ホ解散セサルコト

以上各要件ニ付テ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　多衆嘯聚シタルコトヲ要ス

法文ニハ兇徒多衆ヲ嘯聚シテトアルモ兇徒トハ其嘯集ノ目的カ暴動ヲ爲スニアルニ依リ附スル所ノ名稱ナレハ法文ニ暴動ヲ謀リトアル以上ハ兇徒ナル文字ハ無用ニ歸スルモノナリ而シテ法文ニハ多衆嘯集シトアリテ其人數ニ付テ豫メ制限ヲ設ケサルカ故ニ其果シテ多衆ナルヤ否ヤハ事實審判官ノ判定ニ任スヘキモノトス最初他ノ目的ノ爲メニ集合シ中途ニシテ暴動ヲ謀リタルトキニ於テモ此ノ目的ノ爲メニ其集合ヲ繼續シタルトキハ本條件ヲ充タスヘシ（明治三十五年五月十二日大審院判例）

第二要件　暴動ヲ謀リタルコトヲ要ス

（一）暴動トハ次條第百三十七條ニ說明スルカ如ク官廳ニ喧鬧シ官吏ニ强逼シ又

ハ村市ヲ騒擾スルカ如キ其他總テ嘯聚シタル多衆ノ共同力ニ依リ人及ヒ物ニ對スル暴行脅迫ヲ指スモノニシテ兇器ヲ携帯スルト否トハ問フ所ニアラス俗ニ百姓一揆ト稱スル如キモノハ其著例ナルモノトス

(二)謀ルトハ陰謀ハ勿論豫備着手未遂ヲモ尚ホ之ヲ包含スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ本條ハ次條ニ比シテ着手未遂以下ノ程度ニアルモ敢テ次條ニ規定スル犯罪ノ着手未遂豫備陰謀トシテ之ヲ處罰スルニアラス別ニ獨立ノ罪トシテ之ヲ處罰スルモノナリトス

第三要件　官吏ノ說諭ヲ受クルモ仍ホ解散セサルコトヲ要ス

(一)法文ニハ單ニ官吏トアルモ本條ノ罪ハ官吏ノ說諭ニ服セサルニ依リ成立スルモノナレハ其官吏トハ此暴動ヲ慰撫鎭制スヘキ職權アルモノニ限ルヘキヤ明ラカナリトス即チ治安警察ノ任ニアル官吏タルコトヲ要ス例ヘハ府縣知事、郡區長、警察官ノ如キハ其著例ナルモノトス

(二)官吏ノ說諭ニ服セサルコトヲ要スル所以ハ此等暴動ヲ謀ルノ所爲ハ其結果ハ必スシモ大ナラスト云フヘカラサルモ此等ハ一時ノ感情ニ激セラレテ附和雷動スルニ過キス彼ノ國事犯ノ如ク深謀遠慮アルモノニアラス唯暴動ノ目的アルモ未タ暴動ヲ爲スニ至ラサルモノナレハ之ヲ說諭シテ解散セシムルトキハ速ニ良民ニ復スル所ノ者ナリ故ニ官吏ノ說諭ニ服セス尚ホ剛愎執拗ニシテ解散ヲ肯セサル者ヲノミ處罰スルコトヽナシタルナリ(明治二十三年法律第百號ニ依リ刑法中官吏ニ關スル規定ハ公吏ニ準用スルコトヽナリタルカ故ニ公吏ニシテ此等暴動ヲ慰撫鎭壓スヘキ職責アルモノ例ヘハ市町村長ノ說諭ヲ受ケテ仍ホ解散セサル場合ニ於テモ本罪ヲ構成スルモノトス)

犯意ハ官吏ノ說諭ヲ受ケタルコトヲ知ルコトヲ要スルモ犯人カ直接ニ說諭ヲ聽クト否トハ問フ所ニアラス

第二段　本罪ノ處分方法

本罪ノ成立ニハ多衆嘯集スルコトヲ要スルカ故ニ本罪ノ特性トシテ本罪ノ主體ハ多衆ノ團結タルコト勿論ナリトス隨テ其加擔者ノ責任ニ付テモ刑法第百二十一條ノ如ク之ヲ數段ニ分テ各階級ニ付テ其刑罰ヲ異ニスルコトヽセリ即チ(一)首魁及教唆者ヲ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ(二)附和隨行シタルモノヲ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二項　暴動ヲ爲シタル罪

第一段　本罪ノ成立要件

刑法第百三十七條ニ曰ク兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者ハ首魁及ヒ敎唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」即チ本條ノ成立條件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、多衆嘯集シタルコト

第二、暴動ヲ爲シタルコト

以上各要件ニ付テ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　多衆嘯集シタルコトヲ要ス

本要件ニ付テハ第一項暴動ヲ謀リタル罪ノ部ニ於テ說明シタル所ト異ナルナキヲ以テ之ヲ省略ス

第二要件　暴動ヲ爲シタルコトヲ要ス

暴動ノ何物タルコトモ亦前項ニ於テ說明シタル所ナルヲ以テ爰ニハ法文カ明示セル二三ノ例ニ付キテ說明スルニ止ムヘシ

(一)官廳ニ喧鬧シトハ多人數連合シテ各省、各府縣廳、郡役所、裁判所、警察署、其他ノ官廳ニ押寄セテ喧囂騷動スルヲ云フ

(二)官吏ニ強逼スルトハ多人數集合シテ強ヒテ官吏ニ對シ其職務ニ屬スル事項ヲ請願スルヲ云フ而シテ其請願ノ事項カ至當ナルト否トハ問フ所ニアラス亦法文ニハ官吏ノ職務執行中ナルト否トヲ區別セサルカ故ニ官吏ノ私宅ニ就テ強逼スル場合ヲモ包含スヘシ(明治二十三年法律第百號ニ依リ公吏ニ強逼スル場合ニ付テモ適用アリ公署ニ喧鬧スル場合亦同シ)

(三)村市ヲ騷擾ストハ一村一市ノ民ヲシテ其堵ニ安スル能ハサラシムルヲ謂フ而シテ村市ヲ騷擾スルノ原因ニ付テハ法律ハ別ニ之カ制限ヲ設ケサルヲ以テ例ヘハ凶歲ニ際シ救恤ヲ促カス爲メ多人數連合シテ村內ノ各富豪ノ門ニ喧鬧シ或ハ大旱ニ際シ水利ヲ爭フ爲メ一村ノ民カ連合シテ他村ニ押寄セタルカ如キ何レモ本要件ニ該當スルモノトス

第二段　本罪ノ處分

本罪モ又多衆ノ犯人アルコトヲ要スルカ故ニ其刑罰モ亦各加擔者ノ階級ニ應シテ一樣ナラス即チ(一)首魁及敎唆者ハ重懲役ニ處ス(二)其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタルモノハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス(三)附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス以上ハ刑法第百二十一條ノ罪ノ處分ニ關スル說明ト對照シテ意義自カラ明ラカナルヲ以テ別ニ說明セス終リニ臨ンテ前條及ヒ本條ノ罪ニ未遂犯アリヤ否ヤノ問題ヲ決セント欲ス

第一、前條即チ第百三十六條ハ官吏ノ說諭ヲ受ケテ解散スルト否トニ依テ成立不成立ヲ決スルモノニシテ官吏ノ說諭ニ服セサルトキハ直チニ本罪ヲ構成シ固ヨリ未遂犯ノ塲合アルヘカラサルモノトス

第二、本條即チ第百三十七條ニ未遂犯アリヤ否ヤニ付キテハ從來學者間ニ議論アル點ナリトス或ハ本罪ニ未遂犯全クナシト云ヒ或ハ本罪ニ未遂犯タル塲合アルヘキモ官吏ノ說諭ニ依ル未遂犯ノ塲合ノ外ハ刑法第百三十六條規定ノ結果無罪タルヘシト云ヒ或ハ同法第百三十六條ハ本條ノ豫備以下ノ所爲ニ止マルモノニシテ苟クモ著手以上ニ進ムトキハ官吏ノ說諭ノ有無ニ關セス本條ノ罪ノ旣遂

又ハ未遂ヲ構成スト云ヒ諸說其軌ヲ一ニセスト雖モ吾輩ノ信スル所ニ依レハ本條ハ犯人ニ於テ暴動ヲ爲シタルトキニ限リ本罪ヲ構成シ若シ暴動ヲ爲スニ至ラサルトキハ總テ同法第百三十六條ニ依リ官吏ノ說諭ヲ受ケナカラ仍ホ解散セサルニ依テ初メテ處罰セラルヘキモノトス即チ同法第百三十七條ニハ全ク罰セラルヘキ未遂即チ未遂犯ナシトス何トナレハ同法第百三十七條ノ罪ヲ犯シタル首魁、敎唆者及嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ノ中情ノ重キモノハ何レモ重罪ノ刑ニ該ルヘキヲ以テ本罪ニ未遂犯アリトセハ總則第百十二條及第百十三條ニ依リ之カ未遂ハ當然處罰セサルヘカラサルニ反シ其嘯聚ニ應シ煽動シ勢ヲ助ケタル者ノ中情ノ輕キ者及附和隨行者ノ刑罰ハ何レモ輕罪ノ刑ナルヲ以テ其未遂犯ハ法ニ明文ナキ以上ハ之ヲ處罰スルコトヲ得ス(本法百十三條參照)而シテ假リニ本條ノ未遂犯ヲ認ムルトキハ其結果前條第百三十六條ノ所爲ハ暴動ノ豫備以下ニ止ムルモノト解セサルヘカラス隨テ暴動ノ豫備以下ノ程度ニ止マル間ニ於テ官吏ノ說諭ヲ受ケテ解散セサルトキハ同法第百三十六條ヲ以テ處罰セラルヘキモ旣ニ豫備以上ノ程度ニ達シタルトキハ官吏ノ說諭ノ有無ニ拘ハラス當然同法第百三

十七條ノ既遂又ハ未達ヲ以テ論スルコトヽナリ而カモ其嘯聚ニ應シ煽動シテ其勢ヲ助ケタル者ノ中情ノ輕キ者及附和隨行シタル者ハ假令官吏ノ說諭ヲ受ケ解散セスト雖モ暴動ノ未遂ニ止マルトキハ到底之ヲ處罰スルコトヲ得サルノ結果ヲ生シ同法第百三十六條ニ比シテ極メテ不權衡ナル結論ヲ生スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ是ニ依テ之ヲ觀レハ以上ノ場合モ等シク刑法第百三十六條ヲ以テ處罰スヘク同法第百三十七條ハ暴動ノ既遂ノミニ適用セラルヘキモノト解セサルヘカラス

第三項　暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫等ヲ燒燬シタル罪

第一段　本罪ノ成立要件

刑法第百三十八條ニ曰ク「暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス首魁及敎唆者情ヲ知テ制セサルモノ亦同シ」即チ本論ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、暴動ノ際タルコト

第二、人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタルコト

以上各要件ニ付テ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　暴動ノ際トハ暴動ヲ爲スニ方リト謂フノ義ニシテ詳言スレハ暴動ニ與リタル者カ暴動ノ勢ニ乘シテ殺燒燬等ヲ爲シタルコトヲ謂フモノニシテ暴動ニ與カラサル者カ暴動ノ際ニ方リテ此等ノ所爲ヲ爲スカ又ハ假令暴動者ナルモ暴動ノ終リタル後ニ他人ヲ殺死スルカ如キ場合ハ之ヲ包含セサルモノトス

第二要件　人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫ヲ燒燬シタルコトヲ要ス

(一)　法文ニハ人ヲ殺死シトアリテ其殺害カ豫謀ニ出テタルト故意ニ出テタルトヲ區別セサルヲ以テ謀殺故殺共ニ本條中ニ包含セラルヽヤ明ラカナリトス然レトモ過失殺毆打致死ノ如キ何レモ犯人ニ於テ人ヲ殺スノ意思ナカリシ者ヲモ猶ホ本條中ニ包含スルヤ否ヤト云フニ此等殺人ノ犯意ナキ場合ニ付テハ法律ハ常ニ「因テ死ニ致シタル者ハ云々」(本法第二百九十九條第三百十七條參照)ナル文字ヲ用ヒ客觀的ニ其因果ノ關係ヲ言ヒ顯ハシタルニ反シ本條ニハ「人ヲ殺死シ云々」ナル文字ヲ用ヒ主觀的ニ其因果ノ關係ヲ言ヒ表ハシタルニ依テ是ヲ觀レハ本條ハ過失殺毆打致死ノ

如キ犯人ニ於テ殺意ノ意思ナキ場合ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス加之彼ノ過失殺ノ如キ罰金刑ナルニ偶々暴動ノ際ニ該リタルノ理由ヲ以テ直チニ死刑ニ處分スルカ如キハ刑罰ノ不權衡モ亦甚シト謂ハサルヘカラス故ニ此等ノ場合ハ本要件中ニ包含セサルヤ勿論ナリトス

(二) 家屋、船舶、倉庫等ヲ燒燬シトアリテ法律ハ家屋ニ人ノ住居シタルト、否ト倉庫ニ物件ヲ藏シタルト否ト、船舶ニ人ヲ乘セタルト否トヲ區別セサルヲ以テ等シク本要件中ニ包含セラルヽモノトス、而シテ法文ニ等トアルハ燒燬ノ目的物ハ必スシモ家屋、船舶、倉庫ニ限ラス其他之ニ類似スルモノト謂フノ義ニシテ其果シテ此等ト類似スルヤ否ヤハ各場合ニ付テ決スヘキ事實問題ナリトス例ヘハ家屋、倉庫以外ノ建造物及ヒ馬車、瀧車ノ如キモ時トシテハ此條件中ニ包含セラルヽモノトス反之田野ニ堆積シタル枯草ヲ燒キ或ハ徽小ナル物置小屋ヲ燒燬スルカ如キハ本要件ヲ充タスモノト謂フヘカラサルナリ蓋シ等ナル文字ハ其限界一定セス從テ適用上往々不明ノ場合ヲ生スヘキヲ以テ立法上此文字ハ可成避クルコトヲ要ス

(三) 燒燬ノ意義ニ付テハ放火犯ノ説明ヲ參照スヘシ而シテ爰ニ所謂燒燬ト云フ文字モ亦殺死ト同一ノ理由ニ依リ失火ノ場合ヲ包含セサルモノトス

終リニ一ノ問題ヲ決セント欲ス即チ暴動ノ際人ヲ毆打創傷シ又ハ器物ヲ毀損シタル者ノ處分如何蓋シ本法第百三十八條ニハ暴動ノ際ニ於ケル謀故殺人、放火ノ場合ノミヲ規定シテ暴動ノ際ニ於ケル毆打創傷又ハ器物毀損ノ場合ヲ規定セサルヲ以テ此等ノ行爲ハ凡テ本法第百三十七條ニ所謂暴動ノ行爲中ニ吸收セラルヘキモノナリヤ否ヤトノ問題ハ從來我刑法學者間ニ議論アル所ナリト雖モ吾輩ハ反對説アルニ拘ハラス本問ノ場合ニ於テハ單ニ第百三十七條ニ規定スル暴動罪ノミヲ構成スルモノト信ス、何トナレハ法文ニ「云々其他暴動ヲ爲シタル者云云」トアリテ暴動ノ手段方法ヲ限定セス苟クモ暴動ト稱スヘキ總テノ場合ヲ包含セリ而シテ毆打創傷、器物毀損ノ行爲モ亦暴動行爲ノ一ノ手段方法ト認メ得ヘキヲ以テ此等ノ行爲ハ同條ノ罪ノ内ニ吸收セラルヽモノト解スルヲ至當トス但シ爰ニ注意スヘキハ假令暴動者ノ或者カ暴動ノ目的以外ニ於テ人ヲ毆打創傷シ又ハ器物ヲ毀損シタル行爲アリタルトキハ現ニ手ヲ下シタル者

ニ對シテ第百三十七條ノ暴動罪ト他ノ罪トノ數罪俱發ヲ以テ論セサルヘカラス

以上述フル如ク暴動團體ノ或者カ暴動ノ際其暴動ノ目的以内ニ於テ人ヲ毆打創傷シ又ハ器物毀損ノ行爲アリタルトキハ現ニ手ヲ下シタルモノト雖モ第百三十七條ノ規定ニ從ヒ或ハ附和隨行シタル者トシテ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラルヽコトアルヘキナリ而シテ暴動ノ際官吏ニ抗拒シタル塲合ニ付テモ前段說明シタルト同一理由ニ依リ本問ノ塲合ト同一論結ヲ生スルモノトス

第二段　本罪ノ處分

刑法第百三十八條ニ曰ク「云々現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス、首魁及ヒ敎唆者情ヲ知リテ制セサル者亦同シ」卽チ本罪ノ處分ハ左ノ如シ

(一) 現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス是レ普通殺人又ハ放火ヨリモ重ク處罰スルモノトス蓋シ普通ノ塲合ニ於テハ人ヲ故殺シタル者ハ無期徒刑ニ處シ人ノ住居セサル家屋ニ放火シタル者ハ無期徒刑ニ人ヲ乘載セサル船舶等ニ放火シタル者ハ重懲役ニ處セラルヽニ拘ハラス暴動ニ際シ此等ノ行爲アリタルトキハ總テ死刑ニ處スル所以ハ暴動ノ際ニ在テハ此等ノ行爲ハ犯スニ易ク防クニ難ク犯人ノ背德加害ノ點普通ノ塲合ニ於ケルヨリモ重大ナルカ故ナリ而シテ法文ニハ現ニ手ヲ下シ云々トアルヲ以テ假令暴動ニ與ミスルモ殺人放火ノ實行ニ與ミセサル者ニハ本條ヲ適用セス而シテ暴動ニ與ミシタル者ノ内數人共同シテ殺死、放火ヲ爲シタルトキハ本條竝ニ總則共犯ノ規定ヲ適用スヘキヤ勿論ナリトス

(二) 首魁及敎唆者情ヲ知テ制止セサル者亦同シ法文ニ所謂首魁及ヒ敎唆者トハ暴動ノ首魁及ヒ敎唆者ト謂フノ義ニシテ殺人、放火ノ首魁及ヒ敎唆者ト謂フノ義ニアラス蓋シ此等ノ犯人ハ別ニ本條第二項ノ規定ヲ要セスシテ總則共犯ノ例ニ從ヒ當然死刑ニ該ルヘキヲ以テナリ而シテ本條第二項ニ所謂首魁及ヒ敎唆者カ死刑ニ處セラルヽニハ(イ)部下ノ者カ人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫等ヲ燒燬スルノ情ヲ知ルコト(ロ)其情ヲ知テ之ヲ制止セサルコトヲ要ス蓋シ首魁及敎唆者其情ヲ知リ之ヲ制止セサルトキニ於テ現ニ殺死、放火ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ヲ科スル所以ハ首魁、敎唆者ハ暴動ノ指揮又ハ原動力トナリタルモノニシテ其暴動ニ與ミスル配下トハ密接ノ關係アルヲ以テ其配下ノ行爲ニ付テ直接責任ヲ負ハシ

ムルコトヽシ以テ暴動ノ害ノ大ナラサルコトヲ期スルニアリ然レトモ首魁、教唆者ニ於テ配下ノ者カ殺死、放火ヲ爲スノ情ヲ知ラサリシトキ又ハ假令其情ヲ知ルモ之ヲ制止シ得サリシトキハ之レカ責任ヲ負ハシムヘキ理由ナキヲ以テ此場合ニ於テハ單ニ暴動ノ首魁、教唆者トシテ同法第百三十七條ノ適用ヲ受クルノミトス

第二節　官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

本節ハ第百三十九條乃至第百四十一條ノ三ケ條ヲ包含スル而シテ法律ハ此等三ケ條規定ノ場合ヲ總稱シテ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ト云フ標題ヲ冠スト雖モ其規定スル事項ヲ檢スルニ一ハ官吏ノ職務執行ヲ抗拒シ若クハ官吏ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシムル罪ト他ハ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪ニシテ之ヲ總轄シテ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ト稱スルハ頗ル當ヲ失スルノ感アリ故ニ吾輩ハ便宜上本節ヲ(一)官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪(二)官吏ノ職務ニ對スル侮辱罪ノ二款ニ分テ之ヲ說明セント欲ス

第一款　官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪

本款ノ罪ハ刑法第百三十九條第百四十條ニ規定スル所ニシテ各條何レモ官吏ノ職務執行ヲ保護スルノ主旨ニ出テタルモノナリ而シテ第百三十九條第一項ハ官吏ノ職務執行ニ抗拒スル場合第二項ハ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ爲サシメタル場合、第百四十條ハ第百三十九條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シ仍テ官吏ヲ毆傷シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

第一項　第百三十九條第一項ノ罪

第一段　本罪ノ成立要件

刑法第百三十九條第一項ニ曰ク「官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法、官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト即チ本條ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタルコト

第二、其抗拒ハ官吏ニ對シテ爲シタルコト

第三、官吏ノ職務執行中其職務ニ對シテ抗拒シタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル所爲アルコトヲ要ス

(一)抗拒トハ他人ノ意思ノ實行ニ對シ之ヲ妨害スル爲メ積極的ニ相爭フノ狀態ヲ謂フ、抗拒トハ積極的ニ相爭フコトヲ意味スルカ故ニ單ニ官吏ノ訊問ニ對シテ答辯セス、官吏ノ命スル行爲ヲ履行セス又ハ官吏ノ逮捕ヲ免ルヽ爲メ遁逃スルカ如キ何レモ他人ノ意思ノ實行ニ對シ消極的ニ相爭フコトハ爰ニ所謂抗拒ノ條件ニ該當セサルモノトス

(二)抗拒ノ手段ハ暴行脅迫ニ依ルコトヲ要ス(イ)暴行トハ物ニ對スルト人ニ對スルトヲ問ハス總テ不正ニ體力ヲ用ユルコトヲ意味スルモ法文ニハ其官吏ニ對シテ云々トアルヲ以テ爰ニ所謂暴行トハ人ニ對スル暴行ト解セサルヘカラス而シテ法文ニハ暴行ノ程度ニ付テ制限ヲ設ケサルカ如シト雖モ次條第百四十條ニ於テ「因テ官吏ヲ毆傷シタルモノ云々」ト規定シタルヲ以テ暴行ノ結果官吏ヲ創傷疾病死ニ至ラシメタル場合ハ之ヲ包含セサルモノト解スヘキナリ、暴行ハ人ニ對スルコトヲ要スト雖モ必スシモ直接ニ人ニ對抗スルコトヲ要セス物件ヲ介シテ間

接ニ人ニ對抗スル場合ヲモ包含スルモノトス故ニ例ヘハ直接ニ人ノ身體ヲ拘束セスト雖モ人ノ乘馬ヲ射テ其ノ進退ヲ遲緩ナラシムルカ如キ或ハ人カ戶扉ヲ開ヒテ內ニ侵入セントスルニ當タリ內部ヨリ押ヘテ侵入セシメサルカ如キ何レモ物ヲ介シテ間接ニ人ニ對抗スルモノナレハ本條件ヲ充タスニ於テ欠クル所ナシ(ロ)法文ニ所謂脅迫トハ人ノ生命身體ニ對シ現ニ傷害ヲ加ヘントノ狀態ヲ示スコトヲ意味シ且ツ其脅迫ヲ受ケタル者ニ於テ脅迫ノ手段ヲ眞實ニ實行セラルヽモノト信用シタルトキニ於テ完成ス反之脅迫ヲ加フル者ニ於テ眞實之ヲ實行スルノ意思アルヤ否ヤハ問フ所ニアラサルナリ從テ(一)人ノ生命身體以外ノ利益ヲ傷害セントスルノ狀態ヲ示スカ(二)將來ニ於テ人ノ生命身體ニ對シ傷害ヲ加ヘントスルノ狀態ヲ示スモ脅迫ト云フコトヲ得ス(三)假令人ノ生命身體ニ對シ現ニ傷害ヲ加ヘントノ狀態ヲ示スモ相手方ニ於テ其狀態ヲ眞實ナリト信用セサルトキハ未タ以テ脅迫ヲ遂ケタリト云フコトヲ得ス次ニ脅迫ノ狀態ヲ示ス方法ハ法律ニ於テ限定セサルヲ以テ言語ニ依ルト文章ニ依ルト又形容ニ依ル(例ヘハ拳ヲ振上ケ又ハ銃ヲ以テ狙フカ如キ類ナリ)トハ問フ所ニアラサルナリ要之本條所謂暴行

脅迫ハ强盜罪ノ構成要件タル暴行脅迫ト同一意義ニ解スヘキモノニシテ詳細ナル說明ハ第三編ノ講義ニ讓ル

第二要件　抗拒ハ官吏ニ對シテ爲シタルコトヲ要ス

本條所謂官吏中ニハ外國ノ官吏ヲ包含スルヤ否ヤ本條ハ國權行使ノ機關タル自國官吏ノ行爲ヲ保護スル爲メニ設ケラレタルモノニシテ法文ニ特別ノ規定ナキ以上ハ自國官吏ノ行爲ニ限リ之ヲ保護スルモノト云ハサルヘカラス(本法第百十六條乃至第百十九條參照)從テ外國官吏カ內國ニ於テ其所屬臣民ニ對シテ職務ヲ執行スル場合ニハ本條ノ保護ヲ受ケサルモノトス(フガンリスト氏フガンバール氏エールベルハール氏フランク氏ヘルシユ子ル氏ハイルボルン氏ハインツエ氏ヨーン氏ランマツシユ氏メルケル氏ガールスハウゼン氏シエルツ氏ゾイフエルト氏ストラライト氏フオンベヒテル氏等ト同說反之マイエル氏バイフエルト氏及ヒ獨乙大審院判例ハ外國官吏ヲモ包含スト說明セリ)次ニ法文ニハ「法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スル」ニ當リ……其官吏ニ云々」トアルヲ以テ爰ニ所謂官吏トハ一般ノ官吏ヲ總稱スルニアラスシテ官吏中特ニ法律規則又ハ命令ヲ執行スル所ノ官吏即チ執行官吏ノミヲ指示スルモノトス例之司法警察官、巡査、憲兵卒、執達吏、收稅吏、稅關吏、看守等ノ如キ之ニ屬ス故ニ單ニ下級官吏ニ對シテ命令ヲ發シ下級官

吏ヲシテ之ヲ執行セシムル所ノ上級ノ官吏ハ之ヲ包含セサルモノトス次ニ法文ニハ單ニ官吏トノミアルモ明治二十三年法律第百號ニ依レハ刑法中官吏ニ關スル規定ハ公吏ニ準用スルコトヽナレルカ故ニ公吏トシテ法律規則ヲ執行シ又ハ司法行政官署ノ命令ヲ執行スル所ノ者ニ對シテモ抗拒罪ヲ構成スルモノトス即チ公證人、市町村長、市參事會議員其他ノ市ノ吏員ノ如キ皆之ニ屬ス執行官吏公吏ノ補助員トシテ官吏、公吏ノ職務執行ニ干與スルモノニ對シテモ猶本罪ヲ構成シ得ルヤ否ヤト云フニ蓋シ此等ノ者ハ執行官吏ノ機械トシテ其職務ノ執行ヲ補助スルモノナレハ此等ノモノニ對スル暴行脅迫ハ即チ間接ニ官吏ニ對スル暴行脅迫ト云フコトヲ得ヘキナリ然レトモ單ニ法律ノ規定ニ基キ官吏ノ職務執行ニ立會フノミニテ別ニ其執行ノ補助ニ與カラサル者例ヘハ刑事訴訟法第九十二條第二項第百四條ニ規定スル豫審處分ニ關スル立會人(市長村長ヲ除ク)ニ對シテハ本罪ヲ構成セサルモノトス但シ此點ニ付テハ特別ノ明文ヲ設ケ處罰スルコトヲ必要トス」

第三要件　抗拒ハ官吏ノ職務執行中其職務ニ對シテ爲シタルコトヲ要ス

法文ニ「官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ司法行政官署ノ命令ヲ執行スル

ニ當リ」トアルハ即チ本條件ヲ言ヒ顯ハスモノニシテ(一)法律規則ヲ執行スルトハ例ヘハ巡査、憲兵卒カ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ豫審判事カ家宅捜索ヲ爲スカ如キヲ云ヒ司法行政官署ノ命令ヲ執行スルトハ巡査、憲兵卒カ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スルカ如キ又ハ收稅官吏カ府縣知事ノ命令ヲ奉シテ農工商ノ帳簿ヲ調査スルカ如キ場合ヲ云フナリ(二)職務ノ執行中タルコトヲ要スルカ故ニ假令執行官タル身分アルモノニ對スト雖モ職務ノ執行中ニアラサリシトキハ本罪ヲ構成セス例ヘハ官吏カ休暇ヲ得ス公權執行ニ從事セサルトキノ如シ次ニ職務ノ執行中抗拒スルコトヲ要スルカ故ニ職權ノ執行ニ先チ豫備ノ手段トシテ豫メ門戸ヲ閉鎖シ又ハ渡川ニ供スヘキ船舶ヲ隱匿シ又ハ新タニ溝渠ヲ設クルカ如キハ本罪ヲ構成セス(三)職務ノ執行ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ假令職務ノ執行ニ着手後ト雖モ其官吏、公吏私用ヲ辨スルニ當リ其私用ヲ妨害シタルカ如キハ本罪ヲ構成セサルモノトス

第三要件中ニ所謂職務ノ執行トハ官吏ノ適法ナル職務執行ト云フノ義ニシテ若シ官吏ノ行爲ニシテ不適法ナランカ固ヨリ職務ノ執行ト云フコトヲ得サルヤ明

テカナリトス而シテ其行爲カ果シテ適法ナル職務ノ執行タルヤ否ヤヲ決スヘキ標準ハ左ノ如シ

第一、官吏ノ行爲カ自己ノ一般ノ權限内ニ屬スルコト

第二、官吏カ其權限ヲ行使スルニ付テ法律カ請求スル所ノ法定ノ條件ヲ具備スルコト

第三、官吏カ其權限ヲ行使スルニ付キ法律カ請求スル所ノ主要ナル手續ニ違背セサルコト

例ヘハ巡査憲兵卒ハ刑事訴訟法第五十八條ニ依リ現行犯人ヲ逮捕スルノ權限ヲ有スル而シテ此權限ヲ行使スルニ付テハ同條ノ規定ニ依リ次ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス即チ(イ)巡査憲兵卒カ自己ノ職務ヲ行フニ當リ(ロ)重罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯アリタルコトヲ知リ(ハ)其現行犯トハ同法第五十六條第五十七條ニ規定スル場合ニ該當スルコトヲ要ス亦豫審判事ハ同法第百四條ニ依リ家宅捜索ノ權限ヲ有スル而シテ此權限ヲ行使スル爲メニハ同條ノ規定ニ依リ(イ)其捜索ノ場所ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ

住居タルコト(ロ)捜索ノ際ニハ被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者若シ其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親族若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルコト(ハ)其捜索ハ日出後日沒前タルコトヲ要スルカ如キ是レナリ而シテ以上ノ條件ハ何レモ絶對的ニ(容觀的ニ)具備スルコトヲ要シ假令官吏ニ於テ此等ノ條件ヲ具備スルコトヲ誤信スルトモ其事實ニ於テ以上ノ條件ヲ欠クトキハ之ヲ以テ適法ナル職務ノ執行ト謂フコトヲ得ス從テ之ニ對スル抗拒ハ職務ニ對スル抗拒ニアラサルヲ以テ本罪ヲ構成セサルモノトス然レトモ法律カ官吏ニ對シテ其自由ナル裁量ヲ允許シタル區域ニ付テハ一私人ハ毫モ喙ヲ容ルヽコトヲ得サルモノトス例ヘハ豫審判事ハ日出後日沒前ナレハ何時ニテモ家宅捜索ヲ爲シ得ルヲ以テ午後ニ於テ之ヲ行フト午前ニ之ヲ行フトハ豫審判事ノ任意ニ決スヘキ事柄ニシテ私人ハ自己ノ便不便ヲ理由トシテ之ニ抗拒スルコトヲ得サルカ故ニ之ニ抗拒スルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

終リニ本罪ノ構成ニ必要ナル犯意ニ付テ一言スレハ犯人ニ於テ官吏ノ正當ナル職務ノ執行ニ對シ抗拒スルノ意思アリタルコトヲ要ス即チ(一)正當ナル職務ノ執行ニ對スル抗拒ナルカ故ニ犯人ニ於テ其官吏ノ職務執行ハ不適法ノモノナリト誤信シタルトキニ於テハ假令抗拒ノ事實アルモ本罪ヲ構成セス(フオンリスト氏ビンヂング氏ベーリング氏エベルハルド氏フランク氏グツゲンハイメル氏ヘルシユテル氏ルスハウゼン氏パイフエル氏ストライト氏ルーカス氏及ヒ獨乙大審院判例ハ有罪說ヲ採レリ獨乙刑法第百十三條)(法ノ不知ハ犯意ノ存立ニ關係ナシト云フ原則ニ對スル例外ナリ)(二)抗拒ノ意思即チ職務執行ニ對シ積極的ニ妨害スルノ意思アルコトヲ要スルカ故ニ假令官吏ノ職務執行中ナルコトヲ知ルモ犯人ニ於テ其職務執行ニ抗拒スルノ目的ナク別ニ他ノ理由ニ依リ官吏ニ暴行脅迫ヲ加フルモ本罪ヲ構成セサルモノトス(犯意ニ關スル例外ナリ)(犯意ニ遠因テ要セストノ原則ニ對スル例外ナリ)

第二段　第百三十九條第一項ノ罪ノ處分

本罪ヲ犯シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

終リニ一ノ注意スヘキハ本罪即チ第百三十九條第一項ノ罪ヲ犯ス爲メニ犯人カ官吏ニ對シテ刑法第三百二十六條以下ニ規定スル脅迫ノ行爲又ハ同法第四百二

十五條第九號ニ規定スル毆打ノ手段ヲ以テシタルトキハ何レモ以上各法條ニ該當スル脅迫罪又ハ毆打罪ト第百三十九條第一項ノ官吏抗拒罪ノ數罪俱發ナリトシテ處分スヘキヤ否ヤト云フニ本問ノ場合ニ於テハ單一ナル第百三十九條第一項ノ罪ナリトシテ處分スヘキモノトス何トナレハ本問ノ場合ニ於ケル脅迫又ハ毆打ト云フ行爲ハ法律カ第百三十九條第一項ノ罪ノ構成要件トシテ規定スルモノナレハ以上ノ行爲ハ總テ本罪ノ行爲中ニ吸收セラルヽモノト謂ハサルヘカラス

第二項　第百三十九條第二項ノ罪

第一段　本罪ノ成立要件

第百三十九條第二項ニ曰ク「暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、暴行脅迫ヲ以テ爲シタルコト

第二、官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタルコト

以上ノ各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件、暴行脅迫ヲ以テ爲シタルコトヲ要ス　本條件ニ付テハ前項ニ於テ說明シタル所ト異同ナキヲ以テ爰ニ之レカ說明ヲ省畧スヘシ

第二要件、官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタルコトヲ要ス

(一)官吏トハ如何ナル官吏ヲ指示スルヤト云フニ法文ニハ單ニ其官吏トアリテ前項ノ如ク法律規則命令ヲ執行スル官吏タルコトヲ明記セスト雖モ法文ノ配置上直チニ前段ヲ受ケテ其トハ前段ニ所謂「法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ云々」トアル官吏即チ執行官吏ヲ代稱スルノ名詞ニシテ前項ニ所謂官吏ト同一ニ解スヘキモノナリトス而シテ法文ニハ前項ノ如ク其執行官カ職務ノ執行中タルコトヲ要セサルカ故ニ其官吏ニ對スル暴行脅迫ハ官吏ノ職務執行中ニ於ケルト否トハ本罪ノ構成ニハ關係ナキモノトス

(二)官吏ノ爲スヘカラサル事件トハ官吏ノ資格ニ於テ爲スヘカラサル執行處分換言スレハ不適法ナル執行行爲ト謂フノ義ナリ故ニ假令官吏ノ執行行爲ニシテ他人ノ暴行脅迫ニ依テ强制セラレタルモノナリトスルモ苟クモ其執行行爲ニシ

テ適法ナル以上ハ毆打罪、脅迫罪又ハ兇徒聚衆罪ノ如キ他罪ヲ構成スルハ格別本罪ヲ構成スルコトナキモノトス

(三) 行ハシメタルコトヲ要ス　官吏ニシテ其ノ爲スヘカラサル處分ヲ行ハサリシトキハ本罪ノ既遂ニアラス而シテ本罪ノ未遂ハ之レヲ罰スヘキ明文ナキカ故ニ無罪タルヘシ但シ立法論トシテハ前項ト權衡上單ニ不適法ナル執行處分ヲ爲サシムル目的ヲ以テ官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタルノミニテ之レヲ處罰スルコトヽスルヲ至當トス

終リニ本罪ノ構成ニハ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタルコトヲ要スルカ故ニ若シ官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務上爲スヘキ處分ヲ爲サヽラシメ(職務ノ執行中以外ニ於テ)タル場合ハ之ヲ不問ニ付スルコトヽナルヘシ此點ハ現行刑法ノ欠點ト謂ハサルヘカラス

第二段　第百三十九條第二項ノ罪ノ處分

本罪ヲ犯ルタル者ハ前項ノ罪ヲ犯シタルト等シク四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三項　第百四十條ノ罪

第一段　第百四十條ノ罪ノ成立要件

刑法第百四十條ニ曰ク「前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス」ト即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、第百三十九條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シタルコト

第二、暴行ノ結果官吏ヲ毆傷シタルコト

以上第一、第二ノ要件ニ付テハ別ニ說明スヘキコトナキヲ以テ之ヲ省畧ス蓋シ本條ハ第百三十九條ノ罪ト毆打創傷罪トノ二罪俱發トシテ規定シタルニアラスシテ第百三十九條ノ罪ノ構成要件タル暴行カ官吏ヲ創傷セシメタル場合ヲ獨立ノ一罪トシテ規定シタルモノナリ

第二段　本罪ノ處分

本罪ヲ犯シタル者ハ刑法第百三十九條ノ罪ニ科スヘキ刑ト毆打創傷ノ各本條ニ規定スル刑ニ一等ヲ加ヘタルモノト對照シ其內重キモノヲ以テ本刑トスルモノ

ナリ

終リニ注意スヘキコトハ刑法第百四十條ハ官吏ヲ毆傷シタル場合ヲ規定スト雖モ官吏ヲ故殺シタル場合ニ付キテハ何等ノ規定ヲ設ケス從テ此場合ニ付テハ或ハ單純ナル故殺罪ヲ構成スト謂ヒ(本法第二百九十四條參照)或ハ同法第二百九十六條ニ規定スル殺人罪ナリト謂ヒ或ハ同法第三十九條ト同法第二百九十四條ノ故殺罪トノ二罪俱發ナリト謂ヒ諸說其軌ヲ一ニセスト雖モ吾輩ノ信スル所ニ依レハ本問ハ單純ナル故殺罪(本法第二百九十四條參照)ナリト判定スヘキモノトス何トナレハ(一)同法第百三十九條ノ罪ノ成立ニ要スル暴行ハ官吏ヲ創傷セシムルニ至ラサル輕微ナル暴行タルコトヲ要ス而シテ本問ノ暴行ハ官吏ヲ殺害シタルモノナレハ同法第百三十九條ノ罪ヲ構成セサルヤ明ラカナリトス(二)同法第二百九十六條ノ殺人罪ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルカ爲メ又ハ已ニ犯シタル罪責ヲ免ルヽカ爲メ人ヲ故殺シタルコトヲ要ス故ニ同罪ノ成立スルニハ少クトモ故殺ト謂フ行爲ヨリ獨立シテ更ニ他ノ重罪又ハ輕罪ノ存在又ハ存在シ得ル場合タルコトヲ要ス而シテ本問ノ場合ニ於テハ同法第百三十九條ノ罪ノ成立シ得サルコトハ既ニ說明セシカ

如シ從テ同法第百三十九條ノ罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪責ヲ免カルヽ爲メ人ヲ故殺シタル者ト云フコトヲ得ス(三)同法第二百九十四條ノ故殺罪ノ成立ニハ同法第二百九十六條ノ場合ヲ除ク外ハ殺人決意ノ原因如何ヲ問ハサルカ故ニ結局本問ノ場合ハ同法第二百九十四條ノ適用ヲ受ケサルヘカラサルモノトス

然レトモ法律、規則、命令ノ執行ヲ拒ム爲メ官吏ヲ故殺スルカ如キハ多クハ刑法第二百九十六條ニ所謂重罪輕罪ヲ犯サンカ爲メカ或ハ已ニ犯シタル重罪輕罪ヲ免レンカ爲メナルヘシ例ヘハ重輕罪ノ現行犯人カ巡査ノ逮捕ヲ免レンカ爲メニ其巡査ヲ故殺スルカ如キ或ハ重輕罪非現行犯人カ令狀ノ執行ヲ免レンカ爲メニ令狀執行ノ巡査ヲ故殺スルカ如キ皆其罪責ヲ免レンカ爲メニ官吏ヲ故殺シタルモノナリ斯クノ如キ場合ニ於テハ同法第二百九十六條ノ罪ヲ構成スルコト勿論ナリトス反之證據物件ヲ藏匿スル嫌疑ヲ以テ豫審判事ヨリ家宅捜索ヲ受ケタル場合ニ於テ實際罪證物件ヲ藏匿セサルモ單ニ豫審判事ノ捜索處分ヲ憤リ之ヲ故殺シタル場合ニ於テハ同法第二百九十六條ニ該當セサルヲ以テ同法第二百九十四

條ノ單純ナル故殺罪ヲ以テ處斷セサルヘカラサルモノトス若シ夫レ既ニ同法第百三十九條第百四十條ノ罪ヲ罪シタルニ因リ巡査ヨリ捕縛セラレントスルニ當リ之ヲ免ルヽ爲メニ其巡査ヲ故殺スルトキハ同法第二百九十六條ヲ適用處斷スヘキヤ勿論ナリトス

第二款　官吏ノ職務ニ對スル侮辱罪

刑法第百四十一條ニ曰ク「官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ」即チ本條ハ官吏ノ職務上ノ威信ヲ保護スルノ目的ニ出テタルモノニシテ單ニ官吏ト云フ身分ヲ有スルモノヽ名譽ヲ保護スルノ主旨ニアラス即チ本罪ハ國權ニ對スル罪ノ一種ナリ而シテ本罪ノ成立要件及ヒ處分ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一項　本罪ノ成立要件

本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、官吏ノ職務ニ對スルコト

第二　法律ノ定メタル方法ニ依リ侮辱シタルコト

以上ノ要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件、官吏ノ職務ニ對スルコトヲ要ス

法文ニハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノトアルヲ以テ侮辱ハ官吏ノ職務上ノ威信ヲ毀損スルノ行爲タラサル可ラス而シテ官吏ノ職務上ノ威信ヲ毀損スルニハ官吏カ其職務ノ執行中ニアルトキト否ラサルトキトニ區別ヲ立テヽ論セサルヘカラス

一、官吏ノ職務執行中

此場合ニ於テハ侮辱ノ材料タル事項ハ官吏ノ職務ニ牽連スルト否トハ問フ限リニアラス何トナレハ此場合ニ於テハ官吏ニ對スル個人的侮辱ハ直チニ官吏ノ職務上ノ威信ニ對スル侮辱ト謂フコトヲ得ヘケレハナリ故ニ例ヘハ判事カ審問ヲナスニ當リ其判事ノ私行上ノ惡事ヲ摘發シ之ヲ侮辱スルト或ハ判事ハ本件ニ付テハ不公平ナリ彼ハ本件ニ關シテ賄賂ヲ受ケタルモノナリト主張シ

之ヲ侮辱スルトヲ問ハス總テ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ト云フコトヲ得ヘキナリ

二、官吏ノ職務執行中ナラサルトキ

此場合ニ於テハ侮辱ノ材料カ必ス官吏ノ職務ニ牽連スルモノタルコトヲ要スト雖何トナレハ此場合ニ於テハ官吏ニ對スル個人的ノ侮辱ハ未タ以テ其官吏ノ職務上ノ威信ヲ毀損シタリト云フコトヲ得サレハナリ故ニ例ヘハ判事ノ職ニアル人ニ對シ酒宴ノ席上ニ於テ其人ノ私行上ノ非行ヲ摘發シ之ヲ侮辱スルモ本罪ヲ構成セス

明治二十三年法律第百號ニ依リ公吏ノ職務ニ對シテ侮辱ヲ加ヘタルトキニ於テモ本罪ヲ構成スルモノトス

第二要件、法律ニ規定シタル方法ヲ以テ侮辱シタルコトヲ要ス

法律ハ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ヲ二個ノ場合ニ區別セリ即チ一、官吏ノ目前ニ於テスル場合二、官吏ノ目前ニアラサル場合是レナリ

法文ニ目前トアルヲ以テ官吏ト相面接シタル場合ノミヲ指示スルカ如シト雖モ此ノ如ク解スルトキハ其官吏ノ背後ニアリタルトキ又ハ僅ニ戸ヲ隔テ、室外ニアリタルトキ又ハ電話ニテ相對話スル如キ場合ヲ包含セサルコト、ナリ大ニ不權衡ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ爰ニ所謂目前トハ現在ト謂フ義ニシテ視力聽力ノ達スヘキ範圍内ニ現在スルコトヲ謂フモノナリト解セサル可カラス而シテ目前ノ場合ニ於テハ法律ハ其侮辱ノ方法ハ形容又ハ言語ニ依ルヘキコトヲ規定セリ(イ)形容トハ汎ク身體ノ働作ト云フノ義ニシテ暴行ハ勿論其他身振例ヘハ手ヲ以テ人ヲ打チ足ヲ以テ人ヲ蹴ルノ眞似ヲナスカ如キヲ云フ(作爲スヘキ義務ナキ場合ニ於テハ不作爲モ亦侮辱ノ手段トナルコトアリ)(ロ)言語トハ總テ口頭ヨリ發スル音聲ト云フノ義ニシテ必スシモ一定ノ意味ヲ有スルコトヲ要セス故ニ例ヘハ馬鹿、痴漢ト云フカ如キハ勿論口笛ヲ吹クカ如キモ亦之ヲ包含スルモノトス

二、目前ニ以テセサル場合

此場合ニ於テハ法律ハ「刊行ノ文章圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱スルコトヲ要ス」ト規定セリ(イ)刊行ノ文章圖畫トハ原稿ヲ機械的ニ複寫シテ許多ノ文書圖

書ヲ公衆ニ配布スルヲ云フ(ロ)公然ノ演說トハ不特定ナル多人數ニ聽聞セラルヘキ狀況ニ於テ爲サレタル談話ヲ云フ(明治三十六年二月十三日大審院判決ニ依レハ公然トハ秘密ニ對スルノ語ニシテ秘密ナラサル場合ハ常ニ公然ナリ故ニ公然ナル多數人ニ對シテ之ヲ爲スヲ要スルニアラス少數ナル特定ノ人ニ對スルモ苟クモ其行爲ノ秘密ナラサル以上ハ公然ノ誹毀侮辱トナルニハ敢テ不特定ノ人ニ對スルモ公然ノ說明ハ公然ノ誹毀侮辱タルヲ免レスト說明セルモ此ノ說明ヲ盡シタリト云フコトヲ得ス)

以上法律ハ目前ノ場合ト否ラサル場合トニ於テ侮辱ノ方法ヲ制限セルカ故ニ其他ノ方法ニ於テハ本罪ヲ構成セサルモノトス

次ニ官吏ノ職務ニ對スル侮辱トハ官吏ノ職務上ノ威信ヲ毀損スル行爲ニシテ侮辱ハ犯人以外ノ者ニ於テ其侮辱行爲ヲ覺知シタルトキニ於テ既遂トナル(之ヲ覺知シタル者ノ被侮辱者タルトハ問フ所ニアラサルナリ)(誹毀罪ノ說明參照)

終リニ本罪ノ犯意ニ付テ一言スレハ犯人ニ於テ其行爲ノ性質カ官吏ノ職務上ノ威信ヲ毀損スル恐アルモノタルコトヲ覺知シタルコトヲ要ス然レトモ侮辱ノ遠因如何ハ本罪ノ構成ニ關係ナキモノトス

新聞紙條例第二十五條ニ「新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スル惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲メニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ」此規定ハ官吏侮辱罪ニモ適用アリヤ否ヤハ議論ノ岐ルヽ處ニシテ普通ノ解釋ニ依レハ同條ニ所謂誹毀ノ訴又ハ誹毀ノ罪ト云フハ刑法第三百五十八條ニ規定スル誹毀罪ヲ指スモノニシテ刑法第百四十一條ニ規定スル官吏侮辱罪ニハ適用ナキモノナリト解スルモ余輩ノ見ニ依レハ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ハ一定ノ事實ヲ主張スルコトニ依テモ又ハ單一ナル判定ニ依テモ行フコトヲ得ルカ故ニ(誹毀ノ說參照)官吏ノ職務上ノ非行ヲ摘發シテ官吏ノ威信ヲ毀損スルトキハ官吏侮辱罪ヲ構成スヘシ即チ此ノ場合ニ於テハ誹毀ノ手段ニ依テ官吏ヲ侮辱シタルモノニシテ新聞紙條例第二十五條規定ノ主旨ニ最モ適合スルノミナニス同條ニ所謂誹毀ノ訴又ハ誹毀ノ罪トハ誹毀ニ關スル公訴又ハ誹毀ノ手段ニ依ル罪トノ例ハ本問ノ場合ニモ適用アリト解スルヲ至當ナリト信ス

第三節　囚徒逃走ノ罪及ヒ犯罪ヲ庇護スル罪

本節ハ刑法第百四十二條乃至第百五十三條ノ十二ヶ條ヲ包含スル所ノ犯罪ヲ大別スレハ第一囚徒ノ逃走スル罪第二囚徒ヲ逃走セシムル罪第三犯罪ヲ庇護スル罪是レナリ

第一款　囚徒ノ逃走スル罪

法律ハ囚徒ノ逃走罪ヲ分テ(一)單純ナルモノ(二)複雜ナルモノトセリ

第一項　單純ナル囚徒ノ逃走罪

本罪ハ刑法第百四十二條第一項及同法第百四十四條ニ規定スル所ナリ同法第百四十二條第一項ニ曰ク「已決ノ囚徒逃走シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス」同法第百四十四條ニ曰ク「未決ノ囚徒入監中逃走シタルモノハ第百四十二條ノ例ニ同シ」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯人ハ已決ノ囚徒又ハ未決ノ囚徒ニシテ入監中ノ者タルコトヲ要ス

第二、逃走ノ所爲アルコトヲ要ス

以上各要件ヲ說明スルコト左ノ如シ

第一要件　犯人ハ已決ノ囚徒又ハ未決ノ囚徒ニシテ入監中ノ者タルコトヲ要ス

囚徒トハ刑罰執行ノ爲メ(已決囚)又ハ犯罪審理ノ爲メ(未決囚)國權ノ正當ナル機關ニ依テ拘禁セラルヽ所ノ者ヲ總稱スヘキナリ(刑事訴訟法第六十條ニ依リ一ノ場合ヲ包含セス)然レトモ法文ニハ未決ノ囚徒「入監中」ナル文字ヲ用ヒタルカ故ニ未決ノ囚徒ニシテ一旦適法ニ獄舍ニ拘禁セラレテヨリ適法ニ解放セラルヽ迄ノ身分アル者ニアラサレハ本罪ノ主體タルコトヲ得ス而シテ(一)刑罰執行ノ爲メ拘禁セラルヽモノタルコトヲ要スルカ故ニ彼ノ懲治場留置處分又ハ精神病者監置處分ノ爲メ一定ノ場所ニ拘禁セラレタルモノヽ如キ又ハ戰時捕虜ノ如キ刑罰ノ執行ニ屬セサルモノハ爰ニ所謂囚徒ニアラス然レトモ彼ノ主刑滿期ノ後引取人ナキカ爲メニ獄舍ニ於テ監視ノ執行ヲ受クルモノヽ如キハ(刑法附則第三十二條)純然タル刑罰ノ執行ニ屬スルヲ以テ囚人タルヘキナリ(別房留置者ハ附加刑タルモノナルカ故ニ已決ノ囚徒ニアラス若シ逃走スルトキハ監視規則違犯ヲ以テ論スヘシトノ學說アルモ立論ノ理由ニ乏シ)(二)獄舍ニ拘禁セラレテヨリ適法ニ解放セラルヽ迄(入監中)ノ身分アルモノタルコトヲ要スルカ故ニ苟クモ適法ノ手續ニ依リ一度獄舍ノ拘禁ヲ解カレタルモノハ之ヲ包含セス

故ニ例ヘハ已決囚ニ在テハ假出獄中ノモノ未決囚ニアツテハ保釋責付中ノモノヽ如キ入監中ノ囚徒ニアラス又監獄則第九條ニ依リ天災ニ際シ一時解放セラレタル者ハ囚徒ニアラス故ニ一旦解放後ハ假令一定ノ期間内ニ復歸セストモ本罪ヲ構成セス然レトモ苟クモ入監中ノ身分ヲ有スル以上ハ假令獄舍外ニアリト雖モ囚徒タルニ於テ缺クル所ナシ例ヘハ已決ノ囚徒カ外役中逃走シ又ハ未決囚カ被告事件ノ審問ヲ受ルカ爲メ獄舍ヨリ裁判所ニ護送セラルヽ途上ニ於テ逃走スルモ本罪ヲ構成スヘキモノトス反之現行犯人トシテ逮捕セラレタルモノ又ハ令狀ノ執行ニ依リ逮捕セラレタルモノカ正當手續ニ依リ未タ獄舍ニ拘禁セラレサル以前ニ於テ逃走スルトキハ未タ入監中ノ囚徒タル身分ヲ取得セサルカ故ニ囚走逃走罪ヲ構成セス（監獄則六條參照）

第二要件　逃走ノ所爲アルコトヲ要ス

逃走トハ囚徒ヲ拘禁監督スル公力ノ區域ヲ不法ニ離脫スルヲ云フ而シテ其果シテ既遂タルヤ將タ未遂タルヤハ其拘禁監督力ノ區域ヲ脫シ終リタルヤ否ヤニヨリ決スヘキ問題ナリト雖モ脫獄ノ場合ニ於テハ通常獄舍外圍ノ保障物外ニ出テタルヲ以テ既遂タルヘク若シ脫獄ノ着手中當該官吏ノ爲メニ發見セラレ獄舍外圍ノ保障物外ヘ追跡セラレタルトキハ既遂ト云フコトヲ得ス獄外ニ於ケル逃走ノ場合ニ於テハ實際當該官吏ノ力ヲ以テ拘禁スル能ハサル地位ニ迄逃走シタルトキヲ以テ既遂トナルヘキナリ而シテ其方法ハ千差萬別敢テ法律ヲ以テ豫メ限定スルコトヲ得スト雖モ若シ同法第百四十二條第二項ニ規定スル方法ニ依ルトキハ單純ナル囚徒逃走罪ニアラスシテ複雜ナル囚徒逃走罪ヲ構成スルモノトス

囚徒逃走罪ニ關スル刑法規定ノ沿革ヲ閲スルニ本罪ノ規定ハ羅馬法ニ基因スルモノニシテ羅馬帝政時代以後ニ於テハ第三者カ囚人ヲ逃走セシメタル場合ノミナラス囚人カ自カラ逃走スル場合ヲモ之ヲ處罰シ特ニ看守者カ囚人ヲ逃走セシメタルトキハ故意、過失、遇然ノ場合ニ區別シテ之ヲ處罰シ情狀最重キ場合ニハ囚人ノ刑ニ反座スルコトヽシタリ其後カール五世ノ刑事裁判法ニ於テモ看守者カ囚人ヲ逃走セシメタルトキハ情狀ニ從ヒ之ヲ處罰スルコトヽシ獨逸ノ普通法ニ於テハ反座ノ刑

ニ代ユルニ別ニ刑ヲ科スルコト、シ且ツ囚人カ自カラ逃走シタル場合ハ之ヲ處罰セサルコト、ナシタリ其理由トスル所ハ囚徒ハ常ニ其自由ヲ拘束セラルヽ身ニシテ此拘束ヲ脫シ自由ノ地位ニ復セントヲ希望スルハ人類自然ノ性情ナリ故ニ其逃走ヲ防止スルニハ看守ノ方法ヲ嚴密ニスルノ外ナク之ヲ囚徒ニ責ムルハ酷ニ失スルノミナラス又其必要ナシト云フニ在リ而シテ現行獨逸刑法ニ於テモ囚徒自身ノ逃走ハ處罰セス但シ逃走ノ際暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ徒黨ヲ結合スルカ如キハ國權ニ對スル抗拒トシテ之ヲ處罰ス（獨乙刑法第百二十條以下）

第二項　複雜ナル囚徒逃走罪ノ成立要件

複雜ナル囚徒逃走罪ハ第百四十二條第二項及ヒ第百四十四條ニ規定スル所ニシテ已決未決ノ囚徒ニ共通ノモノトス

刑法第百四十四條ニ曰ク「未決ノ囚徒入監中逃走シタルモノハ第百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス」同法第百四十二條第二項ニ曰ク「若シ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲナシテ逃走シタルモノハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス」而シテ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯人ハ已決ノ囚徒又ハ未決ノ囚徒ニシテ入監中ノ者タルコト

第二、逃走ノ所爲アルコト

第三、逃走ノ手段トシテハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルコト

第一第二ノ要件ハ第一項ニ說明シタルト異ナルナキヲ以テ之ヲ省略ス

第三要件、逃走ノ手段トシテ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲナシタルコトヲ要ス

（一）獄舍トハ一時タルト永久タルトヲ問ハス法律上囚徒ヲ拘禁スル爲メニ供給セラレタル建造物ヲ總稱シ現行法ノ下ニ於テハ集治監、假留監、地方監獄、拘留場留置場ノ五種ノ監舍ヲ總稱ス（監獄則第一條參照）

（二）獄具トハ監獄ニ於テ特ニ囚人ヲ拘禁スルノ用ニ供セラレタルモノヲ總稱ス例ヘハ釱鐵索、連鎖ノ如キ是ナリ而シテ彼ノ獄衣、食器、作業用ノモノハ之ヲ包含セス

（三）毀壞ニ付テハ刑法第三編第二章第十六節家屋物品毀壞罪ノ說明參照

(四) 暴行ト云フハ人ニ對スル暴行ヲ指示ス蓋シ物ニ對スル暴行ニ付テハ法律ハ特ニ「獄舍獄具ヲ毀壞シ」ト明記セルヲ以テ爰ニ所謂暴行トハ直接又ハ間接ニ人ニ對スル暴行ヲ指示スルモノト解スルヲ至當トス脅迫トハ人ニ對スル暴行ヲ加フヘシトノ脅迫ヲ指示スルコトハ官吏抗拒罪ノ部ニ於テ說明シタルト異ナルナシ

(五) 逃走ノ手段トシタルコトヲ要スルカ故ニ連鎖ノ儘ニテ二人ノ囚徒カ逃走ヲ遂ケタル後ニ於テ之ヲ毀壞スルモ本罪ヲ構成セサルモノトス

第三項 單純及ヒ複雜ナル囚徒逃走罪ノ處分

單純ナル囚徒逃走罪ノ處分ニ付テハ刑法第百四十二條第一項及ヒ同法第百四十四條ニ規定スル如ク一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ複雜ナル囚徒逃走罪ノ處分ニ付テハ同法第百四十二條第二項及ヒ同法第百四十四條ニ規定スルカ如ク三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス而シテ以上二種ノ逃走罪ノ塲合ニ於テ若シ囚人三人以上通謀シ逃走シタルトキハ同法第百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加重ス

(本法第百四十五條參照)

刑法第百四十三條ニ曰ク「已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限內再ヒ逃走シタルモノハ再犯ヲ以テ論ス」即チ已決ノ囚徒逃走罪ノ塲合ニ於テハ其犯罪ノ構成要件トシテ已ニ有罪ノ確定判決ヲ受ケタルモノタルコトヲ要スルカ故ニ本罪ノ成立スルトキハ必ス前ニ確定ノ判決ヲ受ケタル犯罪ニ對シテ再犯ノ關係ニアルコト勿論ナリトス從テ總則第九十二條ニ依リ一等ヲ加重スヘキカ如シト雖モ是レ犯罪ノ構成要件タル事實ヲ更ニ分離シ刑罰加重ノ情狀トスルモノニシテ一個ノ所爲ヲ二重ニ處罰スルノ結果ヲ生スルヲ以テ此塲合ニ於テハ再犯加重ノ例ニ依ラサルコト、ナシタリ然レトモ若シ確定判決ニ依リ執行セラルヘキ刑期限內ニ於テ第一回ノ逃走罪ニ付キ確定判決ヲ受ケタル後再ヒ逃走シタルトキハ第一回ノ逃走罪ト第二回ノ逃走罪トハ各獨立シテ純然タル再犯ノ性質ヲ有スルヲ以テ此塲合ニ於テハ總則再犯ノ例ニ依リ刑罰ヲ加重スヘキモノトス而シテ其三犯以上ノ塲合ニ於テモ總則第九十八條ノ例ニ依リ一等ヲ加重スヘキコト當然ナリトス是レ同法第百四十三條ノ規定アル所以ニシテ同條ハ已

決囚カ既ニ確定判決ヲ受ケタル犯罪ト其刑期内ニ於ケル逃走罪トノ關係ヲ規定シタルニ止ル從テ逃走罪ト他ノ獨立ナル犯罪トノ關係又ハ未決拘留中ニ於ケル逃走罪トノ關係ハ固ヨリ純然タル再犯ノ關係ニシテ同法第百四十三條前段ニ規定スル場合ニ於ケルカ如ク一個ノ所爲ヲ二重ニ所罰スルノ結果ヲ生セサルヲ以テ總則再犯加重ノ例ニ依ルヘキコト勿論ナリトス（同一刑期内ニ逃走罪ヲ重子タル場合ニ限リ再犯ヲ以テ論スルトノ說普通ナルモ理由ニ乏シ）

同法第百四十四條但書ニ曰ク「但シ原犯ノ罪ヲ判決スルトキニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス」ト即チ未決囚徒ニ對スル原犯ノ刑事被告事件カ有罪ナルトキハ逃走罪ト同時ニ數罪俱發ノ例ニ依リ處斷スヘシ若シ原犯ニシテ無罪ナル時ハ單ニ逃走罪ノミヲ以テ處罰スヘキコトヲ注意的ニ規定シタルモノニシテ此以外ニ於テ更ニ何等ノ意味ヲモ有セサルモノトス（原犯ノ罪無罪ナル時ハ本條本文ノ罪ヲ構成セストノ說アルモ本罪ハ未決囚ニ對スル國家ノ拘禁ヲ破フル罪ナルコトヲ知ラハ此ノ說ノ誤レルコト明瞭ナルヘシ）

同法第百四十九條ニ曰ク「前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯ノ例ニ照シテ處斷ス」即チ本罪ハ未遂犯ヲモ處罰スルモノトス

第二款　囚徒ヲ逃走セシメタル罪

囚徒ヲ逃走セシメタル罪ニ付テ法律ハ(一)監督ノ職責アルモノヽ犯シタル場合ト(二)監督ノ職責ナキモノカ犯シタル場合ニ區別シ前者ニ付テハ懈怠ニ依リ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ニモ猶ホ之ヲ處罰スルコトヽセリ

第一項　監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合

此場合ハ第百四十六條、第百四十七條ニ規定スル所ニシテ第百四十六條ハ暴行脅迫ニ依ラサル場合ヲ規定シ第百四十七條ハ暴行脅迫ニ依ル場合ヲ規定ス

第一段　暴行脅迫ニ依ラサル場合

刑法第百四十六條ニ曰ク「囚徒ヲ逃走セシメタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタルトキハ一等ヲ加フ」

即チ本罪ノ構成要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、囚徒ヲ逃走セシムル爲メタルコト

第二、兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタルコト

以上各要件ヲ説明スルコト左ノ如シ

第一要件中囚徒トハ已決未決囚ヲ包含スヘク逃走ノ何タルコトハ前款ニ於テ既ニ説明シタルヲ以テ之ヲ省略ス而シテ苟モ囚徒ヲ逃走セシムルノ目的ニ出テタル以上ハ其逃走ノ目的ヲ達セシメタルト否トハ本罪ノ成立ニハ問フ所ニアラサルナリ即チ本罪ハ囚徒自身ノ逃走罪ニ對スル從犯ニアラスシテ獨立ノ一罪ナリトス（本條囚徒中ニハ入監中ノ未決囚タルコトヲ明記セサルカ故ニ入監前ノ被拘禁者ヲモ包含スト解スルヲ至當トス例ヘハ巡査憲兵卒ニ逮捕サレタル現行犯人勾引狀勾留狀ニ依リ引致ノ途中ニアル者ヲ包含ス）

第二要件中（一）所謂兇器トハ狹義ニ於ケル兇器即チ攻撃又ハ防禦ノ方法トシテ人ノ生命身體ヲ毀損スル目的ヲ以テ製造セラレ而カモ其目的ヲ達スルニ適合スル所ノ器具ヲ總稱ス例ヘハ「ピストル」刀劍ノ類是レナリ猶ホ此點ニ就テハ後ニ説明スル所アルヘシ（二）其他ノ器具トハ兇器以外ノ器具ニシテ逃走ノ用ニ充ツルコトヲ得ヘキモノヲ總稱ス例ヘハ合鍵、鋸、釘拔、梯子ノ類是レナリ（三）逃走ノ方法ヲ指示スト云ハ逃走ニ付テノ手段方法機會等ヲ指導スルノ意ニシテ其方法ハ言語ニ依ルト文章形容ニ依ルトハ敢テ問フ所ニアラサルナリ（四）而シテ苟モ以上ノ所爲アルトキハ直チニ本罪ヲ構成スヘク囚徒ニ於テ之ヲ利用スルト否トハ問フ所ニアラサルナリ

本罪ノ處分方法ハ第百四十六條末段ニ記載スルカ如ク三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒逃走ヲ遂ケタルトキハ一等ヲ加フ而シテ本罪ハ囚徒カ逃走スル罪ノ從犯ニアラスシテ全ク獨立ノ一罪タリ故ニ總則第百九條從犯ノ例ニ依リ處斷スヘキモノニアラス

第二段　暴行脅迫ニ依ル場合

刑法第百四十七條ニ曰ク「囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタルコト

（一）劫奪トハ他人ニ暴行脅迫ヲ加ヘテ物又ハ人ヲ奪取スルコトヲ意味ス

（二）暴行脅迫ノ何タルコトハ第三章第二節ニ説明シタリ

(二) 前段ノ劫奪シトアルニ對照シテ法文ニ所謂助ケタルモノトハ囚徒ノ逃走ヲ遂ケシメタルコトヲ意味スト解スヘキナリ

本罪ノ處分ハ同法第百四十七條第一項末段及ヒ第二項ニ規定スル所ニシテ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ヲ逃走セシメタルトキハ輕懲役ニ處ス未遂ハ之ヲ處罰ス(本法百四十九條參照)

第二項 監督ノ職責アル者ノ犯シタル場合

此場合ニ付テハ法律ハ犯意アル場合ト懈怠ノ場合トニ區別シ第百四十八條ハ犯意アル場合ヲ規定シ第百五十條ハ懈怠ニ因ル場合ヲ規定セリ

第一段 犯意ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合

刑法第百四十八條ニ曰ク「囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 犯人ハ法律規則ニ依リ囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル職責アル者タルコト

第二、自己ノ看守又ハ護送スル囚徒ヲ逃走セシメタルコト

本罪ノ處分ハ第百四十八條ノ例ニ同シ又未遂ヲ罰ス(本法百四十九條參照)

第二段 懈怠ニ依リ囚徒ヲ逃走セシメタル場合

刑法第百五十條ニ曰ク「看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサリシトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、懈怠ニ依ルコト(不注意ニ依ルコト)

第二、犯人ハ看守又ハ護送者タルコト

第三、囚徒ヲシテ逃走セシメタルコト

本罪ノ處分ハ第百五十條第一項末段及ヒ第二項ニ記載スルカ如シ

第三款 犯罪ヲ庇護スルノ罪

本款ニ所謂犯罪ヲ庇護スル罪ハ刑法第百五十一條乃至第百五十三條ニ規定スル處ニシテ同法第百五十一條ニ於テハ罪人ヲ藏匿若クハ隱避スル罪ヲ規定シ同法

第百五十二條ニハ罪證ヲ隱蔽スル罪ヲ規定ス而シテ以上二ケ條ノ罪ハ何レモ罪人ニ對シテ幇助ヲ與フルモノナリト雖モ其所爲カ犯罪ノ成立以後ニ屬シ且ツ國家ノ司法(die staatliche Rechtspflege)ニ對スル攻撃ナルヲ以テ獨立ノ罪トシテ此ニ規定セル所以ナリ而シテ犯罪庇護ノ罪ニ關スル法制沿革ノ概要並ニ學說ヲ擧クレハ左ノ如シ

犯罪庇護ノ罪(die Begünstigung)カ庇護ノ目的タル犯罪(原犯)ニ對シテ獨立ノ罪ナリト認メラルヽニ至リタルハ漸ク最近ノコトニ屬シ晩世羅馬法時代ニ於テハ既ニ庇護ノ罪(Crimen receptatorum)ヲ以テ獨立ノ犯罪ト認メタリト雖モ中世獨乙法ニ於テハ國民法時代ヨリ十六世紀ノ終リ迄ハ逃亡犯人ヲ藏匿スルコトハ被藏匿者ノ犯罪ニ對スル加工ナリト認メ其犯人ニ對スルト同一ノ刑ヲ科シタリ其後カール五世ノ刑事裁判法及ヒ此ノ法系ニ屬スル獨乙ノ普通法ニ於テモ原則トシテ之ト同一ノ見解ヲ採リタリ但シ當時ニ於テモカルプツオーフ氏クレッフス氏ベーメル氏其他ノ諸學者ハ之ニ反對シ又プロイセン國(千六百二十年)オイステルライヒ國(千七百八十年)ニ於テハ庇護ノ罪ヲ以テ獨立罪トシテ認メタリ而シテ近世獨乙ノ學者間ニ於テモフオイエルバツハ氏以來猶庇護ノ罪ヲ以テ事後ニ於ケル加工(Teilnahme an der That nach der That)ノ性質ヲ有スト雖モ獨立罪トシテ認メサル學者多シ例ヘハフーゴーマイエル氏ノ如キハ庇護ノ犯罪ヲ以テ事後ノ加工(nachfolgende Teilnahme)ナリト論セリ但シサンデル氏ハ千八百三十八年ニ於テ既ニフオイエルバツハ氏ノ說ニ反對シタリ而シテ現時ノ立法例ニ於テハ多數學者ノ反對アルニ拘ハラス始メテ晩世羅馬法時代ノ見解ヲ恢復シ庇護罪ヲ獨立ノ一罪トシテ認ムルニ至レリ(獨乙刑法第二編第二十一章第二百五十七條第二百五十八條)

犯罪庇護ノ行爲ハ之ヲ人的庇護(persönliche Begünstigung)及ヒ物的庇護(sachliche Begünstigung)ニ分ツコトヲ得(一)人的庇護トハ犯罪人ヲシテ處罰ヲ免レシムル爲メノ行爲ニシテ(二)物的庇護トハ犯罪人カ犯罪ニ依テ收得シタル利益ヲ安固ナラシムル爲メノ行爲ナリ而シテ(甲)現時一般ノ見解ニ依レハフオンブーリー氏(千八百六十年)以來以上二ケノ庇護ハ共ニ國家ノ司法ヲ阻害スル行爲ニシテ前者ハ當該官廳ニ依ル刑罰權ノ實行ヲ後者ハ民法上ノ原狀恢復ヲ不能ナラシムル爲メノ行爲ニシテ要之國家カ犯罪ニ結合セシメタル法律上ノ結果(制裁)ノ發生ヲ阻却

スル行爲ナリト論シ(乙)フーゴーマイエル氏ハ原犯ニ對スル共犯ヲ以テ論シ(丙)ビンヂング氏グレーテネル氏オールスハウゼン氏シユッスハイム氏ハ二者ヲ全然區別シ物的庇護ヲ以テ全ク財産ニ對スル犯罪ナリト論セリ而シテフオンリスト氏ハ自己ノ利益ノ爲メニ爲シタル物的庇護(獨乙刑法第二百五十八條一半)及ヒ獨乙刑法第二百五十九條ニ規定スル隱私罪(die Sachhehlerei od. Partiererei)(何人タリトモ犯罪ニ依テ得タルコトヲ知リ又ハ情狀ニ依リ之ヲ知ラサルヘカラサル物件ヲ自己ノ利益ノ爲メ隱秘シ又ハ買得シ又ハ質取シ又ハ其他之ヲ領得シ又ハ他人ニ販賣スルノ共力ヲナス者)ヲ以テ純然タル財産ニ對スル罪ナリト論シヘルシユネル氏ハ同條ノ隱私罪モ猶司法ニ對スル罪ナリト論セリ

此ノ如ク獨乙刑法ニ於ケル庇護罪及ヒ隱私罪ノ性質ニ付テハ學說種々ニ分カルト雖モ吾現行刑法第百五十一條第百五十二條ニ規定スル罪ハ獨乙刑法學者ノ所謂人的庇護ノ或ル場合ニ關スル規定ニシテ所謂物的庇護及ヒ隱私罪ハ同法第三百九十九條乃至第四百一條ニ規定スル贓物ニ關スル罪ニ相當シ前者ハ第二編公益ニ關スル罪ノ內ニ規定シ後者ハ第三編第二章財産ニ對スル罪ノ內ニ規定シ全

然兩者ヲ區別シテ規定シタルニ依テ見レハ前者ハ國權行使ノ一方法タル司法ニ對スル罪ニシテ後者ハ純然タル財産ニ對スル罪ナリト解スルヲ至當トス而シテ兩者共ニ原犯ノ成立ニ付テ一ノ條件ヲ與ヘサルカ故ニ原犯ノ共犯ニアラスシテ獨立ノ罪タルコト亦疑ナキ所ナリ(贓物ニ關スル罪參照)

第一項　第百五十一條ノ罪

第百五十一條ニ曰ク「犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ附セラレタル者タルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタルモノハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、藏匿若クハ隱避セシムル所爲アルコト

第二、藏匿又ハ隱避ノ目的タル人ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒又ハ監視ニ付セラレタルモノタルコト

第三、犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知ツテ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムルノ意思アルコト

第一要件　藏匿又ハ隱避セシムルノ所爲アルコトヲ要ス

(一)藏匿トハ佛文草案第百八十五條ニ所謂匿レ場所ヲ與フトアルニ相當シ犯人ニ對シテ隱避即チ發見ヲ避クル場所ヲ給與スルノ義ナリ而シテ場所ノ如何ニ付テハ法律ハ何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ家屋倉庫又ハ船舶馬車等總テ之ヲ包含スルモノトス然レトモ場所ヲ給與スルヲ要スルカ故ニ其服裝ヲ變セシムル爲メ衣服ヲ給與スルノミニテハ藏匿ト謂フコトヲ得ス

(二)隱避セシムルトハ藏匿以外ノ方法ニ依リ犯人ノ發見又ハ逮捕ヲ妨害スルノ行爲ヲ云フ而シテ其妨害ノ方法ニ就テハ法律ハ何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ犯人ニ潛伏スヘキ場所又ハ方法ヲ教示シ或ハ潛伏ニ要スル費用又ハ發見ヲ避クルニ必要ナル衣服ヲ給與スルカ如キ總テ之ヲ包含スルモノトス犯罪人ニ逃走ヲ煽動シ或ハ其逮捕ヲ解クカ如キ(刑事訴訟法第一六十一條參照)亦然リ然レトモ一私人ハ犯人ノ潛伏ヲ告發スヘキ法律上ノ義務ナキカ故ニ其潛伏ヲ知リナカラ單ニ之ヲ官ニ告ケサルカ如キハ本罪ヲ構成スヘキニ非ス而シテ被庇護者ニ於テ庇護ヲ受クル事實ヲ知ルト否トハ問フ所ニアラス藏匿、隱避共ニ犯人ノ發見又ハ逮捕ヲ妨害スルヲ以テ足レリトシ終局迄發見又ハ逮捕ヲ免カレシムルコトヲ要セス

第二要件　藏匿若クハ隱避ノ目的タル人ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタルモノナルコトヲ要ス

(一)法文ニ所謂犯罪人トハ犯罪行爲(普通刑法又ハ陸海軍刑法ニ屬スルトヲ問ハス)ヲ爲シタル爲メ處罰セラルヘキ者ニシテ逃走ノ囚徒及ヒ監視規則違犯者以外ノモノヲ總稱ス處罰セラルヘキ者タルコトヲ要スルカ故ニ假令犯罪行爲ヲ爲シタリト雖モ犯人身上ノ理由ニ依リテ處罰セラレサル者例ヘハ親族相盜ノ場合ノ如キ(本法第三百七十七條參照)ハ之ヲ包含セサルモノトス而シテ法律ハ廣ク犯罪人ト稱シテ犯罪カ重罪、輕罪、違警罪タルコトヲ區別セサルヲ以テ罰金ノ刑ニ當ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯人ニシテ其氏名住所分明ナラサルカ又ハ逃走ノ恐アルモノ、如キ(刑事訴訟法第五十八條參照)苟モ

其所在カ官ニ發覺スルコトノ必要ナル場合ニ於テハ凡テ之ヲ包含スルモノトス

其犯罪人ハ正犯タルト從犯タルト教唆者タルトハ之ヲ問ハサルナリ次ニ本條ハ犯罪者ニ對シテ處罰ノ判決ヲ與ヘ又ハ之ヲ執行スルコトヲ確實ナラシムルカ爲メニ設ケラレタル規定ナレハ其犯人ニ對シテ未タ公訴權ノ消滅セサルコト又ハ刑ノ期滿免除ニ罹ラサルモノタルコトヲ要ス然レトモ親告罪ノ訴訟條件タル告訴ノ有無ハ問フ所ニアラス

庇護罪ハ原犯ニ對シテ幇助ヲ與フル行爲ナルカ故ニ從タル性質ヲ有スト雖モ原犯ニ對シテ獨立ノ罪ナルカ故ニ自カラ犯ス能ハサル罪ニ付テモ庇護罪ハ成立スヘク亦原犯ハ必スシモ既遂犯タルコトヲ要セサルナリ

(二) 逃走ノ囚徒トハ已決及ヒ未決囚ノ逃走シタルモノヲ包含ス而シテ囚徒及ヒ逃走ノ何モノタルコトハ第一款ニ於テ說明シタルヲ以テ爰ニ之ヲ省略ス(庇護罪ノ性質ニ反スル所アリ)

(三) 監視ニ付セラレタルモノトハ監視ノ執行ヲ受クル者ヲ指示ス

第三要件　犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタルモノタルコトヲ知リテ之ヲ藏匿若クハ隱避セシムルノ意思アルコトヲ要ス

法文ニ知ツテトアルハ犯罪行爲ニ依リ刑罰ヲ科セラルヘキ者タルコトヲ知ルヲ以テ足レリトシ原犯カ現ニ行ヒタル所ノ各犯罪ニ付テハ之ヲ知ルコトヲ要セス(犯罪人ニアラサル者ヲ犯罪人ナリト誤解シテ之ヲ庇護スレハ不能犯ナリト)又逃走ノ囚徒ナルコト若クハ監視規則ニ違反スル行爲アリタルモノナルコトヲ知リテト謂フノ義ニシテ若シ此等ノ事實ヲ知ラスシテ之ヲ藏匿又ハ隱避セシムルモ本罪ヲ構成セサルモノトス

終リニ一言スヘキハ本罪ハ他人ノ犯罪ヲ庇護スルノ罪ニシテ犯人自ラ自己ヲ庇護スルモ刑罰ヲ科セラルヽコトナシ故ニ犯人カ他人ヲ教唆シテ自己ヲ藏匿又ハ隱避セシムルモ本罪ノ教唆ヲ以テ論スルコトヲ得サルナリ幇助スル場合亦同シ(普通ノ學說ニシテ殊ニフオリンスト氏ピンザング氏フランク氏ガイエル氏ヘルシユ子ル氏コーレル氏フオンクリース氏マイエル氏シユッツエ氏シュッス、ハイム氏等ハ此ノ說ヲ採レリ反之ベルリン高等法院及獨乙大審院判例オールスハウゼン氏ハ有罪說ヲ採レリ)然レトモ共犯者ノ一人カ他ノ共犯者ヲ藏匿隱避セシムルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス何トナレハ本罪ハ原犯ニ對シテ獨立ノ犯罪ニシテ共犯者モ亦藏匿者ヨリ見レハ一ノ犯人タルニ相違ナケレハナリ(普通ノ學說ニシテ殊ニニーランド氏ノ主張スル所ニシテ例ヘハリスト氏オツペンホツフ氏之ニ贊シ反之フランク氏ハゼン氏ハウゼン氏ハ有罪說ヲ採レリ)

獨乙刑法第二百五十七條第三項行爲前ニ約諾シタル犯罪庇護ハ之ヲ從犯トシテ處刑スト云フノ規定ヲ根據トシテ反對說ヲ採リ（リースス氏コーレル氏ルードルフ氏ステンゲラインン氏ハフランク氏ト同說ナリ）

第二項　第百五十二條ノ罪

刑法第百五十二條ニ曰ク「他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」即チ本罪ノ特別成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、隱蔽ノ目的物ハ他人ノ犯罪ニ關スル證據タルヘキ物件ナルコト

第二、隱蔽シタル所爲アルコト

第三、他人ノ犯罪ニ對スル刑責ヲ免レシメンコトヲ圖リシタルノ遠因ニ出テタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　隱蔽シタル行爲アルコト

隱蔽トハ廣ク發見ヲ避クルノ行爲ニシテ其方法ニ付テハ法律ハ何等ノ制限ヲ設ケサルヲ以テ單ニ其所在ヲ不明ナラシムルト或ハ之ヲ變形又ハ滅盡スルトヲ問ハス總テ本條件ニ該當スルモノトス

第二要件　隱蔽ノ目的物ハ他人ノ犯罪ニ關スル證據タルヘキ物件ナルコト

（一）他人ノ犯罪ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ犯人カ自己ノ犯罪ニ付テ其罪證ヲ隱蔽スルモ犯罪ヲ構成セス蓋シ犯人自己ノ罪責ヲ免レントスルハ人性ノ至情ニシテ敢テ法律ヲ以テ防止スヘキ限リニアラサレハナリ但シ共犯者ノ一人カ他ノ共犯者ノ責任ヲ免レシムル爲メ其共犯事實ヲ立證スヘキ物件ヲ隱蔽スルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス（前條說明參照）

（二）犯罪トハ法律上犯罪トシテ處罰スヘキ行爲ヲ指示スルモノニシテ親告罪ノ場合ニ於テ告訴ノ有無ハ問フ所ニアラス（犯罪アルコトヲ要スルカ故ニ原犯成立セサルトキハ本罪ヲ構成セス）次ニ罪證トナルヘキ物件タルコトヲ要ス而シテ其物件ノ種類ニ付テハ制限ナキカ故ニ例ヘハ被服器具ニ點シタル血痕又ハ地上ニ印シタル足跡ヲ拭ヒ去ル場合ヲモ包含スルモノトス

第三要件　他人ノ犯罪ニ關スル刑責ヲ免レシメントノ遠因ニ出テタルコトヲ要ス

（一）法文ニ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リトアルハ結局犯罪ニ伴フ刑罰ヲ免ルルノ意ニシテ

レシメントノ義ニシテ換言スレハ有罪ノ判決又ハ重キ刑ノ判決ヲ免レシメントノ目的ニ出テタルコトヲ意味ス然レトモ行爲カ起訴以前ニ屬スルト否トハ問フ所ニアラス

(二) 他人ノ罪責ヲ免レシメントノ目的ニ出テタルコトヲ要スルカ故ニ假令罪證タルヘキ物件ヲ棄毀消滅セシムルコトアルモ其原因ニシテ單ニ掃除ノ目的ニ出テタルカ如キハ本罪ヲ構成セス

以上二ケ條ニ規定スル犯罪ハ何レモ獨立ノ罪タルヲ以テ其庇護セラルヽ犯罪(原犯)ハ假令親告罪ナリト雖トモ本罪ヲ處斷スルニ付キ敢テ告訴ヲ要セサルナリ立法論トシテハ以上二ケ條ニ規定スル塲合ニ限ラス汎ク犯人ヲシテ有罪ノ判決又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲メ犯人ニ便宜ナル狀況ヲ與フル行爲ヲ處罰スル規定ヲ設ケ犯人ノ爲メニ虛僞ノ證據ヲ提出シ又ハ處刑者ノ爲メニ罰金ヲ代納スル行爲ヲモ處罰スルノ必要アリ

第三項　以上二箇ノ罪ノ處分

刑法第百五十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ十一月以上一年以下ノ經禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

第百五十二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

然レトモ以上二ケノ犯罪ニシテ犯人ノ親屬ニ當ルモノヽ、犯罪ヲ庇護スルノ所爲ハ之ヲ處罰セス(本法第百五十三條、第百五十四條、第百五十五條參照)蓋シ親屬ノ犯罪ヲ庇護センストスルノ情ハ犯人カ自己ノ犯罪ヲ庇護センストノ情ニ比シテ相選フ所ナキヲ以テナリ(人的刑罰排除原因ニシテ犯罪ノ不成立ニアラス)

第四節　附加刑ノ執行ヲ遁ルヽ罪

第一項　第百五十四條ノ罪

刑法第百五十四條ニ曰ク「公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者タルコト

第二、私ニ其權ヲ行ヒタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者タルコトヲ要ス

剝奪公權及停止公權ハ何レモ重罪ノ刑又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノニ當然科スヘキ附加刑ニシテ其公權ノ何物タルコトハ刑法第三十一條ニ列記スル所ナリ即チ左ノ如シ

一、國民ノ特權

二、官吏トナルノ權

三、勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權

四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五、兵籍ニ入ルノ權

六、裁判所ニ於テ證人トナルノ權但シ單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七、後見人トナルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八、分散者ノ管財人トナリ又ハ會社及共有財產ヲ管理スルノ權

九、學校長及教師學監トナルノ權

第二要件　私ニ其權ヲ行ヒタルコトヲ要ス

法文ニ私ニトアルハ佛文草案第百八十二條ニ所謂僞テ禁止アル公權ノ一部又ハ數多ヲ行フ者云々トアルニ相當シ犯人ニ詐僞ノ行爲アリタルコトヲ意味スル故ニ例之ハ剝奪公權者トシテ別ニ詐僞ノ手段ナク單ニ官廳ノ任命ニ依テ仕官シ又ハ勳章ノ下賜ヲ受ケ或ハ裁判所ニ於テ裁判官ノ命ニ依リ宣誓シテ證人トナリ或ハ市町村長ノ通知ニ依リ議員ノ投票ヲ爲シタルカ如キ何レモ自ラ他ヲ欺罔シ其權ヲ行ヒタルニアラス又自ラ進ンテ公權行使ノ權利ナキコトヲ明言スヘキ法律上ノ義務ニ違犯シタル不作爲ニアラサルカ故ニ本罪ヲ構成セス之ニ反シテ仕官ノ履歷書ニ公權剝奪者タルコトヲ掩蔽シ又ハ裁判所ニ於テ判事ノ訊問ニ對シ公權剝奪者タルコトヲ掩蔽シ嘗テ此ノ如キ處刑ヲ受ケタルコトナシト答ヘ證言ヲ爲シタルカ如キハ何レモ詐欺ノ行爲アリタルカ故ニ本罪ヲ構成スルモノトス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

終リニ本條ノ規定ハ立法論トシテハ之ヲ削除スルヲ至當トス蓋シ公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタル者カ公權ノ執行ヲ望ムハ猶ホ處刑者カ身體ノ自由ヲ希望スルト一般人性ノ至情ニシテ之ヲ制止スルニ刑罰ト謂フ制裁ヲ以テスルハ難キヲ人ニ強ユルモノニシテ刑罰ノ目的ニ適合セサルヤ論ヲ待タサル所ナリ故ニ宜シク國家ハ自カラ此等ノ處刑者ヲ監視シ此等附加刑ノ執行ヲ遁ルヽモノナキコトヲ務ムルニ止メサルヘカラス

第二項　第百五十五條ノ罪

刑法第百五十五條ニ曰ク〔監視ニ附セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス〕即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯罪ノ主體ハ監視ニ附セラレタル者タルコト

第二、其規則ニ違背シタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　監視ニ附セラレタル者タルコトヲ要ス

監視ニハ普通監視及ヒ特別監視ノ二種アリ

(一)　普通監視トハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニ對シ又ハ輕罪ノ刑ニ處セラルヽモノニシテ各本條特ニ記載アル場合ニ限リ科スル所ノ附加刑ノ一種ナリ（本法第三十七條乃至第四十條參照）

(二)　特別監視トハ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者カ假出獄ヲ許サレタル場合ニ於テ本刑ノ期限內特別ニ科スル所ノ監視ナリ而シテ特別被監視人ノ遵奉スヘキ規則ハ普通被監視人ノ遵奉スヘキ規則ト異ナル所アリ（刑法附則第四十四條第二十七條參照）

法文ニハ單ニ監視トアリテ普通監視タルコトヲ區別セサルカ故ニ二者何レヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス一部ノ論者ハ曰ク〔我刑法ノ用例上特別監視ニ付テハ常ニ特別ト謂フ文字ヲ冠スルト本節ノ表題ニハ別加刑ノ執行ヲ遁ルヽモノトアリテ特別監視ハ別加刑ノ一種ニアラサルヲ以テ本條ニ監視トアルハ特別監視ヲ包含セサルモノナリト解セサルヘカラスト〕然レトモ我現行刑法ノ表題ハ論者カ主張スルカ如ク常ニ必スシモ各條規定ノ事實ヲ網羅スルニアラサルト若シ本條ノ監視ナル語ノ中ニ特別監視ヲ包含セス

トセハ刑法附則中特別監視ニ關スル第四十三條第四十四條ノ規定ハ全ク無制裁トナリテ共ニ同一ノ目的ニ出テタル監視ニシテ獨リ普通監視規則ノミカ刑罰ナル制裁ヲ以テ勵行セラルヽニ止マリ其權衡ヲ失スル言ヲ俟タサルナリ以上ノ理由ニヨリ本條ノ監視ナル語中ニハ特別監視ヲモ包含スルモノト解スヘキナリ

第二要件　其規則ニ違背シタルコトヲ要ス

其監視者ノ遵奉スヘキ規則ハ刑法附則ニ於テ之ヲ定ム普通監視ニ付テハ同法第二十五條、第二十七條、第三十條第二項ニ特別監視ニ付テハ同法第四十四條ニ規定スル所ナリ

監視規則中被監視人ニ作爲ヲ命シタル塲合ニ於テ被監視人カ其作爲ヲ怠リタル塲合ニ於ケル犯罪地ハ法律カ其作爲ノ履行ヲ要求シタル塲所ニ存スルモノトス換言スレハ監視規則違犯ト謂フ現象ノ發生シタル塲所ヲ以テ犯罪地トス故ニ例之ハ刑法附則第三十條第二項ノ規定ニ反シテ乙地ニ旅行シタル被監視人カ旅行期限内ニ監視執行地タル甲地ニ歸リ來ラサル塲合ニ於テハ其監視規則違犯ノ犯罪地ハ乙地ニアラスシテ甲地ニアリトス

本罪ヲ犯シタルモノハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

同法第百五十六條ニ曰ク「前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス」ト本條ハ法文ニ明示スルカ如ク剝奪公權停止公權又ハ監視ノ同一刑期内ニ於テ同一ノ罪カ犯サレタルトキニ限リ再犯ヲ以テ論スヘキモノニシテ其以外ノ犯罪ニ對シテハ再犯加重ノ理由トナラサルモノト論スルヲ至當トス

終リニ一言スヘキハ監視ノ規定タルヤ再犯豫防ノ手段トシテ固ヨリ必要ナリト雖モ其監視ノ方法カ嚴密ニ過クルトキハ受刑者ハ過度ナル自由束縛ノ爲メ營業ノ自由ヲ失ヒ官廳ノ嚴格ナル監視ニ依リ世人ヨリハ刑餘ノ人トシテ常ニ嫌忌セラルヽノ結果遂ニ生計ノ途ヲ失ヒ止ムヲ得ス再ヒ罪ヲ犯スニ至リ却テ監視ノ目的ニ反スル害惡ヲ生スヘキヲ以テ立法者ハ宜シク此點ニ鑑ミ之レカ監視ノ方法ハ寬嚴宜シキヲ得サルヘカラス而シテ本罪モ亦前條第百五十四條ノ罪ト同シク之ヲ處罰スルコトハ刑罰ノ目的ニ適合セサルヲ以テ立法論トシテハ本條ヲ削除

シ國家ハ自カラ行政處分ニ依リ違犯者ヲ出サヽルコトヲ務ムルニ止トメサルヘカラス

第五節　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

本節ノ規定ヲ設ケタル理由ハ蓋シ民間ニ於テ自由ニ軍用ノ銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造、輸入、販賣若クハ所持セシムルトキハ其供給ヲ仰キテ暴動又ハ內亂アルニ際シテ賊ノ戰鬪力ヲ強大ニシ官軍ノ戰鬪力ニ至大ノ妨害ヲ與フルノ危險アルヲ以テナリ

刑法第百五十七條ニ曰ク「官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ」前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」

同法第百六十條ニ曰ク「第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」即チ之カ構成條件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得サルコト

第二、陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造輸入販賣若クハ所有スルコトヲ要ス

第三、製造、輸入、販賣若クハ所有スルコトヲ要ス

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得サルコトヲ要ス

官カ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造輸入販賣若クハ所有スルコトヲ一私人ニ委任シ又ハ許可スルニ付テハ明治三十二年法律第八號銃砲火藥類取締法同施行規則同施行細則ニ規定セルヲ以テ參照スヘキナリ

第二要件　陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品タルコトヲ要ス

此等ノ物件カ果シテ陸海軍ノ用ニ供スルモノト同質ノモノナリヤ否ヤハ各場合ニ於テ決スヘキ事實問題ナリ（但シ軍用ノ銃砲ニ付テハ明治三十二年八月陸軍海軍兩省告示參照）

銃砲火藥類取締法明治十七年布告第三十二號爆發物取締罰則ヲ參照スヘシ

第三要件　製造、輸入販賣若クハ所有シタルコトヲ要ス

法文ニ販賣トアルハ廣義ニ解スヘク單ニ商品トシテ賣買スル塲合ニノミ限ルヘキニアラサルナリ所有トアルハ所持ノ塲合ヲモ包含スルコト勿論ナリトス」

強竊盜、詐欺取財ニ依テ此等ノ物件ヲ所持スルモノハ强竊盜又ハ詐欺取財ノ罪ト本罪トノ數罪俱發ヲ以テ論スヘキヤ否ヤニ付テハ議論アル處ナリト雖モ以上ノ各罪ト本罪トハ各法律カ保護スル利益ヲ異ニシ且ツ本罪ヲ以上ノ罪ノ內ニ吸收セシムル規定ナキヲ以テ此塲合ニハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノト信ス

同法第百五十八條ニ曰ク「前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス」本條ヲ一見スルトキハ正犯ノ使令ニ供シタルモノ云々トアルヲ以テ本條ノ罪ハ前條ノ罪ノ從犯タルカ如キ觀アリト雖モ其實本條ノ罪ハ前條ノ罪ノ從犯ニアラスシテ一個ノ正犯ナリトス何トナレハ本條ノ規定スル職工雇人ハ何レモ前條第百五十七條ノ罪ノ實行々爲ニ加效シタルモノニシテ其行動カ他ノ正犯ノ使令指圖ニ依ルト否トノ差異アルノミナリ而シテ本條特ニ之カ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ本條ハ總則正犯ノ例外ヲ示

シタルモノニシテ此等ノ職工雇人ハ正犯タルニ相違ナキモ他ノ正犯者ノ使令ニ基キ行動スルモノニシテ其目的ハ多クハ單ニ賃銀ヲ得ントスルニアルモノナレハ其背德加害ノ程度ハ使令者タル正犯ニ比シテハ稍〻輕キモノト謂ハサルヘカラス從テ其責任ニ付テモ總則正犯ノ例ニ依ラス特ニ例外規定ヲ設ケテ各本刑ニ二等ヲ減スルコトヽナシタルナリ要之何レモ正犯タルヲ失ハサルカ故ニ之ヲ幇助スルモノハ總則從犯ノ倒ニ照シ本條ノ刑ヨリ更ニ一等ヲ減シテ處斷スヘキモノトス

終リニ注意スヘキハ前條及ヒ本條ノ罪ハ他ノ犯罪ニ吸收セラルヽ傷合アルコト是ナリ今其塲合ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、第百二十五條ニ兵隊ヲ招募シ又ハ兵器、金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ云々」ト規定シ第百三十三條ニ「外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタルモノハ云々其豫備ニ止マルモノハ云々」ト規定シアルヲ以テ此等豫備犯タル所爲ノ中ニハ軍用ノ銃礮彈藥等ヲ製造輸入所持スルコトヲ法律上吸收シタルコト明ラカナルヲ以テ本節ノ犯罪行爲ニシテ

若シ此等ノ犯罪ノ目的ニ出テタルトキハ本節ノ犯罪行爲ハ此等犯罪中ニ吸收セラルヽモノトス

第二、破裂質ノ物品中特ニ棉火藥「ナイトログリセラン、ダイナマイト」雷汞ノ如キ爆發物ヲ製造、輸入、所持又ハ注文ヲナシタル者ノ目的カ治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルニ在ルトキハ明治十七年十二月布告第三十二號爆發物取締罰則第三條ニ依リ重懲役ニ處セラルヘク又此ノ如キ目的ニ在ラサルコトヲ證明スル能ハサルトキハ同罰則第六條ニ依リ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加セラルルモノトス

本節ノ罪ノ處分方法ニ付テハ以上述フル所ノ外更ニ說明ノ必要ナキヲ以テ之ヲ省略ス唯注意スヘキハ本節ノ罪ハ未遂ト雖モ之ヲ處罰シ（本法第百六條參照）是レ總則第四十四條ノ例外ナリト條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供スヘキモノハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ官ニ沒收ス（本法第百五十一條參照）第百五十七ス次ニ第百五十七條ニ記載スル物件ハ第百六十條ニ於テ之カ私有ヲ禁止スルヲ以テ總則第四十三條第一號ニ所謂法律ニ於テ禁制シタル物件ニ相當ス從テ第四十四條ニ依リ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス可キモノナリ

第六節　往來通信ヲ妨害スル罪

往來通信ノ便不便ハ一國政治上經濟上又ハ社交上至大ノ關係ヲ有シ之カ機關ハ實ニ文明ノ最大利器タルコト敢テ多言ヲ要セス從テ之カ妨害ヲ試ミルモノハ社會ニ對スル背德加害ノ點又大ナリト謂フヘシ故ニ國家ハ此等ノ所爲ニ對シテ刑罰ナル制裁ヲ附シ依テ以テ之カ便益ヲ保護セサルヘカラス是レ本節ノ設ケアル所以ナリトス本節ハ公ノ目的即チ公衆若クハ國家ノ使用又ハ利用ニ供セラレタル往來、通信ノ機關ヲ保護スルモノニシテ其機關ノ布設者カ一私人タルト國家タルトハ問フ所ニアラサルナリ

第一款　往來ヲ妨害スル罪

本節ニ規定スル犯罪中往來ヲ妨害スル罪ニ該ルモノハ刑法第百六十二條ノ道路橋梁等ヲ損壞スル場合同法第百六十五條ノ瀧車ヲ妨害スル場合同法第百六十六條ノ船舶ヲ妨害スル場合是レナリ

第一項　道路橋梁等ヲ損壞スル罪

刑法第百六十二條ニ曰ク[道路、橋梁、河溝、港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス]即チ本罪ノ成立要素ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、犯罪ノ目的體ハ道路、橋梁、河溝、又ハ港埠ノ一タルコト

第二、損壞ノ所爲ヲ以テ往來妨害ノ手段ニ充テタルコト

第三、往來ヲ妨害シタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　道路、橋梁、河溝、港埠ノ一タルコトヲ要ス

法文ニハ道路、橋梁、河溝、港埠ト制限的ニ列記セラレタルヲ以テ此等以外ノ場所ニ關スルトキハ之ヲ處罰スルコトヲ得ス然レトモ立法論トシテハ此等以外ノ場所ト雖モ之ヲ損壞シテ往來ノ妨害ヲ爲ス時ハ之ヲ處罰スルノ必要ハ此等列記ノ場所ニ關スル場合ト毫モ異ルコトナシ例ヘハ渡船場ノ蹈板或ハ足場ヲ損壞スルカ如キ是レナリ

第二要件　損壞ノ所爲ヲ以テ手段ニ充テタル場合ナラサルヘカラス

損壞ノ意義ニ付テハ一ハ物ノ實質ヲ害スルコトニ依テ物ノ一定ノ用方ヲ全部又ハ一部不能ナラシムルコトヲ意味スト他ノ一ハ損壞ハ物ノ實質ヲ害シ(毀壞)又ハ害スルコトナク(毀損)シテ物カ一定ノ用方ニ應スルノ能力ヲ害スルコトヲ意味シ從テ道路河溝ニ岩石木竹ヲ横タヘ其他危險物ヲ堆積シテ往來ノ機關タル作用ヲ妨クル場合ヲモ包含ストノ說アリ余輩ハ後說ヲ贊ス

損壞ハ物カ一定ノ用方ニ應スルノ能力ヲ害スルコトヲ要スルカ故ニ詐欺ノ揭示又ハ言語ニ依テ往來ヲ妨クルコトアルモ損壞ト云フコトヲ得ス從テ本罪ヲ構成セス

第三要件　往來ヲ妨害シタルコト

[往來ヲ妨害シタルモノ]トノ意義ニ付テハ一ハ實際往來妨害ノ禍ヲ受ケタルモノアルコトヲ要ストノ說ト他ノ一ハ道路其他ノ交通機關ヲシテ其作用ノ全部又ハ一部ヲ不能ナラシメタルコトヲ以テ足レリトシ之カ爲メ現實ニ禍ヲ受ケタルモノアルコトヲ必要トセストノ說アリ余輩ハ後說ニ贊ス

終リニ犯意ニ付テ一言スレハ本罪ノ構成ニハ第百六十五條第百六十六條ノ罪ノ

如ク特ニ往來ヲ妨害スルノ目的アルコトヲ要セス第一要件タル事實ヲ知リ損壞ノ結果往來ノ妨害トナルヘキ現象ヲ呈スヘキコトヲ豫見シタルヲ以テ足レリトス

第二項　瀧車ノ往來ヲ妨害スル罪

刑法第百六十五條ニ曰ク〔瀧車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス〕ト即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、瀧車ノ往來ヲ妨害スル目的(遠因)ニ出テタルコト

第二、鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　瀧車ノ往來ヲ害スル目的ニ出テタルコトヲ要ス

(一)法文ニハ瀧車ノ往來ヲ妨害スル爲メ云々トアルヲ以テ犯人ニ於テ特ニ瀧車ノ往來ヲ妨害スルト謂フ希望アルコトヲ要ス是レ前項ノ犯罪ト其意思ノ點ニ於テ大ニ相違スル所ナリトス從ツテ假令第二要件記載ノ所爲アリタリト雖モ犯人ニ於テ往來妨害ノ發生ヲ希望シタルニアラサルトキ例之ハ單ニ疏水ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ破壞スルカ如キハ到底本罪ヲ構成セサルモノトス然レトモ苟クモ瀧車ノ往來ヲ妨害スル目的ニ出テタル以上ハ其目的ノ源因如何ハ問フ所ニアラサルナリ例ヘハ瀧車會社ニ損失ヲ與フル目的ニ出テタルト又ハ自己ノ營業ヲ隆盛ナラシムル目的ニ出テタルト否トヲ問ハス苟クモ意思實行ノ源因カ往來妨害ヲ希望スルニアルヲ以テ足レリトス次ニ立法論トシテハ本罪ニ限リ前項ノ罪ト異リ犯人ニ於テ往來妨害ヲ希望スト云フ特別ノ意思アルコトヲ必要トスルノ理由ナキノミナラス此ノ如キ特別ノ希望ヲ必要トスルハ極メテ不當ナリト云ハサルヘカラス

(二)瀧車トハ蒸瀧力ノ作用ニ依テ一定ノ軌道ノ上ヲ往來スルモノニシテ電氣ノ作用ニ依ル電車ヲ包含セサルヤ明ラカナリトス但シ法ノ解釋論トシテハ止ムヲ得スト雖モ立法論トシテハ電車ニ付テモ同樣ノ規定ヲ設クル必要アリ

第二要件　鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタルコトヲ要ス

次條第百六十六條船舶ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付テハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル

モノハトアルニ反シ本條ニハ此ノ如キ明文ナキヲ以テ鐵道ニ關シ詐僞ノ標識ヲ點示シタルトキハ本條ヲ以テ處罰スルコトヲ得ルヤ否ヤト謂フニ法文ニ所謂其他危險ナル障礙トハ汎ク瀕車ノ往來ヲ妨害スルノ危險ヲ生スル總テノ手段方法ヲ指示スルモノニシテ苟クモ詐僞ノ標識ヲ爲シタル爲メ此危險ヲ生シタル以上ハ本條ヲ以テ處罰スヘキモノトス次ニ法文ニ所謂危險トハ犯人ノ採リタル手段方法カ瀕車ノ往來妨害ト云フ結果ヲ發生セシムルニ多分適當スル如ク見ユル狀態ヲ云フ而シテ其果シテ結果ヲ發生セシムルニ適當スルヤ否ヤハ各場合ニ於テ實際其行爲ノ行ハレタル當時ノ狀況ニ依テ判定スヘク且ツ其狀況ナルモノハ當時一般ノ人カ認識シ得ヘキ若クハ犯人ニ於テ現ニ認識シタル狀況ノ下ニ判斷スヘキモノトス

猶ホ鐵道ニ關スル犯罪ニ付テハ刑法第百六十五條ノ外ニ明治三十三年三月法律第六十五號鐵道營業法第二十四條以下ヲ參照スヘシ

刑法第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀕車ヲ顚覆シ又ハ船舶ヲ覆沒シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス」即チ本罪ニ付テ犯意ノ有無ニ關セス成立スルナリ

第三項　船舶ノ往來ヲ妨害スル罪

刑法第百六十六條ニ曰ク「船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタルコト」

以上ノ要件中第一要件ニ付キ說明シタル所ト異ナル所ナキヲ以テ省略ス本條ニ於テモ往來ヲ妨害スト謂フ特別ノ希望ヲ必要トシタルハ現行法ノ欠點ナリトス第二要件中法文ニハ航。海。ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ云々ト在リテ廣ク航行ト記載セサリシカ故ニ本條ハ海上ニ於ケル船舶ノ往來ニ付テノミ適用アルモノト解セサルヘカラス（立法論トシテハ汎ク船舶往來ノ危險ヲ生セシメタル場合ニ付キ規定スル

（必要アリ）

同法第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ヲ顚覆シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス（本法第百六十九條參照）

猶ホ船舶ノ往來ヲ妨害スルノ意ナクシテ航路標識又ハ水路測量標識ヲ損壞スル所爲ニ付テハ明治二十一年十月勅令第六十七號航路標識條例及ヒ明治二十三年五月第三十八號法律水路測量標識條例ニ罰則ヲ規定シアルヲ以テ參照スヘシ

第二款　通信ヲ妨害スル罪

本節ノ犯罪中通信ノ妨害ニ關スルモノハ刑法第百六十三條及ヒ第百六十四條ノ二條ナリトス

第一項　郵便ヲ妨害スル罪

刑法第百六十三條ニ曰ク（僞計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ）即チ本罪ノ構成要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、僞計又ハ威力ヲ用ヒタルコト

第二、郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　僞計又ハ威力ヲ用ヒタルコトヲ要ス

僞計トハ例ヘハ道路破壞セリ橋梁流失セリ通行スルコト能ハス杯ト詐僞ノ言語ヲ吐キテ以テ郵便脚夫ヲシテ迂路ヲ取ラシムルカ如キヲ云ヒ威力トハ暴行脅迫ヲ以テ郵便脚夫ノ通行ヲ妨ケ以テ郵便事務ヲシテ遲延澁滯セシムルカ如キヲ云フ而シテ爰ニ所謂暴行トハ人及ヒ物ニ對スル總テノ不法ノ體力ヲ意味スルカ故ニ郵便馬車ヲ顚覆シ又ハ郵便函ヲ毀壞シテ以テ郵便ノ妨害ヲ爲シタル場合ニ於テモ本罪ヲ構成スルモノトス

第二要件ニ付テハ別ニ說明スルノ必要ヲ認メサルヲ以テ之ヲ省略ス唯注意スヘキハ郵便ヲ妨害シ若クハ阻止シトハ郵便ノ機關ニ對シ其作用ノ一部又ハ全部ヲ妨クルヲ謂フ

本罪ノ成立ニ付テハ犯人ニ於テ特ニ郵便ヲ妨害スルノ希望ヲ有スルコトヲ要セス唯此等ノ結果カ自己ノ行爲ヨリ發生スヘキコトヲ豫見シナカラ之ヲ決行スレハ足レリトス而シテ其決行ノ遠因如何ハ問フ處ニアラス故ニ例ヘハ郵便馬車ノ

爲メニ泥土ヲ懸ケラレタルヲ憤リ馭者ノ過失ヲ咎メント欲シテ暴力ヲ以テ之ヲ引止ムルカ如キモ又本罪ヲ構成スルモノトス但シ正權限ニ基ク行爲ハ犯罪ヲ構成セサルヲ以テ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯人タル郵便脚夫ヲ逮捕シタルカ如キハ本罪ヲ構成セサルモノトス

猶ホ郵便ニ關スル犯罪ニ付テハ明治三十三年三月法律第五十四號郵便法及ヒ郵便條例第十二章及ヒ第二百四十二號以下參照

第二項　電信ヲ妨害スル罪

刑法第百六十四條ニ曰ク「電信ノ器械柱本ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタルモノハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス」

本條ハ前條ニ反シテ其電信妨害ノ手段ハ電信器具ヲ破壞シタルニ止マリ前條ノ如ク汎ク僞計又ハ威力ヲ用ヒテ電信妨害ノ手段トスル場合ヲ規定セサルハ欠點ナリトス其他前項ニ於テ說明シタル所ト大差ナキヲ以テ省略ス

刑罰ニ付テハ現ニ電信ヲ不通ニナシタル場合ト然ラサル場合トヲ區別シ刑ノ重輕ヲ異セリ

竊盜ノ目的ヲ以テ電信ノ條線ヲ切斷シ之ヲ處分シタルトキハ竊盜罪ト本罪トノ刑ヲ比照シ重キニ從テ處斷スヘキ一罪ナリトス

電信ニ關スル犯罪ニ付テハ明治三十三年法律第五十九號電信法ノ規定アリ特ニ同法第三十七條ニ依リ本條ノ規定ハ暗默ニ廢止セラレタルモノト謂フヘキナリ」

電話ニ付テハ刑法ニ何等規定スル所ナシト雖モ電信法ニ於テ之カ罰則ヲ受ケタリ

第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪

刑法第百七十一條ニ曰ク「晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一、門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入リタル時

二、兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シテ入リタル時

三、暴行ヲ爲シテ入リタル時

四、二人以上ニテ入リタル時

同法第百七十二條ニ曰ク「夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ一年以上ノ重禁錮ニ處ス若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ」

同法第百七十三條ニ曰ク「故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所及ヒ皇陵內ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ」

即チ本節規定スル所ノ罪ノ構成要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一、侵入ノ所爲アルコト

第二、法律ノ列記シタル場所ニ限ルコト

第三、故ナクシテ侵入シタルコト

第四、故ナクシテ侵入スルノ意思アルコト

以上各要件ヲ說明スレハ左ノ如シ

第一要件　侵入ノ所爲アルコト

法文ニハ單ニ入リタルモノトアリテ一旦正權限ニ依リ邸宅其他ノ場所ニ入リタルノ後ニ於テ管理權者ノ督促アルニモ拘ラス尙ホ止マリテ去ラサル場合ヲ規定セサルカ故ニ此場合ハ解釋論トシテハ不問ニ付セサルヘカラス然レトモ管理權者ノ意思ニ反シテ侵入スルト其督促ニ應セスシテ尙ホ止マルトハ邸宅其他ノ場所ノ平和ヲ破ル點ニ於テ差異ナキヲ以テ後ノ場合モ前ノ場合ト等シク之ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケサルヘカラス是レ現行刑法ノ欠點ナリトス

第二要件　法律カ列記シタル場所ニ限ルコト

刑法ハ第百七十一條乃至第百七十三條ニ於テ本罪ノ目的トナスヘキ場所ヲ限定セリ即チ左ノ如シ

一、人ノ住居シタル邸宅

人ノ住居シタル邸宅トハ場所ヲ區分スルト否ト又ハ一時タルト永久タルトヲ問ハス苟モ人間カ秩序アル夜間ノ安眠ヲ取ル爲メニ供セラレタル建造物及ヒ之ヲ圍繞スル外圍ノ保障物以內ノ地域ヲ包含ス（本法第三百六十八條參照）而シテ苟モ住居ニ供セラレタルモノタル以上ハ假令犯人侵入ノ當時ニ於テ偶〻邸宅內ニ人ノ存

在セサルコトアルモ本罪ヲ構成スルニ欠クル所ナシ反之若シ住居ニ供セラレタルモノニアラサル時ハ侵入ノ當時偶〻人ノ存在スルコトアルモ本罪ヲ構成セサルモノトス例之ハ偶〻空家ノ家主カ來合セタルニ際シ又ハ空屋修繕ノ爲メ大工左官等カ來合セタルニ際シ他人カ之ニ侵入スルモ本罪ヲ構成セス但シ違警罪ヲ構成スルコトアルヘシ(本法第四百二十一號參照)次ニ苟モ建造物内タル以上ハ其庭園ニ侵入スルモ亦本罪ヲ構成スルモノトス而シテ法律ハ邸宅ト謂ヒテ船舶ニ付テハ規定セサルカ故ニ人ノ住居スル船舶内ニ侵入スルモ罪トナラス等シク人ノ住居ニシテ船舶ニ限リ法律カ住居平和ノ保護ヲ與ヘサルハ現行刑法ノ欠點ナリト謂ハサルヘカラス

二、人ノ看守シタル建造物

人ノ看守シタル建造物トハ人ノ住居シタル邸宅以外ノ建造物(例ヘハ學校、博物館、劇場、官衙ノ類)ニシテ人ノ看守スルモノヲ謂ヒ公ノモノタルト私ノモノタルトヲ問ハサルナリ(建造物ノ竊盜罪說明參照ニ付テ)

三、皇居、禁苑、離宮、行在所及ヒ皇陵

皇陵トハ天皇ノ御墳墓ニ限ルコトハ既ニ說明シタル所ニシテ其他ハ說明スルヲ要セサルヲ以テ之ヲ省略ス

第三要件　故ナクシテ入リタルコトヲ要ス

法文ニ故ナクシテトアルハ邸宅其他ノ場所ノ管理權者ノ意思ニ反シテト謂フノ義ナリ但シ別ニ法律ニ於テ之カ侵入權ヲ認メラレタルトキハ此限リニアラス例ヘハ豫審判事ノ家宅捜索權、令狀執行、巡査ノ家宅侵入權其他司法又ハ行政警察處分トシテ一定ノ場合ニ於テ官吏公吏ニ家宅侵入ノ權限ヲ認メタル場合多シ而シテ苟モ此管理權者ノ意思ニ反シテ邸宅其他ノ場所ニ侵入シタルトキハ直ニ本罪ヲ構成シ其侵入ノ遠因如何ニ付テハ敢テ問フトコロニアラス蓋シ刑法カ本罪ヲ認メタル立法ノ主旨ハ邸宅其他ノ場所ニ於ケル管理權者ノ自由ナル管理權ヲ確保スルモノニシテ專ラ在住者ノ身體又ハ財產ヲ保護スルノ主旨ニアラサルヲ以テ苟クモ管理權者ノ意思ニ反シ又ハ權限ナクシテ之ニ侵入シ以テ其管理權ヲ侵害スル以上ハ即チ本罪ヲ構成スルモノトス故ニ例ヘハ一時ノ睡眠ヲ取ル爲ニ無斷ニテ他人ノ住宅ニ侵入スルカ如キ或ハ强ヒテ談話ヲ

求ムル爲メ家内ニ侵入スルカ如キ何レモ他ニ罪ヲ犯スノ目的ナシト雖モ本罪ヲ構成スルモノトス

以上述フルカ如ク本罪ノ構成ニハ邸宅其他ノ場所ノ管理權ヲ侵害スルコトヲ要スルカ故ニ苟モ其管理權者ノ承諾ヲ得タルトキハ管理權ノ侵害ト云フ事實ナク從ツテ本罪ヲ構成セサルモノトス故ニ今左ニ如何ナル者カ此等管理權ヲ有スルカヲ說明セント欲ス

人ノ住居シタル邸宅ニ付テハ其邸宅ノ主宰者又ハ其代理人若シ邸宅内ノ各室カ特定ノ各人ニ別々ニ供給セラレタルトキハ其特別ノ人々例ヘハ旅人宿ニ於テ各旅客ニ供給セラレタル各室又ハ大家ニ於テ書生房屋、下婢房屋ト區別スルカ如キ又ハ家庭教師ノ爲メニ特ニ供給セラレタル房屋ノ如キハ此等旅客、下婢書生、教師ノ承諾ヲ得ルトキハ假令家ノ主宰者ノ承諾ヲ得サルモ本罪ヲ構成セス若シ多クノ住居者ニ依テ同一ノ玄關又ハ階子段、庭園等カ共同ニ使用セラルルトキハ各人ハ他ヲ害スルコトナクシテ互ニ之カ管理權ヲ有ス（下宿旅人宿等ニ於テ多ク見ル例）人ノ看守シタル建造物其他ノ場合ニ付テモ推シテ知ルヘキナリ（故ニ從來ニ論爭スル一ノ問題タル遊野郎カ他家ノ下婢ニ情ヲ通シ夜間陰ニ下婢ノ房屋ニ至リタルカ如キ若シ豫メ下婢ノ承諾アリタルトキハ本罪ヲ構成セサルモノト論斷セサルヘカラス）

第四要件　故ナクシテ侵入スルノ意思アルコトヲ要ス

管理權者ノ意思ニ反シ侵入シタリトシテ處罰セラルヽニハ管理權者ニ於テ明示又ハ暗默ニ侵入ヲ禁スルノ意思ヲ發表シ而カモ侵入者ニ於テ其禁止ノ意思ヲ覺知シ得ヘク且ツ之ヲ覺知シタルニ拘ハラス之ニ侵入シタルコトヲ要ス而シテ普通ノ人家ニ於テハ玄關迄ハ何人モ此ニ入ルコトヲ禁セラレサルヲ以テ（默示ノ許諾）特ニ門内立チ入ル可カラストノ禁止ノ揭示アルカ又ハ其他ノ方法ニ依リ特ニ之ヲ禁止スルコトヲ明ラカニシ且ツ侵入者ニ於テ之ヲ覺知スル場合ニアラサレハ之ヲ處罰セサルモノトス其他各場合ニ付テ右ノ原則ヲ適用スレハ大ニ氷解スル所アルヘキナリ

本節ノ罪ノ處分　本節ノ罪ニ付テハ法律ハ三個ノ場合ヲ區別シテ其處分法ヲ規定セリ

（一）侵入シタル場所ニ因テ刑罰ヲ異ニス即チ私人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看

守シタル建造物ニ入リタル場合ニ在テハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スルモ皇居、禁苑、離宮、行在所及ヒ皇陵内ニ入リタル場合ニ於テハ一等ヲ加フ

(二) 侵入ノ時期ノ夜間タルト晝間タルトニ因テ刑罰ヲ異ニス晝間人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處セラルヽモ夜間ニ在テハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處セラルヽモノトス而シテ晝間ト夜間トハ通俗ノ意味ニ故ケル日出後日沒前ニ依テ區別スヘキ事實問題ナリトス

(三) 侵入ノ際左ノ事情ノ伴フモノハ一等ヲ加フ

(イ) 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入リタルトキ

踰越トハ立法ノ主旨ニ鑑ミ單ニ踰ユルノ場合ノミナラス潛ル場合ヲモ之ヲ包含スルモノト一般ニ解釋セリ又鎖鑰ニ付テモ廣ク戸締ト解シ錠前ニ限ラサルヲ以テ現行一般ノ解釋トス

(ロ) 兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シテ入リタルトキ

兇器トハ攻撃防禦ノ方法トシテ人ノ生命若クハ身體ヲ毀傷スル爲メニ製造セラレ且ツ之カ目的ニ適合スル所ノ器具ヲ總稱スル例ヘハ刀劍銃砲、鎗ノ如キ是ナリ(性質上ノ兇器トモ稱ス)而シテ兇器携帶ノ故ヲ以テ特ニ其刑ヲ加重スル理由ハ犯人ニ於テ容易ニ之ヲ使用シ得ルノ危險アルヲ以テナリ左レハ犯人ニ於テ豫メ之ヲ使用スルノ意思アルト否トニ關セス苟モ犯人ニ於テ此等兇器ヲ携帶スルノ事實ヲ覺知スレハ足ルモノトス且ツ被害者ニ於テ之カ事實ヲ知ルト否トハ問フ所ニアラサルナリ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品トハ第三編以下ニ規定スル身體又ハ財産ニ對スル罪ヲ犯スノ用ニ供スルノ目的ニ出テ且ツ其目的ニ適合スル所ノ物品ヲ云フ

(ハ) 暴行ヲ爲シテ入リタルトキ

暴行トハ直接又ハ間接ニ人ニ對スル不法ノ體力ナルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ

(ニ) 二人以上ニテ入リタルトキ

此場合ニ於ケル刑罰加重ノ理由ハ二人以上共力スルトキハ侵入ニ容易ナルカ故ナリ從テ彼ノ嬰兒ノ如キ到底共力ノ效果ヲ奏セサルモノハ此二人以上ニハ入ラス